

官報

號外

大正十五年三月三日 水曜日

內閣印刷局

○第五十一回衆議院議事速記録第二十三號

大正十五年三月二日(火曜日)午後一時十七分開議

議事日程 第二十二號

大正十五年三月二日

午後一時開議

一 株式取引所取締ニ關スル質問(中山貞雄君提出)

二 網紀正ニ關スル質問(藤澤萬九郎君外一名提出)

三 肥料政策ニ關スル質問(土井權大君提出)

四 婦人參政ニ關スル質問(松本君平君提出)

第一 郵便年金法案(政府提出) 第一讀會

第二 郵便年金特別會計法案(政府提出) 第一讀會

第三 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第四 大正十四年法律第三十五號中改正法律案(日本銀行ノ手形割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第六 商事調停法案(政府提出) 第一讀會

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第八 大正十二年勅令第四百五號廢止法律案(暴利取締令廢止ノ件)(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十 健康保險法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十一 健康保險特別會計法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(鳩山一郎君外八名提出) 第一讀會

第十三 漁業法中改正法律案(谷原公君外二名提出) 第一讀會

第十四 民事訴訟法中改正法律案(谷原公君外一名提出) 第一讀會

第十五 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(望月圭介君外二名提出) 第一讀會

第十六 治安警察法中改正法律案(清瀨一郎君外一名提出) 第一讀會

第十七 漁業財團抵當法中改正法律案(中村嘉壽君提出) 第一讀會

第十八 治安警察法中改正法律案(安藤正純君外三名提出) 第一讀會

第十九 寺院現境内地無償下戻ニ關スル法律案(安藤正純君外四名提出) 第一讀會

第二十 寺院現境内地無償下戻ニ關スル法律案(福井甚三君外四名提出) 第一讀會

第二十一 古社寺保存法中改正法律案(田中万逸君外四名提出) 第一讀會

第二十二 會計検査院法中改正法律案(武藤山治君外一名提出) 第一讀會

第二十三 牧野法案(八田宗吉君提出) 第一讀會

第二十四 造林助成法案(東武君外十名提出) 第一讀會

第二十五 違警罪即決例中改正法律案(橫山勝太郎君提出) 第一讀會

第二十六 家祿引直處分法案(隅田豐吉君外五名提出) 第一讀會

第二十七 北海道拓殖銀行法中改正法律案(小池仁郎君外四名提出) 第一讀會

第二十八 日本勸業銀行法中改正法律案(小池仁郎君外四名提出) 第一讀會

第二十九 農工銀行法中改正法律案(小池仁郎君外四名提出) 第一讀會

第三十 移住組合法案(樋口秀雄君外七名提出) 第一讀會

第三十一 煙草專賣法中改正法律案(森格君外九名提出) 第一讀會

第三十二 部落問題ノ國策樹立ニ關スル建議案(有馬賴寧君外十二名提出)

○議長(粕谷義三君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔書記官朗讀〕

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

郵便年金法案

郵便年金特別會計法案

大正十四年法律第三十五號中改正法律案

(日本銀行ノ手形割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル件)

商事調停法案

大正十三年度第一豫備金支出ノ件

大正十三年度特別會計第一豫備金支出ノ件

大正十四年度第二豫備金支出ノ件

大正十四年度豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件

大正十四年度特別會計第二豫備金支出ノ件

大正十四年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

臨時軍事費特別會計豫備費支出ノ件

自大正六年二月二十六日臨時軍事費特別會計豫備費外ニ於テ豫算超過支出ノ件

(以上三月一日提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

未成年者飲酒禁止法中改正法律案

提出者 信太儀右衛門君 戶田 由美君

治安警察法中改正法律案

提出者 杉浦 武雄君

田中 善立君 高木益太郎君

武富 濟君

產業組合中央金庫法中改正法律案

提出者 由谷 義治君 谷口源十郎君

山根 儀重君 三好榮次郎君

井下茂十郎君 金光 庸夫君

果物罐詰原料砂糖戻戻稅法案

提出者 中村 嘉壽君 川原 茂輔君

松田 源治君 小橋 一太君

八木 逸郎君 中村啓次郎君

三輪市太郎君 津崎 尚武君

千葉宮次郎君 東郷 實君

松浦五兵衛君 櫻内 幸雄君

金澤陸軍無線電信所移管ニ關スル建議案

提出者 青山 憲三君 米原松雄男君

植原悦二郎君

室蘭區裁判所ニ地方裁判所支部設置ニ關スル建議案

提出者

手代木隆吉君 澤田 利吉君
神部 爲藏君 淺川 浩君
一柳仲次郎君 山本 厚三君
小池 仁郎君

江差上磯間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者

一柳仲次郎君 澤田 利吉君
小池 仁郎君 神部 爲藏君
淺川 浩君 山本 厚三君
手代木隆吉君

美食橋驛設置ニ關スル建議案

提出者 作間 排逸君

新町小海間鐵道建設ニ關スル建議案

提出者

井本 常作君 飯塚春太郎君
木槍三四郎君 生方 大吉君
清水留三郎君

郡山市ニ高等工業學校設置ニ關スル建議案

提出者

栗山 博君 菅村 太事君
比佐 昌平君 佐藤富十郎君
中野 寅吉君

郡山市ニ高等師範學校設置ニ關スル建議案

提出者

栗山 博君 菅村 太事君
比佐 昌平君 佐藤富十郎君
下仁田三反田間鐵道建設ニ關スル建議案

提出者

井本 常作君 飯塚春太郎君
木槍三四郎君 生方 大吉君
清水留三郎君

八鹿町ニ高等蠶絲學校建設ニ關スル建議案

提出者

齋藤 隆夫君 小寺 謙吉君
中馬 興九君 田中 武雄君

野付牛町ニ區裁判所設置ニ關スル建議案

提出者

小池 仁郎君 一柳仲次郎君
山本 厚三君 神部 爲藏君
澤田 利吉君 淺川 浩君
手代木隆吉君

室蘭港ニ海事部出張所設置ニ關スル建議案

提出者

手代木隆吉君 山本 厚三君
神部 爲藏君 淺川 浩君
一柳仲次郎君 澤田 利吉君
小池 仁郎君

横濱港防波堤築造ニ關スル建議案

提出者

戶井 嘉作君 平沼 亮三君
若尾幾太郎君 山宮 藤吉君
小野 重行君 平川松太郎君

家産制度制定ニ關スル建議案

提出者 浦野 謙朗君

一政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ

衆議院議員板野友造君提出華勝炭礦買收ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員松本君平君提出外交方針ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員千葉三郎君提出船舶無線電信施設法實施期日ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員中山貞雄君提出株式取引所取締ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員藤澤萬九郎君外一名提出綱紀肅正ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員土井權大君提出農村振興ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員松本君平君提出外交方針ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員千葉三郎君提出船舶無線電信施設法實施期日ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員中山貞雄君提出株式取引所取締ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員藤澤萬九郎君外一名提出綱紀肅正ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員土井權大君提出肥料政策ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員松本君平君提出婦人參政ニ關スル質問ニ對スル答辯書

華勝炭礦買收ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十五年二月十日

華勝炭礦買收ニ關スル質問主意書

南滿洲鐵道株式會社技師米國人「ダパンボート」氏ヨリ滿鐵社長ヘノ調査報告書

千九百二十四年五月七日ノ報告書華勝炭礦買收及古城子河河心變更ニ關スル部分

「古城子川」河河心變更ハ私ガ(ダパンボート)最初撫順ヲ觀察シタ當時ニ問題

トナツテ居タモノデアル

撫順在任ノ技師ハ此ノ河心變更ノ事業ハ支那政府トノ協商ノ經費(運河地帶買收費)ヲ除クモ事業費ノミデ五十萬圓ヲ要スルトノ見積リデアツタ然シ私

ハ私ノ報告書ニ指摘セル如ク此ノ流心ノ變更ヲ爲サズトモ今後二十年乃至三十年間ハ支障ナク容易ニ撫順ノ事業ハ繼續スルコトガ出來ルと思フ故ニ五十萬圓ニ對シテ年九分トスレバ四萬五千圓トナリ二十年間ニハ九十萬圓トナリ

東即チ南滿洲鐵道株式會社所有ノ地帶ニ於ケル炭量ハ二億萬噸ヲ下ラザルコトヲ信ズルモノデアル故ニ五百萬噸ニ足ラザル石炭ヲ得ントシテ斯クノ如ク巨額ノ資本及利息ヲ支拂フコトハ極メテ無謀ニ屬スルモノデアル現狀ノ儘ニテモ撫順ノ炭坑ハ今後三十年間ハ利用スルコトガ出來ルモノデアル(以下略ス)

以上ノ報告書ニ依テ左ノ質疑ヲ爲ス

一政府ハ本日ノ豫算委員會ニ於テ本員ノ質問ニ對シ古城子河ハ撫順炭坑ノ事業ノ進行ニ依テ河心變更ノ急ニ迫レリト答ヘタルモ僅僅一年半以前ノ權威アル滿鐵技師ノ調査報告ヲ是認シ即チ二十年乃至三十年間ハ河心變更セストモ作業ハ支障ナシトノコトヲ是認シナカラ

一年半後ノ今日河心變更ノ急ニ迫レリトノ答辯ヲ與フルハ世ヲ欺瞞スルモノニシテ本員ハ一層疑感ヲ深フセサルヲ得ス

一滿鐵技師「ダパンボート」氏ノ調査ハ河心變更ニ付テ何等其ノ他ノ出資ヲ認メス五十萬圓ノ事業費ノミデモ溢費ノ甚シキモノト斷定シタルニ拘ラス其ノ爲ニ二十四萬六千圓ノ炭礦買收ノ巨資ヲ投スルモ溢費ニ非スト思惟スルカ如何

一政府ハ買收及河心變更ノ差シ迫レル唯

一ノ理由トシテ炭坑事業ノ進捗ヲ説キ既ニ撫順市街地ノ移轉ヲ爲シテ探炭セムトスルニ至テ居ル事情ヲ述ヘタルモ

華勝炭礦及古城子河ト市街地トハ南北所ヲ異ニシテ居ル探炭事業カ市街地地方面ニ發展スレハスル程古城子河ニ遠サカリテ河心變更ノ必要ハ全然ナクナル

コトナル政府ノ答辯ニ此ノ一大矛盾アルヲ如何ニ説明セムトスルカ

一滿鐵ハ技師「ダパンボート」氏ノ調査報告ヲ採用シ華勝炭礦買收モ否決シアリタルニ拘ラス此ノ點ニ限リ「ダパンボート」氏ノ調査報告ヲ裏切りテ突如トシテ之ヲ買收スルニ至レル理由如何頗ル疑ヒナキ能ハス世ノ疑感ヲ釋ク爲ニ

政府ハ詳細ニ實際ヲ具シテ答辯スヘシ
右及質問候也

大正十五年二月二十三日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 粕谷義三殿

衆議院議員板野友造君提出華勝炭礦買收ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員板野友造君提出華勝炭礦買收ニ關スル質問書ニ對スル各答書

南滿洲鐵道株式會社カ華勝炭礦ヲ買收シタルハ古城子露天堀ノ進行ニ伴ヒ且新設大官屯機車ヤードニ至ル運炭線敷設ノ必要上之ヲ買收シタルモノナリ

一質問者ハ南滿洲鐵道株式會社カ僅々一年半以前權威アル滿鐵技師ダベンボートノ調査報告ヲ是認シ即チ二十年乃至三十年間ハ古城子河心ヲ變更セストモ作業上支障ナシトコトヲ是認シタリト言ヘルモ同社ニ於テ如斯コトヲ是認シタル事實ナシ

一本炭礦ノ買收價格ハ南昌洋行カ本炭礦ニ出資セル金額ヲ標準トシタルモノニシテ古城子河ノ附替ニ依リ滿鐵ハ露天堀採炭ノ輸送上必要ナル運炭線ヲ敷設スルコトヲ得且右河川ノ附替ニ依リテ同社ノ礦區内ニ於ケル石炭約三百萬屯ヲ採掘シ得ルト共ニ新ニ華勝炭礦區内ニ於テ二百萬屯ノ石炭ヲ取得スルニ至レリ

滿鐵カ本礦區買收ノ爲ハ拾四萬六千圓ヲ支出シタルハ決シテ不當ニ非スト認ム

一露天堀ノ進行ニ伴ヒ一方撫順市街地ヲ移轉シテ採炭スルト同時ニ他方露天堀ハ進行及運炭線敷設ノ爲古城子河心ノ附替ヲモ必要トセリ質問書ノ如ク露天堀ノ進行ニ伴ヒ撫順市街地ヲ移轉スル爲古城子河心ノ附替ヲ必要トスル旨答辯シタルコトナシ

一本礦區買收ノ必要ハ前述ノ通りナリ右及答辯候也

大正十五年二月二十三日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

北海道拓殖政策ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十五年二月九日

提出者 松實喜代太

外三名

北海道拓殖政策ニ關スル質問主意書
北海道拓殖ハ帝國刻下吃緊ノ要求タル人口調節ト食糧充實ノ解決ニ資シ併セテ貿易ノ逆調ヲ防止スル重要ノ方策ナルヲ以テ之カ促進ヲ要スルハ論ヲ俟タル所ナリ然ルニ現今ノ拓殖事業計畫ハ大正十五年度ヲ以テ終ラ告クルノミナラス同年度ノ財源ニ不足ヲ來タシ豫定ノ如ク事業ノ進捗ヲ爲ス能ハサルニ依リ政府ハ昨大正十四年時ノ長官ニ命シ新ニ計畫ヲ立案セシムルト同時ニ大藏事務官荒川昌三當時ノ内務次官湯淺倉平同内務省政務次官片岡溫現内務省政務次官俵孫一等ヲ派遣シ實地ニ付調査ヲ爲サシメ而シテ内務省ハ道廳案ニ多少ノ修正ヲ加ヘ成案ト爲シ提出ヲ見合セ更ニ調査會ヲ設置シテ調査スヘキヲ主張シ終ニ之ヲ決定セリト聞ク

果シテ然ラハ北海道拓殖ノ爲海ニ遺憾トスル所ナリ之レ畢竟一箇年延期ノ爲名ヲ調査ニ藉リタルニ非サルヤノ疑ナキ能ハス惟フニ道廳ハ全力ヲ傾注シテ之カ立案ニ從事シ又要路ノ大官相踵テ實地調査ヲ爲シタルヲ以テ諸般ノ調査ハ既ニ終了セルモノト信ス然ルニ政府ハ今更如何ナル必要アリテ調査會ヲ組織シ且如何ナル事項ヲ調査セムトスルヤ詳細ナル説明ヲ要求ス

右及質問候也

大正十五年三月一日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 粕谷義三殿

衆議院議員松實喜代太君外三名提出北海道拓殖政策ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

書差進候

〔別紙〕

内務省閣地第三號

衆議院議員松實喜代太君外三名提出北海道拓殖政策ニ關スル質問ニ對スル答辯書

北海道拓殖ニ關スル新計畫ハ其ノ關係スル所極メテ重大ニシテ其ノ遂行亦長期ニ渉ルヲ以テ之カ策立ニ關シテハ慎重攻究ヲ竭シ以テ其ノ十全ヲ期セザルヘカラス是レ調査會ヲ設ケ以テ拓殖計畫上遺算ナキヲ期セムトスル次第ナリ

右及答辯候也

大正十五年三月一日

内務大臣 若槻禮次郎

網紀肅正ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

大正十五年二月十二日

提出者 丹下茂十郎
網紀肅正ニ關スル質問主意書
大正十四年九月實施セラレタル貴族院多額納稅議員選舉ニ際シ機密ノ漏洩選舉干涉壓迫等ノ事實
一地方及中央官憲ト通謀シ學校又ハ產業施設ヲ利用シ政黨ノ黨勢擴張ニ資シタル事實
一地方交通機關ノ施設ヲ利用シ政黨ノ黨勢擴張ニ資セムトスル事實
右及質問候也

一政府ハ地方及中央官憲ト通謀シ學校又ハ產業施設ヲ利用シテ政黨ノ黨勢擴張ニ資シタル事實ナシ

一政府ハ地方交通機關ノ施設ヲ利用シ政黨ノ黨勢擴張ニ資セムトスル事實ナシ

右及答辯候也

大正十五年三月一日

内務大臣 若槻禮次郎

文部大臣 岡田 良平

鐵道大臣 仙石 貢

農林大臣 早速 整爾

商工大臣 片岡 直溫

女子高等教育ノ方針ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十五年二月十三日

提出者 清瀨 一郎

女子高等教育ノ方針ニ關スル質問主意書
女子高等教育ノ方針ニ關スル質問主意書
我カ國ニ於テ女子高等教育機關ノ不備ナルコトハ眞ニ遺憾ニ堪ヘス女子教育ノ興否ハ各種社會問題ノ解決ニ關スル所多キノミナラス我カ民族ノ將來ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナリ仍テ衆議院ニ於テハ第五十回議會ニ重要ナル建議ヲ爲セリ曰ク「政府ハ時勢ノ進運ト女子向學心ノ顯著ナル實情トニ鑑ミ速ニ帝國大學其ノ他官公私立諸大學及各種專門學校ニ女子ノ入學ヲ一層容易ナラシムルト共ニ女子高等學校並各種專門學校ヲ新設スル等女子高等教育ノ振興ヲ圖ラレムコトヲ望ム」

ト然ルニ爾來政府ハ何等此ノ建議ノ主旨ヲ參酌シ施設シタル形跡ナシ政府或ハ財政ノ都合ヲ以テ答ヘムモ右建議ノ主旨ノ内ニハ多額ノ費用ヲ要セシテ行ヒ得ヘキモノアリ例ヘハ男女共學私設教育機關ノ昇格等ナリ且財政ノ都合ト稱スルモ本問題ノ解決カ我カ民族ノ將來ニ影響スルコト至大ナルヲ考フルトキハ往時爲スコトナクシテ歲月ヲ曠フスヘキニ非ス要

スルニ女子高等教育ノ將來ニ關シ政府ニ一貫ノ方針アリヤ若之アラハ詳細ニ披露セラレムコトヲ望ム

大正十五年三月一日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 粕谷義三殿

衆議院議員 清瀬一郎君外二名提出女子高等教育ノ方針ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 清瀬一郎君外二名ヨリ提出ノ女子高等教育ノ方針ニ關スル質問ニ對スル答辯書

現在我カ國女子高等教育機關トシテハ官立東京、奈良兩女子高等師範學校、公立福岡、大阪兩女子專門學校、私立日本女子大學校外十八校アルモ必スシモ多シト云フヘカラス由テ政府ニ於テハ財政ノ緩急ニ稽ヘ女子好學心ノ向上ニ鑑ミテ官立女子高等教育機關ノ増設ニ努力シ之カ實現ヲ期セントス尙男子ノ爲ニスル高等學校又ハ各種專門學校ヲ女子ニ解放シ共學ヲナサシムルコトハ種種ノ點ニ於テ深ク攻究ヲ要スルモノアリ直ニ之ヲ是認スルコト能ハス

右及答辯候也

大正十五年三月一日

文部大臣 岡田 良平

綱紀肅正ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

大正十五年二月十六日

提出者 丸山 浪彌

綱紀肅正ニ關スル質問主意書
現代ニ於テ官權ヲ利用シテ私利ヲ營ム者渺シトセス是レ綱紀ノ紊亂最甚シキモノナリト認ム

右及質問候也

大正十五年三月一日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 粕谷義三殿

衆議院議員 丸山浪彌君提出綱紀肅正ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 丸山浪彌君提出綱紀肅正ニ關スル質問ニ對スル答辯書

政府ハ斯ノ如キ事實ヲ認メス

右及答辯候也

大正十五年三月一日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

滋賀縣會ニ於ケル原案執行ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十五年二月十六日

提出者

藤澤萬九郎 高井 商二

滋賀縣會ニ於ケル原案執行ニ關スル質問主意書

滋賀縣知事 高橋守雄氏ハ赴任日尙淺ク縣内ノ事情ニ精通セザルニ拘ラス大正十四年通常滋賀縣會ニ對シ蠶業試驗場移轉改築ノ提案ヲ爲シ縣會ハ之ヲ否決シタリ然ルニ高橋知事ハ右縣會ノ議決ヲ以テ府縣ノ收支ニ關スル不適當ナル決議ト爲シ原案執行ノ申請ヲ爲シタリト聞ク右ハ府縣制ノ明文ヲ曲解シ自治ノ議會政治ヲ破壞スルモノナリト認ム政府ノ所見如何

蓋滋賀縣ノ蠶業試驗場ハ明治三十九年現在ノ地ニ建設シ爾來縣會局ハ該位置ノ極メテ適當ナルコトヲ屢聲明シ又實績ニ於テ此ノ當局ノ言ヲ立證シ何等ノ支障ナク經過シ來レリ殊ニ此ノ地方ハ蠶業ノ中心地ニシテ試驗場ヲ最多ク利用スヘキ蠶種製造家ノ大半モ亦此ノ地ニ在リ然ルニ高橋知事ハ突如地下水高ク桑園ノ不適當ト交通ノ不便トヲ理由トシテ之ヲ坂田郡長濱町ニ移轉改築セムト計畫セリ縣會ハ縣會局ニ對シ先ツ比較スヘキ候補地ヲ質シタルニ土地買収ノ支障ヲ口實トシテ之ヲ明答セス而モ二十有餘年間ノ實績ト歴代知事ノ言明ニ對シ現知事力違ニ不適當ナリト叫ブハ其ノ執レヲ信シテ可ナルヤニ苦シムニ至リ唯十町内外距離ノ遠近

ノミヲ以テ既設ノ建築物ヲ移轉スルハ理由極メテ薄弱ナルカ故ニ尙熟考ノ爲延期スル意味ニ於テ否決シタリ茲ニ於テ知事ハ此ノ原案ヲ執行セムカ爲ニ指揮ヲ請ヘリト聞ク若斯ノ如キコトヲ以テ府縣制ノ所謂府縣ノ收支ニ關スル不適當ナル議決ト認ムルコトアラムカ議會政治ノ權威ハ執レニ在リヤ今ヤ民衆政治ヲ尊重スヘキ現代ニ於テ官僚萬能ノ世ト雖尙且之ヲ避ケテ爲ササル暴政ヲ施サムトス是レ政府ノ所見ヲ問ハムトスル所以ナリ

大正十五年三月一日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 粕谷義三君

衆議院議員 藤澤萬九郎君外一名提出滋賀縣會ニ於ケル原案執行ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 藤澤萬九郎君外一名提出滋賀縣會ニ於ケル原案執行ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員 藤澤萬九郎君外一名提出滋賀縣會ニ於ケル原案執行ニ關スル質問ニ對スル答辯書
大正十四年滋賀縣會議決事項中蠶業試驗場移轉改築ニ關スル原案執行稟請ノ件ハ目下調査中ニ在リ

右及答辯候也

大正十五年三月一日

內務大臣 若槻禮次郎

製鐵所ノ經營ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

大正十五年二月十八日

提出者 岡田伊太郎

製鐵所ノ經營ニ關スル質問主意書
一 製鐵所ノ現在ニ於ケル固定資金據置運轉資金及同補足金ノ總額ハ同所ノ鋼材生産額ト對照シテ本業ノ性質上經濟的ニ其ノ約合ヲ得サルモノト認ム

政府ハ先進國ノ實例ニ依リテ其ノ標準ヲ定メ之ヲ整理スルノ意思ナキヤ

二 製鐵所ハ其ノ經營上銑鐵ニ對スル獎勵法ノ制定並鋼材ニ對スル關稅ノ増率ニ付テハ如何ナル對案ヲ有セラレルヤ

執レニシテモ同所最近ノ銑鐵及各種鋼材ノ生産原價ト其ノ販賣價格トヲ對比シテ其ノ要否ヲ具體的ニ説明セラレタシ

右及質問候也

勵法ノ制定並鋼材ニ對スル關稅ノ増率ニ付テハ如何ナル對案ヲ有セラレルヤ

大正十五年三月一日

內閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 粕谷義三殿

衆議院議員 岡田伊太郎君外一名提出製鐵所ノ經營ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 岡田伊太郎君外一名提出製鐵所ノ經營ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 製鐵所ノ現在ニ於ケル固定資金據置運轉資金及同補足金ノ總額ハ同所ノ鋼材生産額ト對照シテ本業ノ性質上經濟的ニ其ノ約合ヲ得サルモノナルヤ否ヤニ付テハ議論ノ餘地アルヘキモ著シク工事情形ヲ異ニスル我國ノ現狀ヲ以テシテハ唯單ニ先進國ノ實例ノミヲ標準トシテ之ヲ整理スルコトハ慎重ナル考慮ヲ要スヘキモノト認ム

二 銑鐵ニ對スル獎勵法ノ制定並鋼材ニ對スル關稅ノ増率ノ要否ニ付テハ獨リ製鐵所ノミノ事情ニ依リテ之ヲ判定スルコト不可能ナリト認ム

右及答辯候也

大正十五年三月一日

商工大臣 片岡 直溫

農村振興ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

大正十五年二月十八日

提出者 土井 權大

農村振興ニ關スル質問主意書
農村振興ノ根本政策ニ對スル政府ノ所見如何

右及質問候也

如何

大正十五年三月一日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 若槻禮次郎

衆議院議員 土井權大君提出農村振興ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員 土井權大君提出農村振興ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書

農村振興ノ根本政策ニ對スル政府ノ所見ハ農村ニ於ケル生活ノ安定産業ノ繁榮ヲ圖リ以テ國家社會ノ進展ニ資スル爲メ經濟上、社會上、政治上各般ノ事項ヲ改善開發スルヲ目的トシ其ノ實現ハ性質上簡單ナル方策ニ依ル能ハス且幾多ノ困難ヲ伴フト雖事極メテ重大ナルヲ以テ一層現在ノ諸施設ニ力ヲ致スト共ニ將來更ニ銳意書策時宜ヲ逸セサルコトヲ期セントスルニ在リ

右及答辯候也

大正十五年二月二十七日 農林大臣 早速 整爾

外交方針ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十五年二月十八日

提出者 松本 君平

一 政府ノ絕對不干渉政策ノ意義及其ノ範圍如何

二 大陸政策ニ對シ政府ニ確乎不拔ノ經濟大策アリヤ

三 政府ノ取レル消極的外交ハ帝國ノ正當ナル威信ヲ失墜スル憂ナキヤ

四 政府ハ滿蒙ニ於ケル帝國ノ根本的國策ヲ研究指導スル爲メ滿蒙調查委員會ヲ設置スル考慮ナキヤ

五 政府ノ近東外交ニ對スル方針如何

右及質問候也

大正十五年三月一日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 若槻禮次郎

衆議院議員 松本君平君提出外交方針ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

官報號外

大正十五年三月三日

衆議院議事速記第二十三號 議長ノ報告

〔別紙〕

衆議院議員 松本君平君提出外交方針ニ關スル質問主意書ニ對シ別紙答辯書

政府ノ對外交政策並近東外交方針ハ本議會ニ於ケル政府案次ノ陳述ニ依リ充分了解セラレコトヲ望ム而シテ政府ハ其ノ外交政策カ何等帝國ノ威信ヲ失墜スル憂ナシト確信ス

政府ハ目下本質問ニ記述セルカ如キ趣旨ヲ以テ滿蒙調查委員會ヲ設置セムトスルノ意思ナシ

右及答辯候也

大正十五年三月一日 外務大臣 男爵幣原喜重郎

船舶無線電信施設法實施期日ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十五年二月二十一日

提出者 千葉 三郎

船舶無線電信施設法實施期日ニ關スル質問主意書

船舶無線電信施設法(大正十四年法律第十一號ヲ以テ公布)ハ第五十回議會ニ於テ公布一年後ニ實施スヘキ旨政府ノ言明アリシモノナルカ今ヤ其ノ實施期日ハ目下間ニ迫リ且當時實施延期ノ理由トセル通信從事者ノ數モ既ニ一級免狀ヲ有スル者九百人ニ級免狀ヲ有スル者一千四百人ニ達シタル今日ニ於テハ速ニ之ヲ實施スルヲ可ナリト信ス右ニ關スル政府ノ所見如何

右及質問候也

大正十五年三月一日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 若槻禮次郎

衆議院議員 千葉三郎君提出船舶無線電信施設法實施期日ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員 千葉三郎君提出船舶無線電信施設法實施期日ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書

〔別紙〕

衆議院議員 千葉三郎君提出船舶無線電信施設法實施期日ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書

衆議院議員 千葉三郎君提出船舶無線電信施設法實施期日ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書

衆議院議員 松本君平君提出外交方針ニ關スル質問主意書ニ對シ別紙答辯書

政府ノ對外交政策並近東外交方針ハ本議會ニ於ケル政府案次ノ陳述ニ依リ充分了解セラレコトヲ望ム而シテ政府ハ其ノ外交政策カ何等帝國ノ威信ヲ失墜スル憂ナシト確信ス

政府ハ目下本質問ニ記述セルカ如キ趣旨ヲ以テ滿蒙調查委員會ヲ設置セムトスルノ意思ナシ

政府ハ船舶無線電信施設法(大正十四年法律第十一號ヲ以テ公布)ハ第五十回議會ニ於テ公布一年後ニ實施スヘキ旨政府ノ言明アリシモノナルカ今ヤ其ノ實施期日ハ目下間ニ迫リ且當時實施延期ノ理由トセル通信從事者ノ數モ既ニ一級免狀ヲ有スル者九百人ニ級免狀ヲ有スル者一千四百人ニ達シタル今日ニ於テハ速ニ之ヲ實施スルヲ可ナリト信ス右ニ關スル政府ノ所見如何

右及質問候也

大正十五年二月二十六日

提出者 中山 貞雄

株式取引所取締ニ關スル質問主意書

株式取引所取締ニ關スル質問主意書有價證券取引所設置ノ目的ハ有價證券ノ取引ヲ確實安固ナラシメ公定相場ヲ決定シ仍テ以テ財界ニ「バロメーター」タルノ機能ヲ現ハサシムルコト等ニシテ今日ノ經濟組織ニ於テハ缺クヘカラサルノ機關ナルハ公知ノ事實ナリ

然ルニ其ノ事務ノ性質上第三射的機關ニ變シテ却テ經濟界ヲ毒スルノ危險性ヲ多量ニ所有セルカ故ニ政府當局ハ充分其ノ取締ヲ嚴シシ警戒ヲ怠ルヲ得サルモノトス今之ヲ斯界ノ實狀ニ鑑スルニ驚クヘシ取

引所本然ノ目的ハ全然没却セラレテ宛然公設賭場ノ觀アリ買賣ハ概ニ投機ニ陥リ實取引ノ如キハ寥寥トシテ稀ニ行ハルルニ過キス事茲ニ至リシハ主トシテ當局ノ取引所ニ對スル取締ノ緩慢ニ基因セルモノト謂フヘク大藏當局ハ銀行ノ取締ヲ緩ニシテ投機資金ノ流出ヲ看過シ商工當局ハ投機專用株式ノ上場ヲ許可シテ賭博用賽ヲ公然提供セシム以テ其ノ勢ヲ助長セシヤノ觀アリ

投機專用株式トハ何ゾ取引所自株ノ上場即チ之ナリ之ヲ東京取引所ノ例ニ見レハ新東ハ其ノ適例ナリトス新東ハ十二圓五十錢拂込株ニシテ昨冬百四五圓ヨリ百三十餘圓ニ上騰シ新春稍挫折セルモ目下百五十餘圓ヲ唱ヘ驚クヘキ暴騰ヲ演ゼリ併シナカラ昨今ノ總取引組高ヨリ推算シ今期二割五分乃至三割ノ配當ヲ豫想シ之ヲ採算スルニ利廻年二分五厘ニ達セス若之ヲ年五分ニ採算セハ新東ノ實價ハ五六圓ヲ出デサルナリ此ノ採算ヲ離レタル不合理ノ騰貴ハ果シテ何ヲカ物語ル而シテ全株數五十四萬ノ新東カ日二十萬株内外ノ取引組高ニ達シツツアルヲ投機的空相場即チ賭博ニ非スト誰カ公言シ得ルモノゾ自株上場ノ弊眞ニ恐ルヘキナリ其ノ外財界ノ實際ニ伴ハサル不當ノ騰貴カ一般人ニ景氣恢復ヲ幻想セシメ財界ノ健全性ヲ破壞セシムルコト等モ特筆スヘキ弊害ノ一ニシテ歐米ニテ取引所株ノ上場ヲ禁シ米國ノ「スチール」株ニ於ケルカ如ク大工業株ヲ以テ其ノ標準株トセルニ對照シテ思半ニ過クルモノアラム

以上ハ取引所政策ノ根本ニ觸レル問題ナルカ今先ツ東京株式取引所ノ現狀ニ付テ如何ニ當局ノ取締ヲ緩慢ナルカヲ如實ニ物語ル數例ヲ舉示セム

イ 復興資金貸出 現存四百八十萬圓

東京株式取引所カ所屬取引員八十名

ニ對シ震災復興資金トシテ貸出シタル金額一人當七萬五千圓ニシテ大正十四年下半期決算凡四百八十餘萬圓ナリ千古稀ナル天災ニ際シテ其ノ復

興資金ノ貸出ハ蓋止ムヲ得ストスル
モ投機ノ資金ノ流出ナルハ否ミ難ク
爲ニ取引所ノ内容ヲシテ不確實ナラ
シメタルコト亦疑ナキ事實ナリ

第一投機資金流出

金額二百四十萬圓

復興資金ノ貸出後取引員ノ窮狀依然
タルモノアルカ爲取引員一人當三萬
圓ノ貸出ヲ爲スコトトセシカ復興資
金貸出方法ヲ繰返スコトハ憚ル所ア
リシヲ以テ帝國商業銀行ヨリ取引員
ニ右貸出ヲ行ハシメ其ノ保證見返ノ
意味ニテ取引所ハ同行ニ貸出ニ相當
スル額ノ定期預金ヲ行ヘリ

第二投機資金流出

金額二百五十六萬圓

次テ又帝國商業銀行同様ノ方法ノ下
ニ野村銀行ヲ通シテ第二投機資金ノ
貸出ヲ行ヘリ

ニ 身元保證金ノ實質的減額

金額二百四十萬圓

取引員ノ身元保證金ハ一人當十五萬
圓ナルカ取引員ハ證據金三萬圓ヲ限
度トシテ無證據金ニテ取引ヲ行ヒ得
ル諒解アリ爲ニ身元保證金ハ事實十
二萬圓ニ減額セラレタル形ト爲レリ
ホ 無證據金取引ノ便法

投機獎勵ノ爲ニ取引所ハ又無證據金
取引トモ謂フヘキ便法ヲ案出セリ其
ノ方法トシテ取引員カ株式ヲ取引所
ニ提供スレハ時價(取引所當日ノ相
場)ノ全額ニ相當スル金額ノ約束手
形ヲ取引所ヨリ振出シ之ヲ銀行ニテ
割引ヲ爲スト謂フ前提ノ下ニ取引員
ハ

- 一 賣買ヲ同時ニ附出シ賣玉ニ對
シテハ買玉ヲ充當スルコト
- 二 賣玉ニ對スル代金ヲ取引所ヨ
リ先付手形ニテ融通ヲ受ケ之ヲ
銀行ニテ割引クコト
- 三 買玉證據金ハ前述ノ如ク身元
保證金ノ内三萬圓ヲ以テ之ニ充
ツルコト

結局無證據金ニテ取引ヲ行ハシメ以
テ其ノ投機ニ便ニシ市場ノ繁榮ヲ策
セルモノニシテ昨今此ノ約手ノ振出
高五千萬圓ノ巨額ニ上レリ猶取引員
カ賣玉トシテ提供スル株式ハ其ノ種
類ニ依リ提供數ニ限度ヲ付シ居ルヲ
以テ制限ヲ付セサル新東株ノ提供數
最多キニ居ルハ特ニ注意スヘキコト
ナリトス

以上(イ)ヨリ(ホ)ニ至ル各項ノ事實ニ
依リテ

一東京株式取引所ノ内容ニ著シキ缺陷
アルコト

一取引所ニ預託サレタル取引員ノ身元
保證金ハ貸付金及保證等ト相殺シテ
實際上皆無ト爲リタルコト

一取引所ハ事實上自己ノ株式ヲ時價ニ
テ取引受ケ巨額ノ約手ヲ振出し居ルコ
ト

一取引員ハ投機資金ヲ取引所ヨリ仰キ
無證據金ニテ投機ヲ行ヒ得ルコト

ヲ知り得タリ此等ノ事實ヨリ歸納シテ今
後益投機ノ旺盛ヲ豫想セラルル一方不合
理ナル暴騰ヲ續ケ來レル丈ニ一朝相場ノ
惡變ヲ見ムカ取引員自身ノ存亡問題ヲ惹
起スルハ火ヲ見ルヨリモ明ナリ引テ之カ
復興途上ノ經濟界ニ及ホス影響ヲ考フレ
ハ實ニ慄然タラヌハ非ス

斯ノ如キ事態ヲ醸成セシハ無論取引所當
事者ノ執リタル市場繁榮策ノ結果ナルカ
此ヲ取締ルヘキ政府當局カ寧ろ取引所ノ
爲ス所ヲ懲遏セシ形アルハ怪訝ニ堪ヘサ
ル所ナリ殊ニ勤儉力行實業繁榮ヲ旨トシ
健實ナル方法ニ依リ財界ノ恢復ヲ主張ス
ル現内閣ニシテ斯ノ如キ事態ノ發生ヲ看
過シ居ルハ重大ナル責任ト認ム

次ニ短期取引運用ノ現狀ニ鑑ミ敢テ當局
ニ問フ所アラムトス

大正十一年取引所法ヲ改正シテ限月ノ短
縮ヲ政行セシ趣旨ハ有價證券ノ取引ヲ可
成現物化シテ投機ノ取引ノ弊ヲ出來得ル
限リ局限シテ國民ノ投機心ヲ抑制セムカ
爲ナリキ若槻首相ハ其ノ當時上院ニ於テ

現行法ニ比シ一層極端ナル短縮一箇月說
ノ強硬ナル支持者ナリシ丈ニ此ノ短縮ノ
主旨ハ徹底的ニ諒解シ居ラルルコト信
ス現制度ハ前記ノ目的ヲ達スル爲ニ
舊制ノ先物三箇月限月二箇月ニ短縮
シテ建玉數ノ減少ト實取引ノ増加ヲ企圖
セシモノニシテ洵ニ適切ナル改正ナリシ
カ短期取引ヲ許可セシコトニ依テ改正ノ
精神ハ根本ヨリ破壞シ盡サレタリ短期取
引ヲ認容セシ當局ノ態度ハ吾人ノ眞ニ了
解ニ苦シム所ナリ

短期取引ヲ許可セシ理由ハ從來行ハレタ
ル直取引ノ弊害ヲ矯正スルニアリシト聞
ケルカ今短期取引ノ實狀ヲ檢スルニ

一代引機關トシテ中央證券株式會社ナ
ルモノアリ現株ヲ受取り得又買方又
ハ現株ヲ渡シ得又賣方ニ代テ株ノ受
授ヲ行ヒ其ノ代價トシテ日歩ヲ徴シ
ツツアリ

一三十日毎ニ取引員ハ賣買殘玉ヲ同時
ニ附出シ差金受授ノ方法ヲ以テ次期
ニ切換繰延ヲ爲シ帳簿面ハ賣買取引
完了ノ形式ヲ取り來レリ

一上場銘柄新東新鐘等五種ナルカ取引
高ノ大部分ハ新東ニシテ最近ノ例ヲ
見ルニ二月九日總取引組高二十三萬株
中新東十九萬株八割三分ニ當レリ當
日ノ定期取引ハ總出來高二十七萬中

新東七萬餘二割八分ニ當レリ
之ニ依テ短期取引ナルモノノ真相ハ
一 純然タル新東ノ投機ノ空相場機關
ナルコト

二 無限月ノ連續的空取引ナルコト
ニシテ從來ノ直取引ト何等選ム所ナク結
局直取引ヲ公許セシモノト評セラルルモ
辯解ノ辭ナカレハシ

抑取引所法立法ノ精神カ空取引ノ弊ヲ矯
メテ極力實取引ニ近ツケ有價證券ノ價格ヲ
シテ其ノ實際價值ニ合致セシメムトスル
ニアルコトハ否ムヘカラス從テ當局モ最
初東京取引所ニ對シ其ノ禍根トモ謂フヘ
キ自株ノ上場ヲ禁スルノ方針ニ出テ短期
取引上場期間ヲ向フ一箇年トセシカ當業

者ノ猛烈ナル反對ニ會シ當局ノ政略的考
慮モ之ニ加ハリテ遂ニ此ノ畫紀的計畫モ
有耶無耶ノ裏ニ華ラレ一箇年ノ制限ヲ撤
廢シテ漫然當分ノ内ニ下謂フ文字ニ置キ替
エラレタリ而シテ當局ハ當業者ニ向テ一
箇月モ當分十年モ當分當分ノ内即チ永久
ナリトノ釋明ヲ附シタリ又ハ制限の法文ノ
法文ノ解釋上他日禁止又ハ制限の法文ノ
現ハレサル限リ「當分ノ内」ナル文字ハ永
久無限ニ働クモノト考ヘ得ルナリ從テ定
期及短期ノ二重上場ハ永久ニ持續サルル
モノト見得ル次第ナリ限月ヲ短縮シテ實
取引ニ導キ國民ノ投機心ヲ抑制セムトセ
ル取引所法改正ノ精神ニ照シ斯ノ如キノ
矛盾ヲ其ノ結果比較的經濟事情ニ暗キ
世人ヲシテ有價證券ノ賣買即チ投機ト速
斷セシメ今日ノ經濟組織ヨリ見テ猶大ニ
發達スヘキ有價證券市場ニ與ヘタル障害
量ルヘカラサルモノアリ引テハ事業ノ興
起ヲ妨ケ企業心ヲ挫折セシメ復興途上ノ
產業界ニ太シキ支障ヲ加ヘタルノ觀アリ
短期取引カ其ノ許可ノ精神ヲ喪失シテ流
毒大ナルモノアル今日之ヲ禁止スルコト
ハ單ニ經濟政策ノ上ノミナラス社會政策
上極メテ喫緊事ニ屬ス

猶之ト同時ニ自株上場ノ禁止ヲ必要トス
ルコトハ其ノ投機熱發生ノ病源タルコト
ノ外一面法理上ニモ其ノ根據ヲ有ス即チ
取引所ハ賣買當事者ニ非スシテ當事者間
ニ介在シテ單ニ手數料ヲ受クルノミト謂
フモ事實取引所ヲ相手トシテ取引員ハ賣
買ヲ行フモノニシテ引テ自株ノ賣買ヲ取
引所カ行ヒツツアル結論ニ達ス又取引員
破綻ノ際ハ如何ニ手段ヲ盡スト雖法理上
破綻者ノ建玉ヲ取引所カ受持ツ期間ノ存
在ヲ非認スルヲ得ス殊ニ現ニ行ヒツツア
ル先付約手對自株ノ關係ハ一層太シキ違
法行為カ自株上場ニ依テ招來セラルルコ
トヲ示スモノナリ

歸スル所取引所ハ賭博ノ場所ニシテ短期
取引ハ賭博ノ方法新東ハ賭博ノ器具ナリ
從テ投機專業ノ當業者ト手數料ノ增收ト

自株ノ騰貴ニ不斷策動急ラサル取引所カ
自ラ其ノ非ヲ改ムルコトハ百年河清ヲ待
ツト一般ニシテ改革ノ途唯當局ノ一斷ニ
アルノミ然ルニ限月短縮問題並大阪株式
取引所理事長問題等ニ付テ嚴格ト硬骨ノ
聞エアル某某局課長ヲ左遷又ハ轉任セシ
メタル事實ニ微シ當局ノ一斷亦甚タ頼ム
ニ足ラサルノ感アルハ遺憾ニ堪ヘサル所
ナリ

之ヲ要スル吾人ハ(一)株式取引所カ自己
ノ市場ニ自己ノ株式ヲ上場スルコトハ投機
的空相場ヲ盛ムナラシメ取引所法立法
ノ精神ヲ破壞スルモノト認メ(二)短期取引
ハ代引機關ノ存在ト期末ニ於ケル差金受授
殘玉切換ノ手段ニ依テ純然タル投機
的空賣買ノ實ヲ有シ且無期限ノ連續
取引ヲ行ヘルモノニシテ其ノ弊ニ堪ヘスト
シテ此ヲ以テ彼ニ代ヘタル直取引何等選
ムナキヲ見ル而シテ最初省令ヲ以テ二重上
場ノ許容期間ヲ一箇年トセシラ當業者ノ反
對ニ會シテ當分ノ内ト改メタル事實アリ斯
ノ如キハ空取引ノ弊ヲ矯メムトシテ限月
ヲ短縮セシ取引所法改正ノ精神ヲ覆スモ
ト認メ之等ニ對スル政府ノ所見ヲ問フ
ト共ニ近ク斯ノ如キ短期取引ヲ禁止スル
ノ意思ナキヤヲ聞カムトスルモノナリ

(三)内地及殖民地取引所ノ内容カ極メテ
不良ニシテ且不當ナル投機資金ノ貸付ヲ
行ヒ益投機熱ヲ煽リツツアリ東京株式取
引所カ二千六百餘萬圓ノ拂込資本ニ對シ
其ノ取引員ニ復興資金トシテ貸付タルモ
ノ帝國商業銀行及野村銀行ヲ通シテ貸出
タルモノノ身元保證金ノ一部ヲ證據金ニ充
當セルモノ等ニテ千數百萬圓ノ不良貸付
ヲ有シ又取引員提供ノ有價證券(主トシ
テ自株)ニ對シ時價(取引所取引價)金額
ニ相當スル金額ノ約手ヲ振出し昨今其ノ
額五千萬圓ノ巨額ニ達シ爲ニ市場ヲ熱狂
セシメツツアルカ一朝市場ニ大變動アラ
ムカ直ニ致命の打撃ヲ受テ經濟界ニ一大
危機ヲ生スル危險狀態ニ在ルカ如キハ嚴
タル眼目ノ一大事實ニシテ政府ハ之等ニ
對シテ過去ニ於テ適切ナル取締ノ手段ヲ

盡セリヤ今後如何ナル方針ヲ以テ之ニ臨
マムトスルカ誠意アル答辯ヲ望ムモノナ
リ
右及質問候也

大正十五年三月二日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 若谷義三

衆議院議員 中山貞雄君提出株式取引所取
締ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

衆議院議員 中山貞雄君提出株式取引所
取締ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書

第一 當所株ノ上場ヲ禁止スルコトハ財
界ニ及ホス影響甚大ナルモノアルヘキ
ヲ以テ政府ニ於テハ目下之カ禁止ヲ爲
スノ意思ヲ有セス

第二 有價證券ノ短期清算取引ハ投機
的空賣買タルノ性質ヲ有スルモノニアラ
スト認ムルヲ以テ政府ニ於テハ之ヲ禁
止スルノ意思ヲ有セス尙ニ二重上場ノ問
題ニ付テハ短期清算取引ノ實施ニ伴ヒ
取引員ノ之ニ慣熟セサルカ爲本制度運
用ノ圓滑ヲ期シ難キ事情アルヘキヲ考
慮シ當分ノ間認ムルコトトナシタルモ
ノナルヲ以テ適當ノ時期ニ之ヲ廢止ス
ル考ナリ

第三 政府ハ取引所ノ業務執行資金運用
等ニ付テハ從來常ニ嚴重ナル監督ヲ怠
ラス將來ニ於テモ此ノ方針ヲ何等變革
スル意思ナシ東京株式取引所ノ復興資
金ノ貸付ハ非常時ニ際シ已ムヲ得サル
ニ出テタル處置ニシテ此外同所ヨリ取
引員ニ貸出ヲ爲スコトヲ認メタルコト
ナシ又先日附手形ノ發行ニ付テモ提供
證券ノ種類提供者ノ信用手形ノ發行金
額等ヲ考査シテ手形ノ發行ヲ慎重ニ爲
シツハアルヲ以テ現在ノ狀態ニ於テハ
取引上ニ何等危險ナキモノト認ム

右及答辯候也
大正十五年三月二日
商工大臣 片岡 直溫

綱紀肅正ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十五年二月十六日
提出者 藤澤萬九郎
外一名

綱紀肅正ニ關スル質問主意書
一 滋賀縣知事ハ宇治川電氣株式會社ノ
琵琶湖引水使用期限カ大正二十五年四
月四日迄有效ナルニ拘ラス更ニ該會社
ノ請ヲ容レテ大正三十九年三月三十一
「迄之カ延長ノ許可ヲ與ヘタリ而シテ
之下同時ニ滋賀縣ノ歲計ニ編入セサル
指定條件ヲ以テ同會社ヨリ金五萬圓ノ
寄附ヲ受ケ縣廳一部ノ在官者ノミヲ以
テ財團法人琵琶湖協會ヲ組織シ該會ノ
收入トシテ專ラ遊覽地設備ニ充當セリ
ト聞ク

二 滋賀縣知事ハ滋賀縣滋賀郡膳所町ニ
現存セル旭絹織株式會社ノ工場擴張ニ
當リ恰モ其ノ敷地カ縣ノ保勝地トシテ假
指定セル區域ナルニ違ニ之カ許可ヲ與
フルト同時ニ該會社ヨリ宇治川電氣株
式會社ト同一ノ方法ヲ以テ金五萬圓ノ
寄附ヲ受ケタリト聞ク
前記宇治川電氣株式會社ニ對スル引水使
用期限ノ延長許可並旭絹織株式會社ニ對
シ保勝地ノ禁ヲ破リテ擴張ノ許可ヲ與ヘ
タルハ孰レモ俱ニ事實ニシテ又同時ニ兩會
社ヨリ琵琶湖協會ヘ金五萬圓宛テ寄附
シタルコトモ掩フヘカラサル事實ナリト
ス許可ト寄附ハ素ヨリ各別ノ意義ナリト
辨スルナラモ苟モ其ノ許可者カ知事ニ
シテ寄附ヲ受ケタル者モ亦齊シク知事ナ
リ而モ時ヲ同ウシ宇治川電氣株式會社ニ
對シテハ前途尙十一箇年ノ期限ニ餘裕
存スルニ拘ラス更ニ新二十四箇年ヲ延長
シ殊ニ該引水問題ニ付テハ從來ノ實績上
滋賀縣民ノ最苦シキ經驗ヨリ機ヲ得テ命
令條件ノ不備ヲ補正セムトスル折柄之ヲ
棄テテ顧ミス一方旭絹織株式會社ニ對シ
テハ自ラ保勝地トシテ努メテ工場ノ建設
ヲ進ケムコトヲ期セルノミナラス隣接地
ノ縣立農事試驗場ノ試驗成績ニ影響ヲ及

ホスコトニ些ノ考慮ヲ拂ハス漫然執レモ
之ヲ許可シタルカ爲大正十四年縣會ハ前
記兩件ニ對シ其ノ措置ノ失當ナルヲ決議
セリ擣テテ加ヘテ兩會社ヨリ寄附金ヲ徵
シ縣ノ歲計ニ加ヘサルコトヲ條件トシ財
團法人組織トシテ縣廳一部ノ在官者ニ依
リ之ヲ左右スルカ如キ何人モ見テ忽チ疑
惑ヲ挾ムヘキ行爲ニ出テタルハ綱紀肅正
上尙ニ看過スヘカラサルコトナリト信ス
以上ハ綱紀肅正ヲ高唱スル現内閣ノ禁下
ニ在ル地方長官ノ處置トシテ是認シ得ヘ
キモノナリヤ否ヤ
右及質問候也

大正十五年三月二日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 若谷義三

衆議院議員 藤澤萬九郎君外一名提出綱紀
肅正ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進
候

〔別紙〕
內務省閣地第五號

衆議院議員 藤澤萬九郎君外一名提出綱
紀肅正ニ關スル質問ニ對スル答辯書
滋賀縣知事カ宇治川電氣株式會社ニ對シ
水利使用期限ノ延長ヲ許可シタルハ同會
社カ事業ノ經營上期限延長ノ必要アリト
シ許可ヲ申請セシヲ以テ調査ノ上支障ナ
シト認メ之ヲ許可シタルナリ
又同知事カ旭絹織株式會社ニ對シ工場ノ
擴張ヲ許可シタルハ該敷地タル保勝區域下
シテ假指定シタル地域ニ屬スルヲ以テ特
ニ慎重調査ヲ遂ケ一面會社ニ對シ風景ノ
保持ニ努ムル様注意ヲ與フルト同時ニ一
面産業ノ見地ヨリシテ之ヲ許可シタルナ
リ

右兩會社ノ寄附申出ニ付テハ知事ニ於テ
其ノ希望ヲ容レ公益法人タル琵琶湖協會
ノ資ト爲スヲ最モ適當ト認メ同協會ニ於
テ之ヲ受納スルコトハセシナリ
尙琵琶湖協會ノ役員ハ縣廳官吏並縣內有
力者ヲ以テ組織スルモノニシテ單ニ縣廳
官吏ノミヲ以テ組織スルモノニアラス

以上ノ次第ニ付滋賀縣知事ノ爲シタル處分ハ何等糾紀ヲ紊亂シタルモノニアラス右及答辯候也

大正十五年三月二日

内務大臣 若槻禮次郎

肥料政策ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十五年二月十八日

提出者 土井 權大

肥料政策ニ關スル質問主意書

肥料政策ニ關スル政府ノ所見如何

右及質問候也

大正十五年三月二日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長粕谷義三殿

衆議院議員土井權大君提出肥料政策ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

閣第一三號

衆議院議員土井權大君提出肥料政策ニ關スル質問ニ對スル答辯書

肥料政策ニ關スル政府ノ所見ハ肥料ハ農業經濟上極メテ重要ナルモノナルヲ以テ其ノ

良質ノモノヲ廉價且潤澤ニ供給シ其ノ施用方法ヲ改善シテ肥效ヲ大ナラシメ農業

經濟ヲ有利ニ導クヲ目的トシ從來ノ施設ニ一層ノ力ヲ致スト共ニ將來更ニ畫策宜

シキヲ得テ自給肥料ヲ増殖シテ販賣肥料施用ノ節減ヲ圖リ販賣肥料ニ關シテハ其

ノ製造、取引ニ對スル取締及改善ヲ爲シ其ノ最重要ナル窒素養料ニ付テハ空中窒

素ノ利用固定ノ研究ヲ進メ之カ増産ヲ計リ硫酸養料亞大豆粕等ノ輸入ヲ能フ限

リ防遏スルノ方途ヲ講スルコト極メテ緊要ナリト認ム

右及答辯候也

大正十五年三月一日

農林大臣 早速 整爾

婦人參政ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十五年二月十八日

提出者 松本 君平

婦人參政ニ關スル質問主意書

一 現内閣ハ婦人參政權ニ對シテ前加藤首相ト同一ノ意見ヲ有スルヤ

二 第五十回議會ニ於テ衆議院ヲ通過シタル婦人參政ノ建議ニ對シテ如何ナル考慮ト態度ヲ取ラルルヤ

三 政府ハ婦人參政ニ對シ主義ニ於テ反對ナリヤ其ノ理由如何

四 政府ハ婦人參政ニ對シ尙早ナリトセラルルヤ其ノ理由如何

右及質問候也

大正十五年三月二日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長粕谷義三殿

衆議院議員松本君平君提出婦人參政ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

內務省發地第二一號

衆議院議員松本君平君提出婦人參政ニ關スル質問ニ對スル答辯書

政府ハ我國現下ノ狀態ニ鑑ミ婦人ノ參政ニ關シテハ未タ其ノ時期ニ非サルモノト認ム

右及答辯候也

大正十五年三月二日

內務大臣 若槻禮次郎

〔左ノ報告ハ開讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス〕

一 二月二十六日內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

司法省所管事務政府委員被仰付

二月二十七日議長ニ於テ選定シタル委員

左ノ如シ

議員梅田寬一君ノ行動ニ關スル調査ノ件

委員

橫山金太郎君 齋藤 隆夫君

高木益太郎君 橫山勝太郎君

平川松太郎君 作間 耕逸君

武富 清君 廣岡宇一郎君

三善 清之君 山口 義一君

志賀和多利君 牧野 良三君

海原 清平君 松浦五兵衛君

則元 由庸君 中村啓次郎君

柏田 忠一君 湯淺 凡平君

府縣制中改正法律案外六件委員

荒川 五郎君 高木 正年君

齋藤 隆夫君 清水留三郎君

淺賀長兵衛君 工藤 鐵男君

由谷 義治君 加藤 綱一君

澤田 利吉君 青木知四郎君

近藤 達兒君 松實喜代太君

高橋熊次郎君 植原悅二郎君

石坂 豐一君 大口 喜六君

井上 孝哉君 藤澤萬九郎君

赤間嘉之吉君 山本 慎平君

小橋 一太君 高島 順作君

志村清右衛門君 奧野小四郎君

加藤謙五郎君 田口 文次君

土屋清三郎君

二月二十七日教育改善及農村振興基金特別會計法中改正法律案委員中馬與九君辭任ニ付其ノ補闕トシテ中野寅吉君ヲ、議院法中改正法律案外一件委員高島順作君辭任ニ付其ノ補闕トシテ星廉平君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

一昨一日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第一部選出

諸願委員 竹原揆一君(佐々木文一君補闕)

第一部選出

宮島幹之助君(福井甚三君補闕)

第一部選出

中山貞雄君(井出繁三郎君補闕)

第一部選出

陣軍吉君(高木第四郎君補闕)

第一部選出

砂田重政君(兼松寅太郎君補闕)

第一部選出

吉植庄一郎君(土屋興君補闕)

第一部選出

決算委員 磯部尙君(堀川清助君補闕)

第八部選出

決算委員

決算委員

決算委員

決算委員

決算委員

決算委員

決算委員

決算委員

決算委員

決算委員

決算委員

決算委員

決算委員

第九部選出

決算委員 高橋熊次郎君(山口義一君補闕)

一昨一日常任委員理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

決算委員

理事 橫山勝太郎君(理事淺賀長兵衛君二月十三日辭任ニ付其ノ補闕)

一昨一日理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

教育改善及農村振興基金特別會計法中改正法律案(政府提出)委員

理事 二木洵君(理事今井健彦君二月十八日辭任ニ付其ノ補闕)

理事 藤井敬慎君(理事村松龜一郎君二月二十日辭任ニ付其ノ補闕)

一昨一日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

議員梅田寬一君ノ行動ニ關スル調査ノ件(關直彦君提出)委員

委員長

理事 三善 清之君 則元 由庸君

湯淺 凡平君

府縣制中改正法律案(政府提出)外六件委員

委員長

理事 由谷 義治君 高橋熊次郎君

高島 順作君

一昨一日議員梅田寬一君ノ行動ニ關スル調査ノ件委員牧野良三君辭任ニ付其ノ補闕トシテ秋田清君ヲ、労働爭議調停法案外一件委員熊谷直太君辭任ニ付其ノ補闕トシテ森格君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ會議ヲ開キマ

ス、諮問事項ガアリマス、第一部選出決算委員原惣兵衛君ヨリ常任委員辭任ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセ

カ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ許可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ

補選選舉ヲ行ヒ届出アランコトヲ希望致シマス——本日ノ日程ニ掲グマシタ質問第一ヨリ第四マデ、何レモ政府ヨリ答辯書ヲ受領致シマシタカラ、日程ヨリ之ヲ省キマス、尙ホ質問ノ答辯ニ對シ意見陳述ノ申出ガ數名アリマス、此際順次之ヲ許シマス、佐藤富十郎君

森林政策ニ關スル質問ノ答辯ニ對スル佐藤富十郎君ノ意見

〔佐藤富十郎君登壇〕

○佐藤富十郎君 諸君、本員ハ去ル五十議會ニ於キマシテ、此壇上ニ於テ諸君ニ申述ベタ次第柄ヲ尙ホ今期——此議會ニ於キマシテ質問致シタ次第アリマス、第一ハ我國森林ガ甚ダ濫伐ニ陥リマス、此救フベカラザル狀態ニ至リタルコトデアリマス、第二ハ森林濫伐ノ結果ハ灌溉用水、飲料水ニ不足ヲ來シマシテ、又水力電氣ニ非常ナル減退ヲ來シテ居ルコトハ諸君ノ御承知ノ通りデアアル、之ヲ救フニハ如何ナル事デアリカト云フコトヲ辯ジタイト思フノデアリマス、ソレカラ第三ハ、然ラバ我國ノ森林ヲ伐採シナイナラバ、其不足ヲ何處カラ供給スルカト云フコトデアリマス、ソレヲ陳辯致シマシテ此壇ヲ降ル積リデアリマス、諸君、我國ノ森林ナルモノハ多大ナリト信ジタノガ第一ノ誤リデアッタト云フコトヲ私ハ申シテ見タイト思フ、ソレハ約三十年モ昔ノ事デアリマス、大ニ我が森林ナルモノハ多大デアリ、之ヲ伐採シテ而シテ外國ニ賣リ出スノガ相當デアルカノ如キコトデアッタコトハ、諸君ノ御承知ノ事デアアル、然ルニ其後ノ有様ヲ熟ト考ヘテ見マシタトキニ、如何ナル狀態ニ今日ハ相成テ居ルデゴザイマセウ、昨年五十議會ニ於テ村山君ノ演述ニモアッタヤウニ、此儘伐採ヲ續ケタナラバ、三十六年間ニハ我國ノ森林ハ既ニ盡キテシマフトマデ絶叫サレタノデアリマセウ、而シテ其森林ノ伐採ガ如何ナル程度ニナツテ居ルノデゴザイマセウカト云フナラバ、先ヅ全國百三十九箇所ノ官行所伐事業ト云フモノヲ起シマシテ、ソレ

ガ年々伐採シツ、アル所ノモノハ三百六十萬石ヲ超エテ居リマス、其他薪材或ハ炭燒業ヲ爲シテ居ルコト云フコトヲ、先ヅ此官行事業トシテ居ルノデアリマス、其官行事業ナルモノガ、如何ニ我が森林ヲ濫伐的ニ伐採シタカト云フコトヲ申上ゲテ見タイ、是ハ昨年モ申上ゲタヤウニ、此吾々國民、所謂此人民ノ伐採スルトハ違テ、官ノ伐採スル事業ト云フモノハ甚ダ粗雑ニシテ、且ツ亂暴的ニ伐採シテ居ルコトヲ私ハ認メテ居ル、如何トナレバ先ヅ官伐採スル以上ハ自分ノ、自分ト云フテハ語弊ガアリマス、國家ノ森林ヲ伐採スルガ故ニ此代價ヲ拂フ必要ハナイノデアアル、ソレガ爲ニ先ヅ警ヘテ申サバ、一本ノ木ヲ伐採致シマシテモ、其伐採致ス狀態ハドウデアアルカ、枝葉ハ皆棄テ、シマフ、根元ハ高ク伐ルコト云フヤウナコトニシタ時ニ、ソレガ何十萬本、何百萬本ト相成タ時ニ、非常ナル損害ガ甚ニ在ルノデアリマス、又事業ノ上ニ於キマシテモ、總テ士族及官員様ノアル仕事ト云フモノハ、洵ニ積弊ナモノデアルト云フテハ語弊ガアリマセウガ、免ニ角粗雑ニ流レテ來ルコト云フコトハ、是ハドウモ致方ガナイ、洵ニ私カラ見レバ此官行所伐モ云フモノハ、我國ニ適當シナイト私ハ信ジテ居ル、此適當シナイト云フコトモ諸君ハ既ニ分テ居ルダラウト思フ、此適當シナイモノヲ益々續行セシムルト云フコトハ、此財政ノ有様ヨリ見テ——此經濟ノ有様ヨリ見テ、甚ダ私ハ不都合ナルモノト見テ居ルノデアアル、是ハ現内閣ノシタノデハナイ、即チ歷代ノ内閣ガ續ケテ、此續行ヲシ來タコト云フコトデアアルノデアアルカラ、敢テ現内閣ヲ責メル者デハナイケレドモ、現内閣ハ此整理ヲ致ス、財政ノ整理ヲ致ス、緊縮ヲ致ス、總テモノヲ整理致スト云フコトヲ聲明致シテ出來テ來タ内閣デゴザイマス、然ラバ斯ノ如キ分り切タル所ノ不始末ダラケノモノヲ片付ケナイデ、サウシテ現内閣ハ整理ヲシタト主張スルコトハ出來マイト思フ、此所ニ行クト云フト、現内閣ノ攻撃ニナツテ參リマスケレドモ、如何ニ與當デ

モ惡イ事ハ惡イト言ハザルヲ得ナイ、此改良ルト云フコトヲ改メズシテ、整理緊縮ヲシタトカ、イヤ行政ノ整理ヲシタトカ云フコトハ、一體何ヲ言シテ居ルカ(拍手) 政友會アタリカラモ時々言ハレルヤウニ、何ヲシテ居ルカト云フコトハ、事實ガ無イ事モナイコトニナデ來ル、少クモ事實ガカラハ仕方ガナイ、併シ政友會ノ諸君ハ怒テハイカナイガダ、此森林政策ト云フモノハ、政友會ノ人々ノ起シタモノデアルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、デアアルカラ諸君モ共ニ現内閣ニ大ニ監督的制裁ヲ加ヘテ、サウシテ之ヲ直サセルト云フコトヲシナケレバナルマイト思フ(其通り)ト呼フ者アリ)デアリマスルカラ、其有様ハドウデアアルカト云フナラバ、第二段ニ論及ヲ致スナラバ、先ヅ全國ノ河川ハ如何ナル狀態ニ陥テ居ルノデゴザイマセウカ、灌溉用水ハ不足ヲ來シ、東京方面ニ於テハ飲料水ノ不足ヲ感ジ、電力ハ益々減退スト云フ狀態ニナツテ來タコトハ、私ガ申スマデモナク、諸君モ既ニ御承知ノ事デアアラウト思フ、此點ニ於キマシテハ我國ノ重大ナル問題ナリト私ハ斷定セザルヲ得ナイ、然ラバソレハ何カラ一體起テ來タモノデアアルカ、其病根ハ何所ニ在ルカ、其原因ハ何所ニ在ルカト釋ネテ見マシタ時ニ、若シ森林濫伐ヨリ起テ來タモノデナイ、他ニ原因ガアリトセバ、私ハ何モ申サヌノデアアル、併ナガラ諸君モ御承知ノ通り、水源ト云フモノハ、所謂森林ニ因テ水源ヲ涵養サレルコトハ言フマデモナイ話デアアル、然ラバ他ニ原因ナシトスルナラバ、此森林ノ濫伐ヨリ起タモノトスルコトニハ、如何ナル方法ヲ以テ之ヲ攻究シ、之ヲ救済スルカト云フコトヲ言ハナケレバナルマイト私ハ思フ、此點ニ於キマシテハ、私ハ此質問書ヲ提出致シマシテ、其答辯ヲ聽キマスと云フト、政府ハ斯ウ云フ答辯ヲシテ居ル、森林ノ事業ハ、所謂此官行所伐ナルモノハ、施業案ノ方法ニ依テ更新ノ途ヲ開クガ爲ニ、古キ伐伐テ新シキニスルノデアアルカラ、是ハ追々續行シナケレバナラヌモノデアアル、第二段ニ

ハ保安林ハ澤山造ルト云フコトニ承知致シタ、ドウ致シマシテモ保安林ハ造ルト云フコトヲ聲明シテ居リマス、斯ウ云フヤウナ答辯ヲシテ居リマスルケレドモ、然ラバ保安林ヲ造ルト云フコトヲ政府ガ聲明シタノハ、一體何所カラ出タモノデアアルカ、私ガ言フ所ノ河川ノ減水致シタ狀態、水害ノ多大ナル狀態ヲ考ヘテ、是ハドウシテモ保安林ヲ造ラナケレバナラヌト思フ、タノデアリマセウ、答辯ニ依テ見ルトサウ云フヤウニ解釋スル外ハナイノデアアル、然ラバ官行所伐ヲ續行シテ行クト云フコトハドウナルカ、一ツモ合ッテ居ナイデヤアリマセウカ、片方デハ伐ルト云フノニ、片方デハ保安林ヲ造ルト云フナラバ、自家撞著トハ此事實ヲ言フノデアリマセウ、斯ノ如キハ決シテ森林政策ノ當ヲ得タルモノト私ハ信ズルコトハ出來ナイ、ソレデ私ガ思フニ、森林政策ト云ヒマスルコト、洵ニ事小ナルガ如クニ諸君ハ感ズルカモ知レマセウケレドモ、我國ハ是ヨリ進ンデ產業立國ト云フ旗印ヲ舉ゲタ黨派モアリマス、產業立國ヲ致スニハ一體何ヲ基準トスルカ、我國ノ水力ハ、洵ニ山嶽重疊シテ居ル爲ニ、非常ナル水力ノ起ルコトハ諸君御承知デアリマセウ、此水力ニ由テ起スヨリ外ニハ何モ途ガナイノデアアル、ソレヨリ外ニ途ノナイ所ノ電力ガ、年々歳々減退シテ居ル狀態ヲ茲ニ一寸申上ゲテ見マセウ、昨年ノ事デアリマスガ、信越ハ五萬七千「キロ」出來ルモノガ三萬九千「キロ」ニ減ジタ、東信ハ五萬四千「キロ」出來ルモノガ二萬六千「キロ」ニ減ジ、京濱ハ二萬二千「キロ」出來ルモノガ僅ニ九千八百「キロ」ニ減ジタト云フコトハ事實デアアル、斯ウ云フヤウニ國家ノ電力ガ年々減退致スト云フコトハ、一體何ト見ルカト云フコトガ私ハ大切ナル問題デアラウト思フ、決シテ黨派問題デモ何デモアリマセウ、之ヲ何トカ救済シナケレバナラヌ、ソレカラ一ツノ證據ヲ舉ゲテ見マセウ、私ハ福島縣デアリマスガ、福島縣ノ相馬中村町ト云フ所、昔ハ六萬石ノ城下デア

ザイマス、其宇田川ト云フ川ノ五里奥ニ中村電氣株式會社ト云フモノガ起リ、其電氣株式會社ハ僅ニ二百「キロ」バカリノ電力デアリマシタケレドモ、年々河水ガ減退シテ來タコトカラ、到頭一昨年般廢致シタト云フ大ナル證據ヲ持テ居ル、是ハ何カラ起リタカ、其川上ハ舊行新伐ト稱シ、或ハ邑ニナ名義ニ於テ之ヲ大ニ伐採致シタルガ爲ニ、河水ハ追々減退致シマシテ、遂ニ國家ヲ富スベキ所ノ電力ノ會社ガ遂ニ般廢ヲシナケレバナラヌト云フマデニ陷リタコトヲ考ヘタトキニ、如何ニ諸君ハ考ヘラレルデアリマセウ、斯ウ云フヤウナ狀態ニナッテ參リマシタ、併シ何万「キロ」トカ、何万馬力トカ、何十萬馬力トカ云フモノニ對シマシテハ、ソレ程關係ハ無イヤウニ思ッテ居リマシタ行「タト」キニハ、ソレモ遂ニ般廢セザルヲ得ナイヤウニナルコトヲ私ハ覺フル者デアアル、サウ云フコトヲ考ヘマシタノハ、何ノ爲ニ佐藤議員ハサウ云フコトヲ考ヘタカト云フナラバ、私ガ茲デ懺悔ヲスルト同様デアアル、私モ三十年ニ亙ッテ伐採事業ヲ試ミマシタガ、自分ノ伐採シタル其後ニ、其河川ヲ眺メタトキニ如何ナル狀態ニナッテ居ルカト云フナラバ、濯洗用水ハ不足ヲ生ジ、何百町歩ト云フモノガソレガ爲ニ非常ニ苦シデ居ルト云フ狀態ニナッテ居ル、之ヲ見マシタトキニ決シテ默視シテ居ラレルモノデハナイ、サウ云フコトヲ熟考ヘタトキニ於キマシテ、政府ハ此般廢ノ二流レタ所ノ狀態ヲ引直シテ、サウシテ大ナル考ヲ以テ——我國ノ材木ガ不足ヲ生ジタ爲ニ、米國カラ輸入スルモノガ億ヲ超エルヤウニナッタルコト云フコトバカリ考ヘナイデ、我國ガ米ノ不足ヲ感ジテ居ルニ拘ラズ、其米ノ不足ハ益々水力ノ減退ニ因リテ不足ヲ來スト云フコトニナッタルコトドウナルカ、水力電氣ガ減退シタトキハ、我國ノ工業、所謂事業ガ出來ナクナッテシマウト云フコトヲ考ヘレバ、當局之ニ大ニ心ヲ注イデ、大ニ此改良ヲ企テルト云フコトハ相當ナルコト、私ハ舊シテ居ル、ソレヲ歷代ノ内閣

ガ續ケテ來タ所ノモノデアアルガ故ニ、益之ヲ實行スルト云フガ如キハ、少シモ整理狀態デハナイト私ハ斷言セザルヲ得ナイ、此ニ至ッテ考フルニ、政府ハ此森林ノ政策ヲ若シ私ノ思フ所ニ從ッテ實行シナイ、ドウシテモ此般廢ノ此國ノ森林ヲ伐採シ行クト云フコトナラバ、ソレハ國家ヲ滅亡ニ導クモノナリト私ハ斷言セザルヲ得ナイ、是ニ於テ水害ノ狀態ハドウデアアルカト云フナラバ、水害ハ年々其費用ヲ嵩ミ來リ、其狀態ヲ見マスト云フコト、先ヅ以テ河川ニ付テ之ヲ研究スルニ、河川ノ狀態ハ底ガ埋マリ、遂ニハ淺瀬トナリ、而シテ是ハ氾濫致スト云フ狀態ニナル、堤防ノ上ニハ堤防ヲ築カナケレバナラヌト云フ狀態ニ於テ、國家ハ地方々々ヲ通ジマシテ約二億圓ノ出費ヲシナケレバナラヌト云フ狀態ニ至リタノハ、是ハ何故デアルカト云フコト、只今申シタ此森林般廢ニ基因スルモノナリト斷言スルノデアアル、然ラバサウ云フ大ナル金ヲ支出スルマデニ、此森林般廢ヲ氣付カナカッタノハ、我國ノ森林ハ多大ナリ、故ニ之ヲ伐採致シテ外國ニ輸出スベキモノデアアルト云フコトヲ考ヘタノハ、第一歩ヲ誤テ居ルノデアアル、此誤ヲ精神ヲ何所マデモ續行致シテ行クト云フ今日ノ狀態デアリトセバ、洵ニ憂ヘザルヲ得ナイノデアアル、斯ウ云フ見地ニ於テ——想ヒ來レバ生口涙ガ出ルヤウナ事ガアル、今水標ヲ諸君ガ御覽ニナッテモ、各川ノ水標ヲ見ルニ水ノ減ジタ時ニハ一向此水標ニハ何トモ書イテナイ、水ノ出タ時バカリ——水害ノ時バカリ何丈バカリ出タト云フコトヲ測ルガ爲ノ水標デアアル、出タ時ヨリモ減ジタ時ヲ考ヘナケレバナラヌノデアアル、タラウト私ハ思フ、出タ時ハ出タデ宜シイ、水害ハ水害デ宜シイガ、減ジタ時ハドウ云フヤウニ此三十年間減ジテ來タモノデアアルカト云フ表ガアルカト云フト、内務省ニ唯、一ツシカアリマセヌ、斯ウ云フコトヲ考ヘ來タトキニハ、諸君ト共ニ此大ナル問題ヲ決シナケレバナラヌト云フコトハ、洵ニ吾々ノ責任デナイカト私

ハ感ズル、サウ云フ點ヨリ致シマシテ、政府ノ答辯ハ私ハ是認スル譯ニ行キマセヌ、傍ラ森林ノ伐採ヲ續行スルト云フ、第二段ニハ保安林ヲ造ルト云フ、テ置イテ一體何ガ何ダカ、チットモ分ラナイ、私ハ飽迄モ再質問ヲ實行致シマシテ、此結果ヲ見ナケレバ止マヌ積リデアリマス、先ヅ第一ニ内務省ニ之ヲ問ハントスルノハ、此年々起ル所ノ水害ナルモノハ、何ノ爲ニ起ルノデアアルカト云フコトヲ答辯ヲ續キタイノデアリマス、何ノ爲ニ此水害ガ起ルノデアアルカ、ソレカラ森林大臣ニ伺ヒタイノハ斯ウ云フ譯デアリマス、是程見易イ所ノモノガ全ク眼ノ前ニ現レテ居ルニモ拘ラズ、ソレヲ森林ヲ飽迄モ伐採シテ行クト云フコトハ一體ドウ云フ譯カ、斯ウ云フノデアリマス、又通信大臣ニ向ッテ、此水害ノ年々減退致シマスル狀態ヲ見テ、此原因ガ如何ニ在ルカト云フ明瞭ナル答辯書ヲ私ハ必要ト致ス者デアアル、此質問ト云フ事ハ一回打切リトモ出セルト云フコトヲ聞イテ、洵ニ私ハ嬉シク感ジテ居リマス、斯ウ云フコトヲ私ハ質問ヲ致シテ、此壇ヲ降ルコトニ致シマス(拍手)

○議長(柏谷義三君) 土屋清三郎君

第四改正日本藥局方改正シタル内務省令ノ效力ニ關スル質問ノ答辯ニ對スル土屋清三郎君ノ意見

(土屋清三郎君登壇)

○土屋清三郎君 我ハ茲ニ第四改正日本藥局方改正ニ關スル内務省令ノ效力ニ關シマシテ、政府ニ質問ヲ致シタノデアリマス、之ニ對シテ過般答辯書ノ交付ガアッタノデアリマスルガ、其答辯ハ何等要領ヲ得マセヌ爲ニ、茲ニ意見ヲ陳述シテ重ネテ政府ノ答辯ヲ求メントスル者デアリマス、質問ハ全ク法律上ノ問題デアリマス、一ツノ法令ヲ二ツニ分ケテ、日ヲ異ニシテ公布スルト云フコトガ適法デアアルヤ否ヤノ問題、尙ホ之ニ附帶シテ、大臣ノ命令ヲ部下ノ一書記官ガ加除訂正シ得ルヤ否ヤト云フ問題ニ關

スルノデアリマス、私ハ元來法律ノ事ニハ門外漢デアアル——門外漢デアアル所ノ私ガ敢テ此質問ヲ致シマスル所以ハ、初メ此奇怪ナル内務省令ガ官報ニ現レマシタトキニ、人アリ之ヲ山田衛生局長ニ問ウタノデアリマス、局長答ヘテ曰ク、適法トモ言ヘズ、適法デナイトモ言ヘズ、斯様ニ答ヘラレタト云フコトデアリマス、更ニ又其人ノヲ大審院長ノ横田秀雄博士ニ質問致シタノデアリマス、博士曰ク、適法デナイコトハ法理上一點疑義ヲ挾ムノ餘地ガナイ、斯様ニ答ヘラレタト云フコトデアリマス、衛生行政ノ首腦デアアル所ノ衛生局長ノ答辯ニシテ既ニ然リ、法學ノ泰斗北斗デアアル所ノ横田博士ノ意見ニシテ又今申上デマシタヤウナ次第デアリマスル爲ニ、府縣ニ於ケル藥品取締ノ官吏ハ申スニ及バズ、全國十餘萬ノ醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師、藥種商、製藥者並ニ賣藥業者等ハ、殆ド其歸向ニ迷ウテ居ルヤウナ次第デアリマス、即チ已ムヲ得ズ私ガ茲ニ此質問ヲ爲スニ至リマシタ所以デアリマス、先ヅ順序トシテ事實ヨリ申上デマス、昨年十二月三日内務大臣ハ内務省令第四改正日本藥局方中七十餘種ノ藥品ノ性狀品質ニ一大改正ヲ加ヘマシテ、同日ノ官報ニ省令第二十七號ヲ以テ次ノ通り公布致シタノデアリマス「内務省令第二十七號、第四改正日本藥局方中下ノ通り改正ス、大正十四年十二月三日内務大臣若槻禮次郎、附則、本令ハ大正十五年一月三日ヨリ之ヲ施行ス」云々、即チ斯様デアリマシテ、大臣ノ署名モアリ、年月日ノ記載モアリマスルケレドモ、肝要ナル改正ノ眼目ニ付テハ何等記載ガ無イノデアリマス、然ルニ同月五日ニ至リマシテ官報ニ誤欄ニ「一昨三日内務省令第二十七號ノ終リニ改正事項ハ本月八日掲載スノ一行ヲ脱ス、内務書記官」即チ三日ノ内務大臣ノ命令ノ半分ハ來ル八日ノ官報ニ掲載スルト云フコトヲ、書記官ノ名ヲ以テ官報ニ掲載致シテ居ルノデアリマス、更ニ同月八日ニ至リマシテ官報ノ省令欄ニ「本月三日内務省令第二十七號ニ入ルヘキ改正事項」斯ウ云フ見出しノ下ニ改

正事項全部ノ掲載ガアツタノデアリマス、併ナガラ此掲載ニ對シテハ主務大臣ノ署名モ又年月日ノ記載モ無イノデアリマス、以上ノ事實ニ基キマシテ、私ハ疑ニ次ノ四ツノ點ニ付テ質問ヲ致シタルデアリマス、第一ハ十二月三日ノ官報掲載ノ内務省令ハ、省令トシテノ形式ハ備ヘテ居ルケレドモ、其眼目トスル所ノ改正事項ノ掲載ガアリマセヌ爲ニ、適法ニ效力ヲ發生シナイ、第二ニ八月八日ノ官報ニ掲載セラレタ所ノ改正ノ内容ニ關スル記事ハ、主務大臣ノ署名モナク、又年月日ノ記載モナク、即チ公式令ニ違反シテ居ルモノデアリカラ、是亦國法上何等ノ效力ヲ發生シナイ、第三ニハ省令ノ加除訂正ハ之ヲ發シタル所ノ大臣自ラ之ヲ加除訂正スベク、部下ノ一書記官ノ名ヲ以テ之ヲ加除訂正シ能ハザルモノト認ムルノデアリガ、是ハドウデアるか、第四ニ斯ル次第デアるか、適法ニ第四改正日本藥局方中改正ニ關スル目的ヲ達シヤウトスルナラバ、改メテ省令公布ノ必要ガアリハシナイカドウカ、是ガ私ノ質問ノ點デアリマシタ、然ルニ之ニ對シテ若槻内務大臣ノ答辯ハ次ノ如クデアリマス「第四改正日本藥局方中改正省令ハ官報掲載ノ都合上——官報第三千九百八十三號及同年同月八日發行官報第三千九百八十七號ニ分載シタルモノニシテ適法ノ公布アリタルモノト認ム、又同年同月五日發行官報第三千九百八十五號ニ於ケル正誤ハ適法ト認ム、隨テ同省令ハ之ヲ再公布スルノ必要ヲ認メス」斯様デアリマシテ、即チ一ツノ内務省令ヲ十二月三日ト八月日ト別ニ分ケテ掲載シタルモノデアリ、官報掲載ノ都合上分載シタルモノデアッテ、適當ノ公布デアリ、又書記官ノ名ヲ以テ内務大臣ノ命令ヲ訂正加除訂正タル云フコトハ適法デアるか、隨テ同省令ハ再公布スルノ必要ガ無イト云フコトデアリマス、其分載ガ如何ナル理由デ適法デアるか、又書記官ノ名ヲ以テスル所ノ加除訂正ガ如何ナル理由ニ於テ適法デアるかト云フコトニ付テハ、何等御説明ガ無イノデアリマス、

是ニ於テ私ハ甚ダ感ヒヲ生ジタノデアリマス、即チ是ヨリ次ノ二點ニ付テ改メテ政府ニ質問ヲ致サウト思フノデアリマス、第一ハ一ツノ法令ガ日ヲ異ニシテ官報ニ分載シ日ヲ異ニシテ之ヲ公布スルコトガ出來ルカドウカ、若シ分ケテ官報ニ掲載シ、日ヲ異ニシテ之ヲ公布スルコトガ出來ルト云フコトデアリマスレバ、施行期日ノ起算點ガ異ナリマス爲ニ、何レノ日ガ效力ヲ發生ノ日デアるかドウカト云フコトガ不明ニナルノデアリマス、假ニ公布ノ日ヨリ效力ヲ發生シタモノト致シマスレバ、一ツノ法令ガ前半ハ三日ヨリ發生シ、後半ハ八日ヨリ發生スルト云フ奇觀ヲ呈スルデアリマセウ、斯ノ如キ事ガ果シテ許サルベキ事デアリマセウカ、如何デアリマセウ、或ハ此問題トナシテ居リマス所ノ内務省令ハ、效力ヲ發生ノ期日ガ本年一月三日ト規定シテアリマスカラ、其以前ニ於テハ官報ニ分ケテ之ヲ掲載シ、日ヲ異ニシテ公布致シマシテモ、同時ニ效力ヲ發生スルカラ差支ガナイトノ御考デアるかモ知レマセヌケレドモ、之ヲ以テ公式令ノ規程ニ對抗スルト云フコトハ出來ナイト信ズルノデアリマス、百歩ヲ譲リマシテ假ニ分載シ得ルト致シマシテモ、十二月三日ノ官報ニハ省令トシテノ形式ヲ具備シテ居リマスケレドモ、改正事項ノ内容ガ無イ、八日ノ官報ニハ改正事項ノ記載ガアリマスケレドモ、大臣ノ署名モ年月日モ記載シテアリマセヌ爲ニ、隨テ省令トシテノ體ヲ成シテ居リマセヌ、之ヲ以テ分載ト云フコトハ當ラナイト思フノデアリマス、分載ニアラズシテ一片ノ雜報ニ過ギナイト私ハ考ヘルノデアリマス、之ニ對シテ政府ハドウ云フ考ヲ持ッテ居ルノデアるか、第二ハ書記官ノ名ニ由ル所ノ省令ノ訂正ヲ適法デアルト云ハレノデアリマスガ、現行官制ニ依レバ省令ノ發布及之ヲ訂正スル所ノ權限ハ、各省大臣ノミニアルト云フコトハ一點疑ヲ容レナイト信ズルノデアリマス、然ルニモ拘ラズ部下ノ一書記官ヲシテ之ヲ加除訂正セシムルト云フコトデアリマスルナラバ、大臣ハ官制ノ規定ニ依ラズシテ自

己ノ權限ヲ部下ニ委任シタルモノデアッテ、即チ權限拋棄デアルト信ズルノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ハ如何ナル考ヲ持ッテ居ルノデアるか、此二ツノ點ニ付テ明白ナル御答辯ヲ要求致シマス

○作問耕逸君 議長

○議長(粕谷義三君) 土屋君、若シ再質問ナサルノデアリマスナラバ、更ニ其手續ヲ御執ニナルヤウニ願ヒマス——作問耕逸君

○作問耕逸君 殘餘ノ意見ノ陳述ハ次ノ質問日マデ留保セラレシコトヲ希望致シマス

〔贊成ト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 作問君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナイト認メマシテ其通り決シマス——是ヨリ日程ニ入リマス、日程第一及第二ハ關聯シテ居ル議案デアリマスカラ、一括シテ議題トスルコトニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナイト認メマス、仍テ日程第一、郵便年金法案並ニ日程第二、郵便年金特別會計法案ノ第一讀會ヲ開キマス——安達通信大臣

第一 郵便年金法案(政府提出) 第一讀會

第二 郵便年金特別會計法案(政府提出) 第一讀會

出)

郵便年金法案

第一條 郵便年金事業ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 郵便年金契約ハ政府カ契約者又ハ第三者ノ生存ニ關シテ其ノ者ニ年金ヲ支拂フヘキコトヲ約シ契約者カ對價トシテ政府ニ掛金ヲ拂込ムヘキコトヲ約スルモノトス

第三條 年金契約ノ種類年金受取人ノ年齡、掛金及年金受取人ノ爲ニ積立ツヘキ金額ノ計算ノ基礎ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 年金ノ額ハ八年金受取人一人ニ付

年額二千四百圓以下トス

第五條 年金契約ノ申込ヲ承諾シタルトキハ郵便年金證書ヲ年金契約者ニ交付ス

第六條 郵便年金證書ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 年金契約ノ效力ハ掛金ヲ拂込ミタル日ニ始マル

第八條 年金受取人カ第三者ナルトキハ其ノ第三者ハ當然年金契約ノ利益ヲ享受ス

第九條 年金契約者ハ年金契約申込ノ際年金受取人ノ死亡又ハ年金契約ノ解除若ハ變更ノ場合ニ於テ掛金ノ返還ヲ請求スル權利ヲ自己又ハ年金受取人タル第三者ノ爲ニ留保スルコトヲ得返還ヲ請求シ得ヘキ拂込持金ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 自己ヲ以テ掛金ノ受取人ト爲シタルトキハ年金契約者ハ年金受取人タル第三者ヲ以テ掛金ノ受取人ト爲スコトヲ得

第十一條 年金受取人タル第三者ヲ以テ掛金ノ受取人ト爲シタルトキハ年金契約者ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十二條 年金ハ第七條ニ規定スル掛込掛金ヲ受取ルヘキ權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十三條 年金ヲ受取ルヘキ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ年額二百五十圓ヲ超ユル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 年金契約者ハ第三者ヲシテ年金契約者トシテノ權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ年金契約者カ年金受取人ニ非サルトキハ年金受取人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第十五條 前項ノ承繼ハ政府ニ通知スルニ非ザレハ之ヲ以テ政府ニ對抗スルコトヲ得ス

第十六條 年金契約者ハ年金支拂ノ事由發生スル迄ハ年金契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第十七條 前項ノ解除ハ將來ニ向テノ其ノ效力ヲ生ス

第十三條 年金契約者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ年金契約ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 年金契約者掛金ヲ拂込マシテ命令ノ定ムル期限間ヲ經過シタルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年金契約ヲ既ニ拂込ミタル掛金ニ依リ掛金拂込済年金契約ニ變更スルコトヲ得

第十五條 年金契約者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ年金契約者又ハ年金受取人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ掛金ノ範圍内ニ於テ貸付ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 年金又ハ第七條ニ規定スル掛金交付金又ハ之ニ基キテ爲シタル貸付ニ付政府力辨濟ヲ受クヘキ金額アルトキハ支拂金額ヨリ之ヲ控除ス

第十七條 當該官署カ命令ノ定ムル所ニ依リ年金又ハ年金契約者若ハ年金受取人ニ返還スヘキ金額ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ支拂ハ之ヲ有效トス

第十八條 年金支拂ノ義務及掛金返還ノ義務ハ二年、掛金拂込ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第十九條 年金契約者又ハ年金受取人カ郵便年金ニ關スル事項ニ付政府ニ對シテ民事訴訟ヲ提起スルニハ簡易生命保險審查會ノ審查ヲ經ルコトヲ要ス

第二十條 前條ノ審查ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第二十一條 郵便年金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第二十二條 郵便年金ノ事務ニ關スル郵便物ハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便年金特別會計法案

第一條 郵便年金事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ掛金、積立金ヨリ生スル收入及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ年金、返還金、事業取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 本會計ニ於ケル歲入總額ノ歲出總額ニ超過スル金額ハ之ヲ積立ツヘシ本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第四條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘格アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入シ又ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公債ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得

第五條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○國務大臣(安達謙藏君) 私ハ只今上程セラレマシタル郵便年金法案ノ說明ヲ致シマス、今回制定セントスル郵便年金ハ、國民ノ既ニ活動ノ力ヲ減耗シ、所得能力ヲ喪失シタル老後ノ生活ヲ安定ナラシメントスル爲ニ設ケル所ノ保險制度ノ一ツデゴザイマス、現在幾多ノ社會問題中、人ノ貧困ナラントスルヲ救ヒ、人ノ貧困ナラントスルヲ防グ、所謂救貧防貧ノ制度ハ重要ナル大問題デアリマシテ、既ニ貧困ニ陷レル者ヲ救済スルノ策ヲ講ズルコトガ固ヨリ必要デアリマスト共ニ、又一面貧困ニ陥ラザラシメル所ノ對策、即チ防貧ノ手段ヲ講ズルコトモ極メテ緊要ナル事柄ト考ヘマス、幾多ノ保險制度ハ概シテ此目的ニ副ハンガ爲ニ設ケラル、所ノ最も進歩シタル相互扶助ノ

組織デアアルコトハ、言フマデモナイコトデアリマス、而シテ人ノ生命ニ關スル保險制度トシテハ、早ク死亡スル者ニ對シテ死亡保險ガ必要デアリマスと同様ニ、長期間生存スル者、即チ永ク壽命ヲ保ツ者ニ對シマシテハ、年金制度ガ最も能ク防貧ノ目的ヲ達シ得ルデアリマス、人生ノ生活中最モ恐ルベキコトハ老幼婦女ノ如ク、活動セントスルモ活動スル能ハズ、殆ド全ク所得能力ガ無ク、而モ家ニハ蓄財ナク、又扶養、哺育スベキ父兄ナク、悲慘ナル狀態デアリマス、是等ノ場合ニ備ヘンガ爲ニハ或ハ養老保險、貯蓄等相當ノ效果ヲ收メ得ベキ制度ガアルノデアリマスガ、其養老保險、貯蓄等ニ依リテ蓄積シ得タル所ノ金額ハ、四圍ノ境遇ニ依リマシテ其元金ヲ費消シ盡スノ危險ガ伴フデアリマシテ、何時マデ生キルカ不明ナル所ノ、所謂豫期シ得ザル所ノ生存期間中ノ必要ニ、的確ニ對應シテ準備スルコトハ不可能デアリマス、然ルニ年金制度ハ終身間毎年一定ノ金額ヲ補償スルモノデアリマスガ故ニ、老幼婦女ノ生活ヲ確實ニ安定スルコトヲ目的ノ爲ニハ最も適切ナルモノデアリマス、隨テ他ノ生命保險、貯蓄制度ト其機能ヲ異ニシ、是等ト相伴ウテ國民生活安定ノ社會制度トシテハ最も必要ナルモノデアリマス、今回制定セントスル郵便年金制度ハ斯様ノ目的ノ下ニ、所謂多數民衆ノ利用ヲ目途トスルコトハ勿論デアリマスガ、又中産階級ノ利用ニモ備ヘントスルモノデアリマス、惟フニ社會ノ健全ナル發達ヲ圖ランガ爲ニハ、一方ニハ多數民衆ヲシテ自助ノ向上ニ努メシムルト共ニ、他方ニハ中産階級ヲシテ能ク其地位ヲ維持シ、下層階級ニ陷ラザラシムルノ方法ヲ講ズルコトガ最も肝要ナリト信ズルデアリマス、郵便年金制度ハ是等ノ必要ニ應ジ、中産階級以下ニ對スル方法制度トシテ之ヲ創設セントスルモノデアリマス、由來我國ニ於テハ家族制度ガ發達致シテ居リマシテ、老幼ノ扶助哺育等ハ相當ニ行届イテ居リマス、經濟組織ノ變化、國民思想ノ變遷等時代ノ推移ニ伴ヒマシテ、今後ニ於

キマシテ、各人獨立シテ各、其生活ヲ堅實、安固ニスルコトガ一層必要デアルト考ヘルノデアリマス、又會社工場等ニ於ケル使用人ト被使用人トノ關係ニ於キマシテモ、永年誠實ニ勤勞シタル人ニ對シ、官吏ニ對スル恩給制度ノ如キモノガ漸次行ハル、ニ至ルコト、想像セラル、ノデアリマスガ、斯、如キ場合ニ利用スベキ制度トシテモ、年金制度ヲ確立シテ置クコトガ甚ダ肝要デアルト信ズルノデアリマス、年金制度ヲ制定セントスル趣旨ハ以上述べタル通りデアリマスガ、我國ニ於テハ從來此種ノ制度ハ未ダ廣ク一般ニ行ハレテ居ラナイデアリマス、現在一二ノ保險會社ニ於テ此事業ヲ經營シテ居リマスガ、其成績ハ微々トシテ振ハナイ狀況デアリマス、其振ハザル所以ハ、我國ニ於テハ一般ニ金利ガ高ク、採算上經營ガ困難デアルガ爲ニ、餘リ會社ハ今日マデ進んで此制度ノ普及ニ努メナカッタノデアリマス、隨テ一般國民ガ此制度ニ關シテ十分ナル理解ガナク、自然年金制度ノ發達普及ガ遅レタノデアリマス、是等ノ點ニ鑑ミマシテ今回之ヲ政府ニ於テ經營致シマシテ、非營利の二且ツ季節期間ヲ利用シマシテ經費ヲ節約シ、出來得ルダケ掛金ヲ安クシテ一般金利等ノ權衡ヲ圖リ、又全國ニ普及セル八千有餘ノ郵便局ヲ取扱機關ト致シマシテ、而シテ利用者ノ便利ヲ圖リ、以テ國民生活ヲ安定シ、延イテハ社會ノ健全ナル發達ニ貢獻セントスルモノデアリマス、此制度ノ設定ニ關シマシテ、政府部内ニ於テハ古クヨリ、即チ明治三十三年郵便貯金法制定ノ際、小口保險ト共ニ併セテ經營セントスルノ議ガアッタノデアリマス、爾來調査ノ歩ヲ進メマシテ、大正五年簡易保險事業開始ノ際ニ於テモ同様ノ議ガアッタノデアリマスガ、併ナガラ其當時ニ於テハ先ヅ簡易保險ヲ實施シ、相當ノ經驗ヲ積ミ、實績ヲ見タル上二年金事業ヲ始ムルコトヲ適當ト認メマシテ、引續キ調査ヲ致シ、今日ニ及ンダノデアリマス、恰モ本年ハ簡易保險モ創業以來滿十年ニ當リマシテ、十年滿期ノ養老保險

組

ノ支拂ヲ開始スルコトニ相成リマシタノデ

アリマシテ、是ト關聯シテ又社會一般ノ狀
勢カラ見テ、今日之ヲ實施スルコトヲ適當
ト認ムルノデアリマス、本制度制定ニ關シ
マシテハ、ソレノ專門家ノ意見モ徵シ、
慎重審議シ、萬遺漏ナキヲ期シタノデアリ
マスガ、此事ガ一度新聞紙上ニ傳ヘラレマ
シテヨリ以來、社會各方面ニ於テモ非常ニ
好感ヲ以テ迎ヘラレテ居リマス、今日マデ
現レタル意見輿論カラ見マシテモ、時代ガ
確ニ之ヲ要求シテ居ルト信ズルノデアリマ
ス、斯様ナ次第デアリマスガ故ニ、慎重
ニ御審議ノ上、何卒御協賛アラシコトヲ希
望致シマス、尙ホ詳細ノ點ニ付キマシテ
ハ、委員會ニ於テ説明致スコトニ致シマス
(拍手)

○森田茂君「労働爭議調停法外二案ノ委
員會ヲ開キマス、委員諸君ノ御集リヲ
願ヒマス」ト呼フ

○國務大臣(安達謙藏君)(續) 次ニハ第二
ノ日程デアリマス、郵便年金特別會計法案ニ
付キマシテ説明ヲ致シマス、本案ハ只今説
明申上ゲマシタ郵便年金法案ト關聯シテ立
案ノ必要ヲ認メタモノデアリマス、申スマ
デモナク郵便年金事業ハ年金契約者カラ拂
込マル、掛金ヲ運用利殖致シマシテ、之ヲ
年金又ハ拂込元金ノ支拂等ニ要スル費用ニ
充ツルモノデアリマスカラ、性質上是ガ收
入及支出ハ一團トシテ獨立ニ計算スルコト
ガ適當デアリマス、隨テ郵便年金事業ニ關
スル歳入及歳出ハ、之ヲ一般會計ト區別シ
テ特別會計ヲ設置スルノ要アルノミナラ
ズ、他ノ特別會計ト併合經理スルコトモ收
支ノ關係ヲ明カナラシメル上ニ於テ、之ヲ
避クルノ必要ガアリマスカラ、本件郵便年
金事業ト其執行機關ヲ同ジクスル簡易生命
保險事業ノ會計トモ引離シテ本案ヲ提出致
シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ
上速ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シ
マス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 日程第三、右各案ノ
審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シ
マス

第三 右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員
ノ選舉

○作間耕逸君 兩案ヲ一括シテ議長指名、
特ニ二十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望
ミマス

○議長(粕谷義三君) 作間君ノ動議ニ御異
議アリマセスカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
四、大正十四年法律第三十五號中改正法律
案ノ第一讀會ヲ開キマス——武内政府委
員

第四 大正十四年法律第三十五號中改
正法律案(日本銀行ノ手形割引ニ因
ル損失ノ補償ニ關スル件)(政府提
出)

大正十四年法律第三十五號中改正法律
案
大正十四年法律第三十五號中左ノ通改正
第一項中「大正十五年九月三十日」ヲ「大
正十六年九月三十日」ニ改ム
(參照)

日本銀行ノ手形割引ニ因ル損失ノ補
償ニ關スル法律 大正十四年三月
法律第三十五號

政府ハ日本銀行カ大正十二年勅令第四百
二十四號第一項第四號ニ該當スル手形ニ
シテ大正十四年十月一日ヨリ大正十五年
九月三十日迄ノ間ニ於ケル満期日ヲ有ス
ルモノノ割引ヲ爲シ之ニ因リテ損失ヲ受
ケタル場合ニ於テ同行ニ對シ其損失ヲ補
償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項補償金額ハ大正十二年勅令第四百二
十四號ニ依ル補償金額ト合シテ一億圓ヲ
超ユルコトヲ得ス

日本銀行ハ本法ニ依リテ爲ス手形ノ割引
ニ付政府ノ監督ヲ受クヘシ

○政府委員(武内作平君) 只今議題トナリ

マシタル大正十四年法律第三十五號中改正
法律案ハ、大正十二年九月大震災直後ノ施
設ト致シマシテ、勅令第四百二十四號ヲ以
テ、震災手形ニ對シ日本銀行ヲシテ特別融
通ヲ爲サシムルノ制度ガ設ケラレタノデア
リマス、而シテ其融通ノ期間ヲ大正十四年
九月三十日迄ト定メラレタノデアリマシタ
ガ、更ニ大正十四年法律第三十五號ヲ以テ
一年ノ間延長致シマシテ、大正十五年九月
三十日迄ト改正セラレタノデアリマス、而
シテソレガ現行法デアリマス、然ルニ震災
ガ原因トナテ居リマス財界ノ創痍ハ豫想
以上ニ甚シク、其整理恢復ハ漸次ニ進捗シ
テ居リマスルケレドモ、現狀ニ於キマシテ
ハ尙ホ不十分デアアルコトヲ免レナイノデア
リマス、隨ヒマシテ現行法ニ規定シテアリ
マス融通期間デハ、震災手形ノ債務者デア
ル商工業者中ニ其債務ヲ完済シ得ナイ者モ
アリマサルシ、又震災手形ノ割引致シマシ
タ一般銀行中ニモ、尙ホ金融ノ疏通ノ爲ニ
震災手形ニ對シマサル特別融通ヲ必要トス
ルモノモアルノデアリマス、左様ナ次第デ
アリマスカラ、現下ノ經濟界ノ趨勢及震災
ニ因リマス損害ノ復舊狀態ニ鑑ミマシテ、
現行法及勅令ノ趣意ヲ達成セシメマスル爲
ニ、大正十四年法律第三十五號ニ規定シテ
アリマサル特別融通期間ヲ更ニ一年間延長
シ、之ヲ大正十六年九月三十日迄ト改正ス
ルノ必要ガアルノデアリマス、慎重審議速
ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス
(拍手)

○議長(粕谷義三君) 日程第五、右議案ノ
審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シ
マス

第五 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員
ノ選舉

○作間耕逸君 本案ハ議長指名、特ニ二十八
名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 作間君ノ動議ニ御異
議アリマセスカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
六、商事調停法案ノ第一讀會ヲ開キマ
ス——江木司法大臣

第六 商事調停法案(政府提出)

商事調停法案

商事調停法

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
六、商事調停法案ノ第一讀會ヲ開キマ
ス——江木司法大臣

第六 商事調停法案(政府提出)

商事調停法案

商事調停法

第一條 商事ニ關シ爭議ヲ生シタルトキ
ハ當事者ハ相手方ノ住所、居所、營業
所若ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁
判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定リタ
ル地方裁判所若ハ區裁判所ニ調停ノ申
立ヲ爲スコトヲ得

第二條 商事調停ニ關シテハ本法ニ別段
ノ規定アルモノヲ除クノ外借地借家調
停法ヲ準用ス

第三條 裁判所調停ヲ爲スニ付必要アリ
ト認ムルトキハ計算人ヲ選定シ之ヲシ
テ計算ヲ爲サシムルコトヲ得
調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ前
項ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員
會ニ屬ス

第四條 調停委員會ハ當事者ノ合意アル
場合ニ於テハ第一條ノ爭議ニ付民事訴
訟法ニ依ル仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ當事者ノ指定シタ
ル調停委員會ニ屬スル裁判所ハ申立ニ
因リ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第五條 借地借家調停法第十八條及第二
十九條乃至第三十一條ノ規定ハ前條ノ
規定ニ依ル仲裁ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
當事者ノ一方ニシテ本法施行地區内ニ住
所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル者
ニ對シ調停ノ申立ヲ爲シ得ヘキ事件ニ付
テハ其ノ相手方ノ住所、居所、營業所
及事務所カ本法施行地區外ニ在ル場合ト
雖之ニ對シ其ノ住所、居所、營業所又
ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ
調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

〔國務大臣江木翼君登壇〕

○國務大臣(江木翼君) 議題トナリマシタル
商事調停法ニ付テ提出ノ理由ヲ説明致シ
マス、商事ノ取引ニ關シマス紛争ヲ、訴
訟及之ニ對スル裁判ニ依リマシテ解決ヲセ
ント致シマスル、其解決ニ頗ル多額ノ費
用ヲ要シ、又多數ノ日子ヲ要スルハカリデ
ナク、爾後ノ取引ノ上ニ頗ル好マシカラ
ザル結果ヲ貽スノ虞ガナト致シマセヌ、
此種ノ紛争ハ寧ろ調停ニ依リマシテ簡易且
ツ迅速ニ之ヲ解決シ、且ツ爾後ノ取引ヲ圓
滿ニ繼續セシムルコトヲ圖ルノガ最も得策
ナルト信ズルノデアリマス、本案ハ商事
ニ關シマス紛争ヲ調停ニ依リ解決シヤウ
ト致スモノデゴザイマシテ、本案ニ依リマ
スレバ裁判所又ハ調停委員會調停ノ任ニ當
ルモノデアリマス、調停委員會ハ判事
ヨリ指名セラレタル所ノ調停主任、及民間
カラ選任致シマシタル所ノ調停委員ト、此兩
者カラ成立シテ組織セラレ、モノデアリマ
ス、調停ハ當事者ノ合意ニ依リテ成立致シ
マシタモノニ對シマシテハ、裁判所ノ爲シ
タル調停ハ直ニ效力ヲ發生シ、又調停委員
會ノ爲シタル調停ハ裁判所ノ認可決定ニ依
リマシテ、確定判決ト同一效力ヲ有スルモ
ノトナルノデアリマス、尙ホ本案ニ於キマ
シテハ、仲裁人トシテ調停委員會ヲ選定ス
ルコトヲ得ル旨ヲモ規定ヲ致シタルデアリ
マス、從來我國ニ於テ仲裁判斷ナルモノ、
制度ガアリマスアレドモ、其行ハル、コト
ガ極メテ稀デアリマスルノハ、種々ノ原因
ニ依ルモノデアリマセウケレドモ、適當ナ

ル仲裁人ヲ得ルニ困難ナルコトモ亦其原因
ノ一ツデアラウカト思ハレマス、本案ハ茲
ニ顧ル所ガアリマシテ、新ニ此規定ヲ設ケ
タ次第デゴザイマス、之ヲ要シマスルニ今
後益々複雑トナリツ、アリマスル所ノ商事
取引ノ紛争ヲバ、圓滿ニ且ツ迅速ニ解決ス
ル目的ヲ以テマシテ、訴訟ニ對スル裁判ト
相俟テ調停ノ手續ヲ採用致サウトスルモ
ノデゴザイマス、頗ル必要ナルコト、認メ
マスノデ、何卒御審議ノ上速ニ御協賛ヲ與
ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 日程第七、右議案ノ
審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シ
マス

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員
ノ選舉

○作問排逸君 本案モ亦議長指名特二十八
名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成ト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 作問君ノ動議ニハ御
異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シ
マシタ、日程第八、大正十二年勅令第四百
五號廢止法律案第一讀會ヲ開キマス——片
岡商工大臣

第八 大正十二年勅令第四百五號廢止
法律案(暴利取締令廢止ノ件)(政府
提出、貴族院送付) 第一讀會

大正十二年勅令第四百五號廢止法律案
大正十二年勅令第四百五號ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣片岡直溫君登壇〕

○國務大臣(片岡直溫君) 只今議題トナリ
マシタ案ハ暴利ニ關スルシマシテ、生活必
需品ニ關スル暴利取締ノ爲ニ發セラレマシ
タ大正十二年勅令第四百五號ヲ廢止セント
スルノデゴザイマス、彼ノ關東大震災ニ當
リマシテ、物資ノ需給關係ノ激變ヲ致シマ
シタルニ乘ジ、暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ買

占、賣惜、又ハ不當ノ價額ヲ以テ販賣シ、
大ニ國民生活ヲ脅威スルノ虞ガアリマシタ
ノデ、此緊急ナル事態ニ善處スル爲ニ、生
活必需品ニ關スル暴利取締ノ緊急勅令ヲ發
セラレタ次第デアリマス、本令發布後ニ於
テモ相當、多數ノ違反者ヲ出シタルデアリ
マスガ、漸次其數ヲ減ジ、暴利ヲ抑制シ、
物價低落ノ趨勢ヲ馴致致シマシタルコトニ
付テハ、本令ノ效果與、テカアリト存ズル
ノデゴザイマス、惟フニ本勅令ハ這般ノ震災
ニ處スル一時、之ヲ命令デゴザイマシテ、震
災ニ因ル需給關係モ平生ニ復シタル今日ニ
於テハ、既ニ本令ヲ存置スルノ必要モ無
二日以後ハ、新ナル違反事件ト云フモノモ
起リマセヌ、且ツ裁判所ニ繫屬中ノ事件モ
全部判決確定ヲ致シタルデアリマス、ソレ
故ニ今回本勅令廢止法律案ヲ提出致シマシ
タ次第デゴザイマス、宜シク御審議ノ上速
ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマス(拍
手)

○議長(粕谷義三君) 日程第九、右議案ノ
審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シ
マス

〔贊成ト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 作問君ノ動議ニハ御
異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマ
シタ——日程第十、第十一ハ同一委員ニ付
託シタル議案デアリマスカラ、一括議題ト爲
スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナイモノト認
メマス、仍テ第十、健康保險法中改正法律
案、第十一、健康保險特別會計法案、右一
括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス——委員長
平野光雄君

第十 健康保險法中改正法律案(政府
提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一健康保險法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
大正十五年二月二十七日

健康保險法中改正
法律案委員長
近藤 達見

衆議院議長粕谷義三殿

第十一 健康保險特別會計法案(政府
提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一健康保險特別會計法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
大正十五年二月二十七日

健康保險特別會計法案委員長
近藤 達見

衆議院議長粕谷義三殿

○平野光雄君 只今議題トナリマシタル健康
保險法中改正法律案及健康保險特別會計法
案ノ兩案ニ付テ、委員會ノ經過及結果ヲ簡
單ニ申上ダマス、委員會ハ前後兩回ニ互リ
マシテ審議ヲ重ネマシタ、御承知ノ通り健
康保險法ハ去ル第四十五議會ヲ通過シテ居
リマシテ、以來財政上ノ都合カラ此實施ガ
延ビ々々ニナツテ居リマシタガ、現内閣ガ
社會政策ノ一端トシテ、之ヲ本年ノ七月一日
及大正十六年ノ一月一日ノ兩度ニ分ケテ實
施ノ順序トシマシテ、此兩回ニシテ、一施
行シタイト云フノデアリマス、全體ハ勅令
デ定メラルベキ筈デアッタノデアリマスガ、
法制上ノ先例及實際ノ必要カラシテ、今回
法律案トシテ提案サレタルデアリマス、隨
テ此實施ニ伴フ當然ノ結果トシテ、健康保
險特別會計法ノ必要ヲ生ジタルデアリマス、
故ニ案其モノトシマシテハ、至ッテ簡單明
瞭ノモノデアリマス、隨テ案ノ内容ニ付キ

マシテハ、委員會デハ左程綿密ナ質疑ト云
フモノハアリマセデシタ、唯、此實施ニ
伴フ所ノ實際問題トシテ被保險者ノ醫療關
係、被保險者ガ醫師ノ自由選擇ヲ爲シ得ル
ヤ否ヤ、即チ一般開業醫トノ關係是ガ一ツ、
今一ツハ被保險者ガ疾病或ハ傷害ニ罹ル
場合ニ醫療ヲ受ケ、又ハ相當ノ手當ヲ受ケ
マスカラ、此間知ラズ識ラズノ間ニ急々癡
ノ出ルヤウナコトハナカラウカ、隨テ是ガ
生産能率ニ及ボスト云フヤウナコトモ懸念
サレル、斯ウ云フ實施ニ伴フ弊害ニ付テ懸
念サレタ質問ガアリマシタ、之ニ就テハ前
者ハ醫師會ニツレド、當局トシマシテモ諮
リマシテ相當ノ施設ヲシヤウ、後者ニ付キ
マシテハ、是ハ被保險者ノ過去ノ勤惰其他
カラシテ平均ヲ取テ、サウ云フ急ケルコ
トノ出來ナイヤウナ方法ヲ講ゼラル、ヤウ
ナコトニ自然ナッテ居リマス、右二點ガ先
ツ委員會トシマシテハ將來ニ及ボス重要ナ
質疑ノヤウニ心得テ居リマス、向ホ一般國
民ノ保健衛生上ノ施設、或ハ衛生省、保健
省ト云フヤウナ問題等モ出マシタ、向ホ問
題ニナッテ居リマス賣藥ノ内容公示ト云フ
ヤウナコトモ質問トシテ現レテ參リマシタ
ガ、是ハ本案ニハサウ密接ノ關係モ無イノ
デアリマスカラ、此詳細ハ省キマス、向ホ
詳シイコトハ委員會ノ速記録ニ依ッテ御覽
ヲ願ヒマスガ、要スルニ本案ハ滿場一致各
案共御賛成ヲ得マシテ、異議ナク委員會ハ
可決致シマシタ、以上御報告致シマス（拍
手）

○議長（粕谷義三君） 質疑ノ通告ガアリマ
ス、仍テ之ヲ許シマス——宮島幹之助君

〔宮島幹之助君登壇〕

○宮島幹之助君 只今議題トナッテ居リマ
スル健康保險法ニ關シマシテ、只今委員長
カラ御報告ガアリマシタガ、此御報告ニ關
聯致シマシテ、此際內務當局ニ對シテ私ノ
懷イテ居リマス疑義ヲ質シテ見タイト思フ
ノデアリマス、此健康保險法ガ今回ノ議會
ヲ通過致シマスレバ、愈々本年ノ七月一日
カラ實施サレルトコトニナルノデアリマス
ガ、此本法ノ實施ニ伴ヒマシテ、國民一般

ノ衛生上ノ施設ヲ完ウスルコトガ最も是ハ
必要ナ事デアッテ、政府當局ニ於カレマシ
テモ色々御考ニナッテ居ルコト、信ズルノ
デアリマス、現ニ英國ナドデハ健康保險法
ヲ實施スルニ當リマシテ、特ニ國民ノ保健
ヲ完ウスル爲ニハ醫學研究理事會ノメカ
ル、リサーチ、カウシシル」是デ色々ノ問
題ヲ付議シ、又此理事會研究理事會ハ年額二
百五十萬圓ノ豫算ヲ以テマシテ、或ハ自ラ
國立ノ醫學研究所ヲ經營シ、又一面ニ於キ
マシテハ、各大學或ハ私設ノ研究所等ノ專
門家ニ囑託致シマシテ、ソレト實際ニ必
要ナ問題ノ調査ニ從事シテ居ルノデアリマ
ス、其調査ノ結果ハ直ニ公ニサレマシテ、
一般國民ノ衛生ヲ増進スル上ニ於テ大ニ貢
獻致シテ居ルノデアリマス、是ハ申スマデ
モナク、健康保險法ノ實施ト國民一般ノ衛
生施設ト云フモノガ、極メテ密接ナル關係
ヲ持ッテ居ルコトヲ示スモノデアリマス、
又現ニ健康保險法ノ中ニ於キマシテモ、其
被保險者ニ對シテ保險ノ給付ヲ與ヘマス際
ニ、其費用ノ十分ノ一ト云フモノハ國庫ガ
負擔スルコトニナッテ居ルノデアリマス、之
ヲ見マシテモ國家ハ被保險者ノ疾病ノ一部
分ト云フモノハ、少クモ政府ノ直接、或ハ
間接ニ管理シテ居リマス所ノ、衛生施設ノ
如何ニ歸スル次第デアリマスルカラ、其責
任ノ一部ヲ負フト云フコトニ基クモノト吾
吾ハ考ヘテ居ル者デアリマス、然ルニ此健
康保險法ハ今ヤ實施セラレントスル今日ニ
於キマシテ、我ガ政府ノ衛生施設ヲ見マス
ルノニ、何等國民ノ保健上ニ新ナル施設ヲ
見ル所ガ無イノデアリマス、殊ニ吾々ノ遺
憾ニ思フコトハ、從來ノ內閣ヲヤリ來テ所
ノ事業スラモ、或ハ財政上ノ關係モアリマ
セウガ、徒ニ收縮ヲ致シテ、毫モ國民ノ保
健上ニ顧慮シナイト云フヤウナ疑ヲ吾々ハ
懷カザルヲ得ナイノデアリマス、過日モ稅
制整理委員會等ニ於キマシテ、賣藥稅ノ廢
止問題ガアリマシタ際、政府當局ト委員ト
ノ間ノ問答ヲ聞イテ居リマス云フト、又
私自ラノ質問ニ對スル政府ノ答ニ依リマシ
テモ、衛生行政ノ局ニ當ル人達ハ、國民ノ

衛生上ノ端ヲ未發ニ防グト云フコトニ、如何
ニ無關心デアアルカト云フコトヲ吾々ハ感ゼ
ザルヲ得ナク、タノデアリマス、例ヘバ賣藥
稅ノ廢止ニ伴ヒマシテ、當然起テ來ルト考
ヘラレル所ノ色々ナル弊害ヲ豫防スル爲
ニ、賣藥法ノ改正ヲ行ッテ、之ヲ嚴重ニ取締
ルカドウカト云フコトヲ質問致シマシタ
際、衛生局長等ノ答辯ニ依リマス、弊害
ガ起ッテカラ何トカシヤウト云フヤウナ考
デアルハ、是ハ恰モ泥棒ガ入リマシタ際ニ、
逃ゲテカラ繩ヲ縛フヤウナモノデアリマシ
テ、實ニ緩慢ナル施設ト謂ハザルヲ得ナイ
ト信ズル者デアリマス、斯様ナ次第デアリ
マスルガ故ニ、私ハ此健康保險法ガ實施セ
ラル、ノ今日ニ方リマシテ、二三ノ事例ヲ
引イテ政府當局ノ所信ヲ質シテ置キタイト
思フノデアリマス、第一ハ內務省所管ノ榮
養研究所ノ問題デアリマス、諸君モ御承知
ノ通り大正八年ニ本院ニ國立榮養研究所ノ
設立ノ建議案ガ現レマシテ、直ニ可決サレ
タノデアリマス、翌年即チ第四十三議會ニ
於キマシテ、政府ハ國立榮養研究所ノ豫算
ヲ計上致シ、之ヲ議會ニ提出シタノデアリ
マスルガ、衆議院並ニ貴族院共ニ協賛ヲ與
ヘマシテ、此國立研究所ハ大正九年ニ於テ
設立サレタノデアリマス、斯様ナ沿革カラ
考ヘマスト云フト、今日ノ國立榮養研究所
ナルモノハ、國民ノ意思ニ依ッテ出來タモ
ノト吾々ハ考ヘテ差支ナイト思フノデアリ
マス、此榮養研究所ハ設立以來僅カ數年ヲ
關スルニ過ギマセヌガ、其經營宜シキヲ得
又政府ノ鞭撻宜シキヲ得タガ爲デアリマセ
ウ、中ニ其業績ニハ見ルベキモノガ少クナ
イノデアリマス、例ヘバ日本國民ノ主食物
デアアル米麥ノ消費方法ノ改善デアルトカ、或ハ
或ハ經濟的ノ榮養ノ研究デアルトカ、或ハ
又保健上ノ榮養若クハ食品ノ加工等ニ關ス
ル研究等、若クハ其成績ヲ舉ゲ、其中
ニハ海外ニマデモ傳ヘラレテ、斯道ノ專門
家ヲ驚倒シテ居ル所ノ重大ナル發見モアル
ノデアリマス、是ハ國民ノ保健上又我國ノ
食糧問題ノ解決上ニ、實ニ奇與スル所ガ多
イノデアリマシテ、昨年ノ秋我國ニ極寒熱

帶醫學會ガ開カレ、續イテ國際聯盟主催ノ
下ニ國際衛生技術官交換會議ト云フモノガ
日本ニ開カレタノデアリマスルガ、其際外
國カラ參リマシタ醫學者、或ハ衛生專門家
等ハ、親シク此研究所ヲ觀察致シマシテ、
其業績ノ立派ナノニ皆驚嘆ヲ禁ジ得ナカ
タノデアリマス、加之此研究所ノ業績ハ遠
ク歐米ニ傳ハリマシテ、斯道ノ專門家ハ遂
ニ書ヲ寄セテ、此研究所ノ業績ヲ外國文デ
發表スルコトヲ懇請致シテ居ル次第デアリ
マシテ、是等ノ事ハ內務當局者モ能ク御承
知ノ事デアラウト思フノデアリマス、然ル
ニ斯ル立派ナ業績ヲ發表シテ居ル所ノ榮養
研究所ノ經費ヲ見マスルト云フト、實ニ吾々
ハ解釋ニ苦シム點ガアルノデアリマス、
創立以來大正十三年マデハ、年々ノ經費或
ハ十五萬圓或ハ十二萬圓デアリマシタノ
ガ、現內閣即チ加藤內閣ノ出來マスルヤ否
ヤ、其經費ハ忽チニ半減サレマシテ、僅カ
六萬圓餘ニナッタノデアリマス、學者ノ研
究ナドト申シマスモノハ、決シテ短イ期間
デ以テ出來ルモノデハナイ、短クテモ一年
或ハ問題ニ依リマシテハ數年ノ時日ヲ藉サ
ナケレバ、其成績ガ舉リ得ナイノデアリマ
ス、斯様ナ永久ノ施設ニ向ッテ、政府ハ何
故ニ僅カバカリノ經費ヲ御節約ニナルノデ
アルカ、將來政府ハ此國民ノ生活上ニ重要
ナ榮養研究所ノ事業ヲ擴張スルノ御意思ア
リヤ否ヤト云フコトヲ、此際承ッテ置キタイ
ノデアリマス、第二ニハ運動體育ノ獎勵ニ
關スル件ニ關シテ、當局ノ所信ヲ何ッテ
置キタイ、國民ニ運動ヲ獎勵シ、體育ノ向
上ヲ圖ルト云フコトハ、是ハ國民ノ保健ノ
積極的政策デアリマシテ、最も吾々ノ獎勵
シ、慫慂スル所デアリマス、今日我國ニモ
運動熱ガ盛ニナリマシテ、若イ人達ガ運動
ニ從事シ、體育ノ向上ヲ圖ルノヲ見テ、吾々
ハ國家ノ將來大ニ喜シデ居ル者デアリマ
ス、然ルニ此運動モ之ヲ指導其宜シキヲ得
ナケレバ、色々ナ弊害ガ起リ得ルノデアリ
マス、現ニ吾々ノ寒心ニ堪ヘナイコトハ、
運動ノ盛ナルニ伴レテ、或ハ競技本位トナ
リ、或ハ明治神宮ニ大競技會ヲ開イタリ、

或ハ又徒ニ外國ノ遊戯ヲ田舎ニマデモ入レマシテ、山間僻邑ノ小學校ノ校庭等ニハ「テニスコート」ヲ設ケ、一里モ二里モ通ハナクテハナラヌ所ノ學校生徒ヲシテ、「テニス」ノ運動ヲヤラセル、斯様ナ運動ノ獎勵法ト云フモノハ、決シテ當ヲ得タモノデナイト私ハ信ズル者デアリマス、此運動ヲ正當ニ指導スル所ノ者ガ無イ爲デアリハシナイカト私ハ信ジテ居ル、然ルニ此運動獎勵、或ハ體育ノ獎勵、是等ノ問題ハ國民全般ニ係ルコトデアルガ故ニ、國民ノ衛生ヲ掌ツテ居ル所ノ内務省ノ所管ト吾ハ考ヘルノデアリマス、然ルニ聞ク所ニ依ルト内務省ト文部省トノ間ニハ、此運動、體育獎勵ノ事業ト云フモノハ、一ツノ所管爭ニナツテ居ルト云フコトヲ承ケタノデアリマス、現ニ大正十五年ノ豫算編成ノ際ニ、内務省ハ運動獎勵費トシテ十七萬圓ヲ計上致シテ、所ガ文部省ガ又同ジヤウナ費用ヲ計上致シ、其結果所管ガ定マラナイ爲ニ、此十七萬圓ノ費用ハ割除サレタト云フコトヲ、新聞ノ雜誌ガ傳ヘテ居ルノデアリマス、果シテ斯様ナ事實ガアルヤ否ヤハ知りマセムケレドモ、免ニ角ニ内務省ト文部省トノ間ニハ徒ニ蝸牛角上ノ爭ヲ致シマシテ、此重要ナ問題ヲ今以テ等閑ニ附シテ居ル、是ハ何事デアアル、速ニ其所管ヲ決定シ、國民ノ此運動ニ大ニ熱心ニナツタル今日ニ於テ、宜シク指導ヲ致シ、又其向上ヲ圖ラレタイト私ハ考ヘル者デアリマスガ、内務當局ハ此運動獎勵及體育ノ獎勵ハ、内務省ノ所管ナリトセラルルヤ否ヤ、御確答ヲ煩ハシタイノデアリマス、第三ハ昨年我國ニ流行致シマシタ「コレラ」病ノ流行ニ關スル問題デアリマス、御承知ノ通り昨大正十四年八月「コレラ」ノ病毒ガ上海地方カラ我國ニ輸入サレマシテ、昨年ノ八月三十日ニ第一ノ患者ヲ出シマシテ以來、十二月三十一日迄ニ患者總數六百三十九人、其中死亡セタル者三百八十五人、保衛者即チ「コレラ」ノ菌ヲ體內ニハ持ツテ居ルケレドモ、病狀ヲ現ハサズシテ危險ナ所ノ保衛者ナルモノガ、實ニ二百三

十人ヲ出シタノデアリマス、其病毒ハ年ヲ越エテ本年ニマデモ彼方此方ニ、十數名ノ患者ヲ發生スルニ至リマシタ、其蔓延區域ハ三府二十縣ノ廣キニ及ビ、是ガ爲ニ我が國民ニ與ヘタ所ノ直接ノ損害ト云フモノハ、莫大ナモノト謂ハナケレバナラヌノデアリマス、例ヘバ極メテ貧弱ナル所ノ町村ニ一名ノ「コレラ」患者ガ發生シマスト云フト、極メテ貧弱ナ町村ニ於テ三千圓ノ費用ヲ要シタト云フヤウナ實例モアルノデアリマシテ、如何ニ此「コレラ」ノ流行ガ我が國民ニ損害ヲ與ヘタカト云フコトハ明カデアリマス、又獨リ直接ノ損害バカリデハナク、間接ニハ「コレラ」病毒ガ海面ヲ汚染シマスル結果、政府當局ハ命令ヲ發シテ其區域ノ漁撈ヲ禁ズル、此漁撈ヲ禁ジタガ爲ニ、其附近ニ於ケル漁民數万人ハ、生業ヲ失ヒ、其日ニモ苦ムト云フヤウナ狀態ニ陥タノデアリマス、是ハ東京附近ニ於テ現レタ事實ハ能ク之ヲ皆樣方ニ證明シテ居ルコト、思フ、尙又此「コレラ」ノ流行ノ爲ニ生魚等ノ取引ガ非常ニ妨ゲラレマシテ、多大ノ損害ヲ魚屋ガ受ケナケレバナラヌノデアリマス、吾ハ「コレラ」ノ流行ノ爲ニ、東京市ノ魚市場タケデ、僅カ九、十、十一ノ三箇月間ニ一昨年ト比較シマシテ賣上高ノ減タコトハ實ニ四百餘萬圓ニ上ツテ居ルノデアリマス、僅カ一個ノ魚市場ニ對シテ四百萬圓餘ノ損害ヲ與ヘルト云フコトハ、是ハ決シテ輕クナイ所ノ事實デアルト、私ハ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、斯様ナ問題ニ付テ私ガ政府當局ニ質問ヲ致シタナラバ、必ズ答ヘラレデアラウ、即チ「コレラ」ノ如キ傳染病ノ流行ハ已ムヲ得ナイ所ノ禍デアアル、斯様ニ答ヘラレデアラウト思ヒマスガ、併シ諸君、現在ノ醫學ハ明治ノ初年ノ如キ幼稚ナモノデアリマセヌ、今日細菌學ガ發達致シ、防疫學ガ進歩致シ、「コレラ」ノ如キ外國カラ這入ッテ來ル所ノ傳染病ハ、決シテ之ヲ防グコトガムツカシクナイノデアリマス（ヒヤヒヤ）若シ其間ニ手段カリサヘナクナラバ、斯ノ

如キ容易イ所ノ仕事ハナイノデアリマス、即チ防疫上最も重要ナモノハ何デアアルカト申シマス、其第一線デアアル所ノ海港檢疫デアリマス、海港檢疫、即チ各海港ニハ檢疫所ヲ設ケ、此所ニ於テ一々海外カラ這入テ來ル所ノ患者ナリ、或ハ保衛者ヲ検査致シマスレバ、此病毒ノ侵入ヲ未發ニ防グコトハ決シテ難クハナイノデアリマス、然ルニ私ハ政府當局ノ一昨年末ニ行ハレタ所ノ行政整理ニ於テ、極メテ遺憾ナ一事ガアルノデアリマス、ソレハトウ云フコトデアアルカト申シマス、大正十三年十二月二十日ニ、是迄内務省ノ衛生局ニ直屬致シテ居タ所ノ海港檢疫ノ事業ガ、突然何等衛生トハ關係ノ無イ大藏省ニ移管サレタノデアリマス、是ハ遺憾千萬デアリマス、諸君、役所ノ事ヲ御承知ノ方ハ疾ニ御諒ホノ事ト思フノデアリマスルガ、免角管掌ガ違ヒマスト云フト、其間聯絡ヲ缺キ、中ニ仕事ガ運バヌノデアリマス、先ニ申述ヘマシタ體育獎勵ニ於テ文部省ト内務省トノ間ガ爭ヲシテ居ル、即チ權限爭ヲスルト云フノガ一例デアリマシテ、此防疫上ニ機宜ノ處置ヲ執ルコトノ最も肝要ナ海港檢疫ノ如キ事業ヲ大藏省ニ移サレタ爲ニ、色々ナ故障ガアルコトヲ私ハ常ニ承ケテ居ルノデアリマス、殊ニ昨年上海地方ニ「コレラ」ノ流行シマシタノハ七月ノ半バカラデアリマシテ、少クトモ月末マデニハ、上海ニ防疫官ガ駐在シテ居リマスカラ、必ズ内務當局ニ向ッテ報告ヲ致シタニ相違ナイ、即チ内務省ハ「コレラ」ノ流行ヲ知り、是ガ防疫ノ手段ヲ執ルコトニ躊躇サレナカッタコト、思フ、所ガ第一ノ「コレラ」患者ノ發生シタ狀況ヲ能ク調ベテ見マスルト云フト、丁度上海ノ「コレラ」ガ流行致シマシタ當時カラ、約一箇月後ニ始テ病人ガ日本デ出タノデアリマス、ソレハ而モ橫濱デ以テ病毒ニ感染シ、東京ニ這入ッテカラ發病シタノデアリマス、段々内情ヲ調ベテ見マスルト云フト、此海港檢疫ニ於テ「コレラ」ナドノ流行時ニハ、臨時ニ多數ノ防疫醫、即チ惡疫ヲ防グ所ノ醫者ヲ備ハナケレバナラヌノデアリマス、

所ガ斯様ナ事務ニハ餘リ慣レテ居ラヌ所ノ大藏省當局ハ、此醫者ヲ備フニハ其月給ガ高イトカ安イトカ申シテ居リマシテ、内務省トノ交渉ニ空シク日ヲ費シテ居ル間ニ、人手ガ足りナイ結果、橫濱ニ於ケル所ノ檢疫ガ十分ニ行ハレナカッタ、即チ其檢疫ノ一番大切ナ事ハ、橫濱港ニ這入ッテ來ル所ノ船舶ノ乗組員或ハ船客ノ、是等ノ者ノ總テノ糞便ヲ検査致サナケレバナラヌノデアリマス、人手ガ少イトソレガ十分行ハレナイ、其結果「コレラ」ノ病毒ガ先ヅ橫濱ノ港ヲ汚染シタノデアリマス、此海水、或ハ此海カラ獲レル所ノ魚ニ依ッテ、病毒ハ陸ニ上ツテ來ル、其上下タ所ノ病毒ハ東京ニ來テ爆發致シタノデアリマス、斯様ナ事實カラ考ヘマスルト云フト、昨年「コレラ」ノ流行ハ、其原因何所ニ在ルカト申シマスルナラバ、政府ハ徒ニ行政ノ整理ノ名ニ撞レタ、防疫上最も重要ナル海港檢疫ノ事業ヲ、内務省ヨリ大藏省ニ移管シタルコトニ在ルト私ハ結論セザルヲ得ナイノデアリマス（拍手）行政或ハ財政ノ整理ト云フコトハ、現内閣ノ常ニ標榜サレテ居ル所デアリマシテ、洵ニ結構ナ事デアリマスルガ、吾國國民ハ、生命ヲマデモ緊縮サレタハ、決シテ默シテ居ルコトハ出來ナイノデアアル（拍手）政府當局ハ此海港檢疫ノ事務ヲ大藏省ニ置カレタ、果シテ何等ノ不便ナシト御感ジニナルノデアリマスカドウカ、吾ハ信ズル所ニ依リマスレバ、此海港檢疫ノ事務ハ成ベク早く、一日モ早く還元シテ、元ノ内務省ニ御戻シニナルコトガ必要デアルト、私ハ信ズルノデアリマスガ、政府ハ之ヲ御實行ナサル御所信ガアルカ否カト云フコトヲ御伺シタイト思フノデアリマス（拍手）

（政府委員俵孫一君登壇）

○政府委員（俵孫一君） 宮島君ヨリ國民ノ健康ニ付テ色々高唱セラレタ其一部トシテ、只今三點ニ付テ御質問ガアツタノデアリマス、大體ニ於キマシテ宮島君ノ申述ベラレマシタ所ノ、今日國民保健ニ付テ大ニ益、是ガ改善ニ付テ注意シナケレバナラヌ

ト云フ點ニ付テノ御意見ニ對シテハ、是ハ毫モ異存ハ無イノデアリマス、榮養研究所ノ成績ニ付テハ、御申述ベニナリテ居リマス、是モ亦勿論榮養研究所ノ其成績ニ付テハ、當局ニ於テモ、丁度宮島君ノ連ベラレマシタ如キコトニ同意デアリマシテ、榮養研究所ガ既ニ幾多ノ成績ヲ現シテ居ルト云フコトハ、是ハ正ニ事實デアリマス、唯、宮島君ノ申述ベラレマシタ如ク、一昨年ニ於キマシテモ、昨年ニ於キマシテモ、榮養研究所ノ經費ノ減少シテ居リマスルコトハ、海ニ遺憾デアリマス、彼ノ行政財政整理ノ結果ト致シマシテ、榮養研究所ノ費用ガ、今丁度御述ニナリタ如ク、段々減少シタノデアリマス、併シハ私ハ宮島君ノ御意見ノ通りニ、海ニ遺憾ニ考ヘマスノデアリマス、將來ニ於キマシテ榮養研究所ノ經費ヲ増加スルベク、十分ニ努力致シ積リデアリマス、當局トシマシテハ榮養研究所ヲ決シテ輕視シテ居ラス、榮養研究所ノ成績ハ海ニ立派デアアル、之ニ對シテハ將來益、榮養研究所ノ機能ヲ發揮セシムルコトニ盡力スルト云フコトノ一言ヲ以テ御答ト致シタト思フノデアリマス、次ハ國民體育ノ獎勵ニ付テノ所管ガ、目下曖昧デアルト云フコトノ御尋デアリマス、宮島君ノ申述ベラレタ如ク、近年國民ノ體育熱ガ段々旺ニナリタリマシタ、此國民ノ運動熱ガ段々ニ旺盛ニナリタマシルコトハ、國民體育ノ爲ニ洵ニ慶賀ノ至リニ堪ヘマセヌノデアリマス、目下ノ所ニ於キマシテハ、既ニ宮島君モ御承知デアラウト思ヒマス、國民體育ノ獎勵ハ總テ內務省ノ所管トシテ行テ居ルノデアリマス、之ニ就テ世間デハ、或ハ文部省ノ學校體育獎勵ト合セテ、國民體育ノ獎勵ヲシタラドウカト云フガ如キ議論ガアルノデアリマス、併ナガラ現在政府ニ於キマシテハ、目下內務省ノ所管ト致シマシテ國民體育ノ獎勵ヲ致シテ居リマス、即チ學校ノ教育ノ一部ト致シマシテ、學校ノ學生生徒ノ體育ノ獎勵ハ、是ハ申スマデモナク文部省ノ所管デアリマス、廣キ國民ノ體育獎勵ニ付キマ

シテハ、現在ノ如ク矢張內務省ノ所管トシテ抜フコトガ、最も適當デアルト信ジテ居ルノデアリマス、之ニ就テ宮島君ハ恰モ所管論ノ爲ニ經費ヲ減少サレタ如キ御話ガアリマシタ、此體育獎勵ニ關スル經費ノ要求ニ對スル削減ハ、是ハ一般ノ豫算編成ノ理由ニ基クモノデアリマシテ、決シテ所管ガ曖昧デアアルガ爲ニ此費用ガ削減サレタノデハナイノデアリマス、即チ國民體育ノ所管ハ、矢張以前ノ如ク內務省デアルト云フコトノ一點ヲ御承知置キ相成リタイノデアリマス、第三ノ海港檢疫、之ニ就キマシテ財政、行政整理ノ結果ト致シテ、內務省ノ所管ガ大藏省ニ移タニ付テノ御尋デゴザイマス、是ハ御承知ノ通り從來外國カラ船ガ入テ參リマス、稅關カラハ其船ニ關稅ノ目的ヲ以テ觀察致シマス、又海港檢疫ノ點ニ付キマシテハ、內務省所管ノ官吏ガ參テ之ヲ檢疫致シマス、此間ニ於テ往々其指揮ヲ異ニ致シマス、色所管廳ガ違ヒマス、度々外國カラ來タ所ノ船舶ニ對スル其取調ガアリマス、是ハ旅行者ノ不便ヲ感ジテ居タ點デアアルノデアリマス、此不便ヲ取去ル爲ニ、行政整理ノ際ニ於キマシテ、寧ろ海港、即チ外國渡來ノ船舶ノ取調ハ、其稅關デアルト海港檢疫デアルトヲ問ハズ、總テ一官廳ノ手ニ依テ致シタ方ガ統一モ付キ、又旅行者ノ便利ヲ與ヘルト云フ一點ヲ以テ、之ヲ稅關ノ事務ニ合併致シタノデアリマス、此點ニ付キマシテ、或ハ海港檢疫ノ目的ヲ達スルニ付テ甚ダ不便ガアリハセヌカト云フ御話デアアルノデアリマス、是ハ身分ヲ大藏省所管、即チ稅關ノ方ニ致シマス、タデアリマシテ、其事務ノ指揮監督ハ舉ダテ內務省ノ衛生局デ致シテ居ルノデアリマス、隨テ海港檢疫ニ付テハ、身分其モノ、所屬ニ依テ海港檢疫ノ實ガ敢テ輕ンゼラレルトカ、或ハ疎ンゼラレルコトハナイト信ジマスノデアリマス、併ナガラ私ハ御指摘ノ如キ此事務ノ所管移管、此移管ノ草創ノ際ニ於キマシテハ、或ハソレガ爲ニ海港檢疫ノ事務ヲ聊カ遲延セシメタル如キ事實

ナイトハ限ラヌノデアリマス、クレドモ、是ハ段々事務ノ練熟ニ伴、テ、斯ウ云フ不便ハ除カレルコト、思フノデアリマス、免ニモ角ニモ政府ガ今申ス如ク、其外國入港ノ船舶ノ取調ヲ簡單ニ致シマス、多クノ旅行者ノ不便ヲ取去ルガ爲ニ、斯ノ如キ所謂稅關ノ取調ト海港ノ檢疫トヲ統一一致シマシタノデアリマス、ソレデ之ニ就キマシテハ段々事務ノ練熟ニ伴ウテ、御指摘ノ如キ不便ハ無イト信ズルノデアリマス（拍手）

○議長（粕谷義三君） 本案ニ付キマシテハ別ニ發議ノ通告モアリマセヌカラ、直ニ本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（粕谷義三君） 御異議ガナイト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○作間耕逸君 兩案ヲ一括シテ直ニ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレントヲ望ミマス

〔贊成（贊成）ト呼フ者アリ〕

○議長（粕谷義三君） 作間君ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（粕谷義三君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ兩案ノ二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

健康保險法中改正法律案 第二讀會（確定議）

健康保險特別會計法案 第二讀會（確定議）

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（粕谷義三君） 別ニ御發議モアリマセヌカラ、第三讀會ヲ省略シテ、兩案トモ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ（拍手）

次ハ日程第十二、大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——牧野良三君

第十二 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案（鳩山一郎君外八名提出） 第一讀會

大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案

選舉法中左ノ通改正ス

第六條第一項第五號及第六號ヲ削リ第七號ヲ第五號ニ、同號中「六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレハハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ」ヲ「犯罪ニ依リ」ニ改ム

第四百八條 削除

〔牧野良三君發議〕

○牧野良三君 只今上程ニナリマシタ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案ニ付キマシテ、少シク提案ノ理由ヲ申述ベタイト存ジマス、案ガ重大デアリマス、昨第五十議會ニ於テ改正セラレマシタル選舉法ハ、所謂普通選舉ノ名ノ下ニ於テ、男子無制限選舉ノ制度ガ採用セラレマシタコトハ、今更事新シク申述ヘルマデモナイ事デアリマス、即チ苟モ帝國臣民タル男子ニシテ、年齡滿二十五歲ニ至レル者ニハ、原則トシテ總テ皆一樣ニ何人ニモ選舉權ヲ附與スルコトガ明ニセラレタノデアリマス、此選舉法ハ全部十三章、百五十箇條ニ涉ル相當大法律デアリマス、唯一ツ男子ニハ原則トシテ、何人ニモ一樣ニ選舉權ヲ附與スルコトヲ明ニセラレマシタル同法第五條ノ規定一箇條アル爲ニ、劃時代的立法デアルトシテ、其重大ナル價值ト使命トヲ荷ウニ至、タノデアリマス、然ルニ此重大ナル原則ニ對シマシテ、二ツノ注意スベキ例外ガアルノデアリマス——其他ニモ向ホ二三ノ例外規定ハゴザイマス、クレドモ、是等ハ總テノ法律ニ共通ナル例外デアリマス、ルガ故ニ、此際之ヲ述ベルノ必要ハアリマセヌガ、選舉法トシテ特ニ注意スベキモノガ二ツアルト信ズルノデアリマス、其第一ハ同法第六條ノ第一項第三號ニ規定セララル、所謂貧困資格ト稱セラレル者、即チ貧困ニ因リ生活ノ爲メ公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者ト規定セラレタル制限、即チ是デアリマス、其第二ハ同條第一項ノ第五號ト六號ニ

涉テ規定セラレテ居ル所ノ所謂前科缺點格、
前科アル人ニテ除外スルコト云フ條件、即チ
會テ國法ニ觸レテ六年以上ノ懲役若クハ禁
錮ニ處セラレタル者ニ付テハ、其者ニ終生
選舉權並ニ被選舉權ヲ與ヘズ、ソレ以下ノ
者ニ付テモ、特ニ掲ゲラレタル各種ノ犯罪
ヲ爲シタル者ニ付テハ、少クモ五箇年ノ
間選舉權並ニ被選舉權ヲ停止スルト規定セ
ラレタル所ノ制限ガアリマス、本員ガ諸
君ノ多大ノ御注意ヲ喚起セント欲シマス
ノハ、此第二ノ所謂前科缺點格——前科アル
ガ故ニ選舉權並ニ被選舉權ヲ與ヘラズト
スル、此點ニ關スルモノデアルト云フコト
ヲ豫メ申上ゲテ置クノデアリマス、抑、第
一ノ制限タル所謂貧困缺點格ニ關シマス、シ
テモ、今日幾多ノ疑義ガアリ、非難ガアリ、
更ニ遺憾トスベキ點ノ甚ダ多クナイコトハ
諸君モ御承知デアリマスルケレドモ、是等
ノ點ハ總テ昨第五十議會ノ立法當時ニ於キ
マシテ既ニ論議セラレ、殊ニ其例ノ餘リ多
カラザル兩院協議會ヲ開イテマデ調査ト研
究ト交渉ト至ラセタ結果、漸クニシテ通過
成立ヲ見ルニ至ラセタデアリマス、サレバ
如何ニ今日疑議ガアリ、又如何ニ論ズベキ
點ガアルト致シマシテモ、今議會ニ再ビ之
ヲ提デ茲ニ諸君ト論議ヲ開ハスト云フガ
如キハ、餘リニ立法ノ權威ヲ輕ンズルモノ
トシテノ非難ハ避ケラレナイコトデアルカ
トモ思フノデアリマス、然ルニ獨リ此刑餘者
ニ對スル制限、前科アル者ニ對スル制限ニ
關シマシテハ、事偶然ニモ、事甚ダ偶然ニ
モ、當時殆ド此議場ニ於テモ、委員會ニ於
テモ、世ノ中ニ於テモ、顧ミラレル所ガナ
カ、タノデアリマス、唯、纔ニ昨年ノ二月二
十六日同選舉法改正委員會ノ席上ニ於テ、
政友本黨ニ屬セラル、折原委員ヨリ極メテ
適切デハアリマシタケレドモ、根ムラクハ
甚ダ簡單ナル、唯、一回ノ質問ガア、タノ
ミデアル、而モ此點ニ對シテハ司法當局カ
ラ何等詳細ナル説明ガ無クシテ、内務省ニ
屬スル政府委員カラ、是モ頗ル簡單ニ、サ
リナガラ實ニ今日此所デ朗讀スルコトモ憚
ル程ナ、洵ニ誤シテ思想ニ根柢シタル御答

辯ガ、而モ速記録ヲ見マスルト僅ニ五行、
一ト口ト云フテ宜イ、左様ナ答辯ガア、タノ
ミデ、其一口ト答辯スラ政府當局ガ此案
ニ對シテ、此條項ニ對シテ如何ナル考ヲ持
テ居ラレカト見マスレバ、甚シク誤、タ
考ニ根柢セラレテ居ルコトガ明ニセラレ
ル、左様ナ答辯ガア、タノミデアリマシテ、
殆ド議場ニ於テモ、委員會ニ於テモ、何等
ノ注意モ考慮モ拂ハズシテ、此問題ガ通過
シテシマッタノデアアル、然ルニ本案ガ愈
兩院ヲ通過致シマスルヤ、多數ノ國民ハ普通
選舉ヨ、劃時代的立法ヨト云フテ、歡呼喝采
ヲシテ之ヲ迎ヘントスルニ當リ、端ナクモ
此點ニ關シテ、社會事業家殊ニ釋放者ノ保
護事業ニ從事シテ居ル人ニ依リマシテ、
重大ナル注意ガ喚起セラレ、其人道ニ背反
シ、且ツ國民生活ヲ破壞スル重大缺點アル
コトガ警覺サレマシテ、今更ノ如クニ驚キ
且ツ恐レザラレバ得ナク、タノデアリマス
(拍手)何トナレバ、原則トシテ帝國臣民タ
ル男子ハ何人ニモ一樣ニ總テ選舉權ヲ附與
セラレルコトガ規定セラレタ此新選舉法ニ
於テ、僅ニ此第六條ノ五號、六號ト云フ規
定ガアルバカリニ、其爲ニ殆ド明治初年以
來ノ刑餘者ガ——前科アル人ニ、此選舉法
ノ實施ニ依ッテ古キ前科ガ新ニ明ルミ、ニ曝
ケ出サレ、殊ニ國ノ喪ハ國家ノ重大ナ御慶
事ニ依リ、恩赦減刑ノ特典ニ浴シタル人ニ
マデガ、總テ皆前科者トシテ表明セラレ、其
爲ニ差別の待遇ヲ受クルニ至リマシテ、悲
痛ナ涙ヲ吞マザラザルナイ結果ヲ招來スル
ニ至ラノデアリマス、諸君、其爲ニ或ハ
家庭ノ和樂ヲ破ラレ、或ハ近隣ノ親族トノ
交際ヲ失フガ如キ、言フベカラザル悲痛ナ
ル境涯ニ突落サレル人ニ、幾人アルカ知ラ
ナケレバナラナイノデアリマス、罪ヲ犯シ
タガ爲ニ其罪ニ服シ、國家ガ命ズル正シイ
刑ニ服シ、之ヲ終テ漸ク一般國民ノ間ニ
生活ヲ爲シテ居ル人ニ、ソレニ對シ新ニ制
定セラレタ法律ニ依ッテ、再ビ選舉權ノ制
奪、若クハ停止ト云フガ如キ新シイ處分ニ
依ッテ、之ヲ再ビ氣ノ毒ナル境涯ニ陷レル

ト云フヤウナコトガ、果シテ參政權ノ趣意
ニ適ヒ、又普通選舉ノ本義ニ副フモノデア
ルカドウカト云フコトヲ問ハザラザルナイ
ノデアリマス、若シ假ニモソレガ、唯、一
回、普通選舉法ガ行ハル、當初ニ於テ行ハ
レルノミデアルトシマシテモ、到底堪ヘル
コトガ出來ナイノニ、毎年有權者名簿ガ作
製セラレル度毎ニ、常ニ繰返サレ、毎
回總選舉ガ行ハレル毎ニ常ニ——是ガ明ル
ミニ出サレルノデアル以上、誰カ人道ヲ愛
シ正義ヲ尚ブ者ノ耐ヘ得ル所デアリマセウ
カ、私ハ斯ノ如キ規定アルガ爲ニ、我ガ普
通選舉法ガ受クベカラザル非難ヲ受ケナケ
レバナラナク、タノコトニ付キ、大ニ考ヘ
ナケレバナラヌト思フノデアリマス、抑、
誰カ自ラ欲シテ罪ヲ犯ス者ガゴザイマセ
ウ、犯スベカラザルコトヲ知リナガラ尙且ツ
犯サナケレバナラナイ境涯ニ立到ルモ
ノ、是レ即チ世ノ多クノ犯罪者デアリマ
ス、隨テ犯罪シテ其罪ヲ恐レズ、犯シテ其罪
ヲ悔イザル犯罪者ガ果シテ幾人アリマセウ
カ、私ハ世ノ中ニ犯罪者ガ流ス所ノ淚位、
切實ニシテ熱烈ノモノハナイト信ジテ居
ル、然ルニ如何ニ悔イテモ其悔ガ救サレ
ズ、正シキ刑ヲ終テモ更ニ又後カラ追撃
的ニ斯ノ如キ處分ヲ命ゼラレルト云フ事ニ
ナク、タノ一、一度罪ヲ犯シタル者ハ、遂ニ
自分ガ犯罪者ノ群ニ身ヲ投ズルノ外、天地
ノ間ニ身ヲ容ル、ノ地ガ無イト云フヤウナ
事ニ立到ルコトヲ恐レザラザルナイ(拍手)
勿論自分自ラガ犯罪シタル罪ナレバコソ露ハ
ルノデアアル、サレバ幾度露ハレマセウガ、
ソレハ自業自得、其者ノ罪ノ結果デアルカ
モ知レマセウ、ケレドモ彼等ハ自分ノ犯シ
タ罪ヲ悔ユルヨリモ、己ノ罪ヲ發イテ二度
モ三度も國民ノ前ニ鞭ツ國家ヲ怨ミ呪フ念
慮ハ、更ニ深刻ナルモノガアルト云フコトヲ
考ヘザラザルナイノデアリマス(拍手)私ハ
思ヒマス、我ガ普通選舉法ガ既ニ罪ニ服シ
テ刑ヲ終タル者ニ對シテ、更ニ追撃的ニ
斯様ニ處分ヲ選舉法デ爲スト云フコトハ、
決シテ我ガ國家、我ガ國民ノ意思デナイ、
而モ諸君ハ我ガ國家國民ノ意思デナイ所ノ

選舉法ヲ立法サレタト云フノデハナイ、諸
君モ必ズ左様ナ御心ガア、タノデナイト云
フコトヲ信ズル、然ルニモ拘ラズ、昨第五
十議會ニ於テ斯ノ如キ規定ガ其儘通過セラ
ル、ニ至ラノハ何ガ故デアルカ、曰ク、全
ク諸君千慮ノ一失ニ過ギナイト私ハ思フノ
デアリマス(拍手)然ラバ何ガ故ニ斯ノ如キ
規定ガ挿入セラレ、ニ至ラタカト云フコト
ニ付テ、私ハ諸君ノ前ニ一言セザラザルナ
イノデアリマス、ソレニハ第五號ノ場合、
即チ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレ
タル場合下、第六號ノ場合即チ六年以下ノ
刑ニ處セラレタル者ノ場合ト間ニハ、各
異タル沿革ト理由トガアルト思フノデ
アリマス、第一ニ第五號ノ場合、即チ六年
以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ニ
其者ノ生涯、一生生涯選舉權及被選舉權ヲ停
止スルト云フ規定ハ、昨年ノ普通選舉法ニ
於テ初メテ制定セラレタル規定デハゴザイ
マセウ、從來ノ舊キ選舉法ニ在リタ所ノ規
定其儘デアアル、ノミナラズ各國ノ立法例ヲ
研究致シテ見マシテモ、舊イ所ノ法律ニハ
同ジヤウナル規定ヲ有スルモノガ二三ツバ
カリアリマス、併ナガラ舊選舉法ニ於キマ
シテハ諸君ノ御承知ノ通りニ、選舉權ヲ取
得スルガ爲ニハ先ヅ第一ニ納稅資格ヲ必要
トシタ、ソレノミナラズ其他ニ幾多ノ條件
ト制限トア、タノコトハ諸君御承知ノ通り
デアリマス、隨テ是等ノ刑餘者ニ對シテ、特
殊ノ取扱ヲ假ニ爲シマシテモ、否、假デハ
ナイ現實ニ爲シ來リマシテモ、是等ノ制限
ヤ條件ニ拖ヒ被サレテ、餘リ多クノ弊害ヲ
社會的ニ國民的ニ流スト云フコトヲ見ルコ
トガ無クシテ済ンダノデアアル、而モ是トテ
社會政策上又ハ刑事政策上、殊ニハ新ナル
刑法理論ノ立脚地ニ立チマシテ、是等ノ規
定ハ舊選舉法其儘ノ狀態ニ在リマシテモ、
昨年ノ議會カ今年ノ議會ニ於テハ當然改廢
スベク諸君ト吾ミトガ手ヲ盡サナケレバ
ラヌ運命ニ在リタノデアリマス、現ニ各國
ノ立法例ヲ見マスレバ、近年多ク是等ノ規
定ガ改メラレテ居ルコトハ諸君御承知ノ通
リデアアル、然ルニ列國ノ中デ、世界列國ノ

中デ、一番近ク最も最近ニ立法ヲ致シタル所ノ我國ノ選舉法、ソレガ、而モ普通選舉ヲ採用致シタルニ拘ラズ、此刑餘者ニ對スル規定ノミハ舊イ昔ノ舊法其儘ヲ、ソックリ其儘持テ來タノデアリマス、其結果トシテ刑餘ノ人ミハ、前科アル人ミハ宛然舊惡ヲ公表セラル、ガ如キ殘忍悲慘ナル結果トナルニ至ッタノデアリマス、我國ハ普通選舉ヲ採用シマスル同時ニ、或ハ獨逸ノ如ク、或ハ普魯西ノ如ク、若クハ瑞西ノ如ク、少クトモ英吉利ノ立法例ノ如ク、選舉權ノ剝奪若クハ停止ニ關スル規定ハ、主トシテ之ヲ選舉ニ關スル犯罪ニ止メ、其他ノ者ニ是等ノ選舉權ノ停止、被選舉權ノ停止ヲスルニハ、各犯罪ノ個々別々ニ宣告スルト云フガ如キ、進シタル立法ノ方式ヲ採ラナレバナラナカッタノデアリマス、然ルニ拘ラズ片方ニハ相當新ナル普通選舉、新シイ立法アル普通選舉ノ名ノ下ニ男子無制限選舉ノ制度ヲ布キナガラ、此規定ノミハ昔ノ通り其儘ソックリ採用シタト云フコトハ、何レノ點カラ見マシテモ是ハ正ニ諸君千慮ノ一失デアルト云フ外ハナインデアリマス、斯ノ如ク致シマシテ今ヤ千慮ノ一失ガ：「君モサウダ」ト呼フ者アリ、私ノ事ヲ御聞ヒ戴イテ恐縮デアリマスガ、實ハ私ハ昨年病氣ノ爲ニ、旅行ノ途中大阪病院ニ入院致シテ居リマシタ其爲ニ是等三關シテ自分ノ意見ヲ述ブルコトノ機會ヲ得ナカッタノデアリマス、今ニ於テ自分ノ責任ヲ果ス立場ニ相成タノデアリマス、（拍手）二月十五日私ハ東海道旅行中ニ熱ヲ出シマシテ三十日程大阪病院ニ居ッタノデアリマス、願クハ諸君ノ御覽大ヲ以テ御諒承ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、次ニ第二ニハ本條第六號ノ各種犯罪ヲ犯シタル者ニ付其刑期ノ二倍、而シテ若シ其二倍ガ五年以下デアル時ハ五年以上、選舉權及被選舉權ヲ停止スルト云フ規定ニ至ッテハ、昨年普通選舉法ヲ定メラル、ニ當リマシテ、始メテ此新選舉法中ニ挿入セラレタ悲シムベキ時代錯誤ノ規定ナノデアリマス、而シテ此規定ニ付テ御考慮ヲ煩ハシタイコトハ、今日裁

判所ノ實際ヲ見、統計ノ事實ヲ見マシテモ、六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレルノハ、其數極メテ少ナク、多クハ六年以下デアリマス、隨テ刑罰ヲ科セラレタル者ハ——刑法ニ依テ刑罰ニ處セラレ、人々ノ大多數ハ總テ此第六號ニ依ッテ包含サレル、舊法ニ於テハ選舉權被選舉權モ完全ニ持ッテ居タ人ガ、普通選舉ニナッテ、此法律ガ出來タ其爲ニ選舉權ヲ制限セラル、ノ結果トナッタト云フ點ニ御考慮ヲ拂ッテ戴キタイノデアリマス、何ガ故ニ斯ノ如キ規定ガ挿入セラレ、ニ至ッテ、私ガ此點ヲ竊ニ思ヒマスルニ、昨年諸君ガ普通選舉ノ名ノ下ニ男子無制限選舉ノ制度ヲ布カントセラルルヤ、之ニ對シテ國民中幾多ノ反對者ガアリマシタ、而シテソレ等ノ人ミハ自ラ純正普選派ト云フガ如キコトヲ唱ヘ、普通選舉ト云フ名ヲ害セザル範圍ニ於テ相當ナ條件ヲ制限ヲ附シテ、希クハ我國ノ選舉法ノ改正ヲシテ急激ナラシメヌヤウニシタイ——而シテ弊害ヲ無カラシメルヤウニシタイト云フコトヲ思ハレマシテ、其結果或ハ樞密院、或ハ貴族院、或ハ社會各面ニ是等ノ意見ヲ述ベタ人ミガアルノデアリマス、熱心ニ述ベタ人ガアルノデアリマス、然ルニ、言フ人ハ——述ベル人ハ左様ナ心デハナカッタガ、聞ク人ミハ頭ガ古クッタノデアリマス、其爲ニ其一部分ガ誤リ傳ヘラレテ、誤リ受ケラレマシテ、或樞密院顧問官ニ依ッテ此法律案ガ立案セラレ、遂ニソレガ公ケノ席上ニ持出サレテ、以テ斯ノ如キ規定ヲ爲スニ至ッタト云フコトノ裏面ノ事情ハ諸君御承知ノ事實デアルト思ヒマス、隨テ此事ニ付テハ當時——最近ニ至ル迄政府ト雖モ此條項ニ付テハ、此六號ニ付テハ餘リ調査ガ届イテ居ナイ、是ハ責任ヲ持ッテ私ハ此壇上ニ明言致シマス、政府當局ト雖モ此案ニ付テハ困ル、困ルト同時ニ今日、只今ニ至ル迄、最近ニ至ル迄、敢テ只今トハ言ヒマセヌ、最近マデ深イ調査ガ出來テ居ナカッタ、此案ニ對スル深キ研究ハ出來テ居ナカッタ、又三派ハ勿論其意思デハチイ、本黨ト雖モ其意思デハナイ、而シテ所謂純正普

通選派ノ人ミト雖モ其意思デハナイ、シテ見ルト他ノ重要ナル問題ニ諸君ガ熱中シテ居ラル、聞ニ、不用意ニモ斯カル規定ガ偶然ニ挿入セラレデ今日此立法ヲ見ルニ至タト云フコトハ、正ニ諸君千慮ノ一失デアッタコトヲ斷言シテモ宜イ、私ノ說ノ正シイコトヲ御認メ願ヒタイノデアリマス、（拍手）抑、罪有ル者ニ對シテ刑ヲ科シマスノハ、犯罪者ニ對シテ報復トカ、復讐トカ云フ意味ニ依ッテスルノデハナク、犯セル者ヲ懲戒シテ以テ之ヲ反省セシメ、又未ダ犯サザル一般國民ニ對シテハ、之ヲ警告シテ以テ訓戒シ、之ニ依ッテ以テ既ニ罪ヲ犯シタル者ニシテハ、犯セル罪ヲ悔悟セシメ、未ダ犯サザル一般國民ニ對シテハ犯スベカラザル所以ヲ示スノデアル、斯ノ如クニシテ消極的ニハ仍テ以テ共同生活ノ安寧秩序ヲ維持シ、又積極的ニハ仍テ以テ社會生活ノ福利ヲ増進スルコトガ、目的トセラレテ居ルト云フコトハ、私ガ茲ニ事緒シク申スマデモナイ、サレバ罪セズシテ能ク彼ヲ戒メ、又罪セズシテ能ク一般ヲ戒ムルコトガ出來ルナラバ、我が司法權ハ我が刑法ハ決シテ是等ノ人ミニ對シテ刑罪ヲ強ユルモノデハナイ、然ルニ本人ニ對スル懲戒モ、社會ニ對スル、警告モ、ニツナガラ其目的ヲ達シテ、今ヤ其本人ガ立派ナ平和ナル社會生活ヲ營ンデ居ルニ拘ラズ、過ギシ昔ノ古創ヲ發キ立テ、許サズ、サウシテ更ニ選舉權ノ停止トカ、若クハ制限ト云フ如キ條項ニ依ッテ、其者ノ額ニ赤紙ヲ貼付スルト云フガ如キ立法ヲナスト云フコト、何タル無情ナ立法デアルカト疑ハザルヲ得ナイノデアリマス（拍手）今ヤ斯ノ如キ非人道的ナ法律ノ規定ニ脅サレマシテ、煩悶、苦惱殆ド血ヲ吐クガ如キ訴ヲナシテ來ル人ミノ手紙ガ、毎日私共ノ心肝ヲ刺シツ、アルノデアリマス、現ニ其一人ノ事實ヲ御紹介ヲ致シマスレバ、長男ガ二十八歳ニナリ、次男ハ二十六歳ニナッテ、二人トモ未ダ租稅ヲ納メズ、獨立ノ生計ヲ營ンデ居ナイケレドモ、此兩人兄弟ハ新選舉法ニ依ッテ有權者ニナッタガ、獨り自分ノミハ選舉權ヲ有セザル其爲

ニ、三十六年前遠イ出來心ヨリ犯シタ犯罪ガ曝露シテ、其爲ニドノヤウナ煩悶ヲ惹起スルカ如クナイト云フ訴ガ來テ居ル、此種ノ訴ハ恐ラク諸君ノ机ノ前ニモ届イテ居ルコトト思フ、此事實ハ大阪毎日、東京日日等ノ社ニモ參デ吾々同志ノ人ミノ宅ニモ屢參テ居ルノデアリマス、其數ガ數十通ニナッテ居ル、洵ニ悲慘ナル苦惱ノ地位ニ居ル人ガ少ナクナイノデアリマス、而モ斯ノ如キハ單純ニ悲慘ダト云フコトヲ以テ檢フコトガ出來ルカモ知レマセヌガ、併ナガラ私ガ恐レルノハ、單純ニ悲慘ダト云フノミデハナク、國家ガ斯ノ如キ法律ヲ制定シテ追撃的ニ彼等ノ額ニ赤紙ヲ貼ラウトスルヨリ怨嗟ノ爲ニスル犯罪、世ヲ怨シタ結果自暴自棄ニナッテ犯罪、世ヲ恨ミ、社會ヲ恨ム反抗心ヨリ生ズル犯罪、是等ノ犯罪ノ益、深刻ニナルコトハ圖リ知ルコトガ出來ナイト思フ、諸君ノ御手許ニ原胤昭氏ノ「パンフレット」ガ參ッテ居ル答デアリマス、之ハ御一讀下サツタコト、思ヒマス、我國ノ免囚保護ノ事業ノ爲ニ其全生涯ヲ捧ゲンシテ居ラル、所ノ尊敬スベキ原胤昭氏ガ、諸君ノ爲ニ特ニ貴重ナル資料ヲ印刷ニ付シテ、御送付ニナッテ居ル答デアリマス、又昨年来來曹洞宗ノ宗務院ニ事務所ヲ設ケテ、日夜輿論ヲ喚起シテ識者ノ訪問ニ多大ノ努力ヲ爲シテ、寢食ヲ忘レテ心配シテ居ラレ、ル人ミノ手ニ依ッテ成ッテ幾多ノ「パンフレット」ガ出來テ居ル、其中ニハ是等ノ人ミノ手許ヘ届イタ所ノ刑餘者ノ手紙モ血涙録トシテ、第二集マデ編輯サレテ御手許ヘ參ッテ居リマス、ドウカ之ヲ讀ンデ戴キタイ、殊ニ又其同志ノ方デアリマスガ、岩崎潔治君ガ二回マデ「パンフレット」ニ依ッテ諸君ニ懇ヘラレタ事實ガアル、是モドウカ御一讀ヲ願ヒタイ、殊ニ又十數日前大阪毎日新聞並ニ東京日日新聞紙上ニ東京帝國大學ノ刑法ノ教授デアアル小野清一郎君ガ寄セラレタル論文ノ中ニ、引用ヲシテアル故大場博士ノ統計ヲ見マスルト、少シ舊クハアリマスガ、曾テ浦和監獄ノ囚人全部三百六十八人就テ調査セラレタ結果ニ依リマスルト、其中

二百四十六人ト云フモノガ刑餘ノ身ノ不信
用ガ原因トナシテ、犯罪ヲ再ビシ、三度シテ
居ル、其數ハ正ニ三分ノ二ノ多キニ達シテ
居ルト云フコトハ、如何ニ此條項ノ改正ヲ
必要トスルカ(拍手)ドウカ諸君ノ慎重ナル
御考慮ヲ煩ハシタイノデアル、殊ニ又御注
意ヲ喚起致シタイノハ、刑法第三十二條ヲ
見マスルト、死刑ノ罪ヲ宣告セラレタル者
ト雖モ、三十年間此社會カラ姿ヲ隠シテ居
ルナラバ、彼ハ其罪ヲ免除サレルノデアリ
マス、又無期ノ禁錮若クハ懲役ノ刑ヲ宣告
セラレタル者ト雖モ、二十年間此社會ニ顔
ヲ出サズニ潛シテ居タナラバ、其罪全部ヲ
許サレルノデアル、三年以上ノ刑ニ處セラ
レタル者ト雖モ、十年間謹慎シテ此吾々ノ
生活ノ中ヘ顔ヲ出スコトヲシナカッタナラ
バ、其刑全部ガ免除セラレルト云フコト
ヲ——時效ニ依テ國家ガ公ニ其刑ヲ免除
スルト云フコトヲ規定セラレテ居ルノデアル
ル、然ルニ大正十四年三月ニ立法セラレタ
ル諸君ノ所謂普通選舉法ガ、何事ゾ、何時マ
デモ何時マデモ前科者ヲ追窮シ、追擊シテ、
彼等ニ對シテ選舉權、被選舉權ヲ剝奪シ、
若クハ停止スルコト云フガ如キ、彼ノ額ニ赤
紙ヲ貼付スルガ如キ條項ヲ置カレルト云フ
コトハ、全ク諸君千慮ノ一失デアレト云フ
コトヲ私ハ斷言シテ憚ラス、然ルニ悲シム
ベキコトニハ、本改正案ニ對シマシテハ重要
ナル數箇ノ反對論ガアリマス、其第一ハ新
選舉法ニハ他ニモ尙幾多ノ改正ヲ要スベ
キ條項ガアルデハナカ、サレバ是等ノ總
テノ條項ヲ更ニ再調査シテ、一掃ニシテ
全部括メテ是ガ改正案ヲ出スコトコソ至當
デアルト斯様御説デアリマス、是ハ何ダ
カ此法律案ニ賛成スルト云フコトヲ回避ス
ル人々ガ殊更爲サレル辯解ニアラザレバ、
非常ナル誤ク御見解ニ依ル反對論デア
ルト思ヒマス、何トナレバ、本案ノ外ニモ尙
ホ缺陷ガアル、不足ガアル、疑義ノ點ガ多
イ、サリナガラソレ等ノ問題ハ殆ド總テ昨
五十議會ノ本會議ニ於テ、又委員會ニ於テ、
若クハ演說會ニ於テ、學者ノ講演ニ於テ大
抵ハ論ジ盡サレ、其結果色々ノ反對、賛成

ガアルケレドモ、多數ニ依テ先ヅ當分此
程度ト云フコトニ依テ決定セラレタルモ
ノデアル、然ルニ獨リ本案ノミハ昨第五十
議會ニ於キマシテ、問題ニナルベクシテ問
題ニサレズ、心付カルベクシテ心付カレズ、
爲スベキ調査モ、遂グベキ研究モ、總テ其
儘ニ通過セシメラレタカラ、今年ニ於テド
ウカ私ハ改正シテ戴キタイト云フノデアリ
マス、隨テ此點ニ於テ今ヤ其過アルコトヲ
知ッテ、斯ル規定アルコトガ百害アルモ一
利ナシト云フコトガ若シ御分リニナルノミ
ナラズ、其影響ノ頗ル重大ナルコトニ御同
感下スナラバ、之ヲ知ッテ今日只今コソ
之ヲ改メル最好機デアルト私ハ確信スルモ
ノデアリマス(拍手)第二ノ反對論、ソレハ
選舉法ハ憲法附屬ノ大法デアル、昨年立法
シタノミデ、今年一度モ實行シナクシテ、
之ヲ直ニ改正スルコト云フガ如キハ、頗ル輕
卒デアルト云フ反對論デアリマス、此反對
論ハ、論ソレ自身トシテハ私ハ正シイモノ
ナモノト思フ、憲法附屬ノ大法ト云フヤウ
デアルノ思フ、サウ屢改正スルト云フコトハ
餘程重大ナル理由アルニアラザレバ爲スベ
キコトデアリマセヌ、サリナガラ、ソレ
ハ外ノ規定ノコトデアリマス、此規定ダケ
ハ唯、一回モソレヲ行ハレハナラナイ
ノデアル、唯、一回ハ勿論、半回デモ行
ハレテハ、最早ヤ此改正案ノ目的ハ達シ難
イノデアル、サレバ未ダ一度モ行ハナイ今
日只今ニ於テ、此改正案ニ御同意ヲ願ヒタ
イ、是ガ私ガ此反對者ニ對シ——反對論ニ
對シテ申上ゲル言葉デアアルノデアリマス、
更ニ反對論ノ第三ハ、昨年作ッパカリノ
法律ヲ、今年直チニ改正スルト云フコト
ハ、餘リニ朝令暮改ノ誹ヲ免レナイト言ハ
レルノデアリマス、サリナガラ御考ヲ願ヒ
タイ、古人ガ昔々ニ朝令暮改ヲ戒メタノハ、
國民ノ權利ヲ抑壓シタリ、利益ヲ阻害シタ
リスルコトニ就テコソ戒メテ呉レタノデア
ル、然ルニ苟モ、國民ノ權利ヲ伸暢シ、國
民ノ利益ヲ増進スル所ノ法律デアラナラバ、
朝ニ之ヲ令シテ、夕ニ之ヲ改ムルコトハ、
多々益、多カランコトコソ洵ニ私ハ喜ブベ

キ善政デアラウト思フノデアリマス、隨ヒ
マシテ何レノ點ニ於キマシテモ、反對者ノ
反對論ハ暫ク色々ノ感情、沿革、色々ノ黨
派ノ利害カラシテ御察屈ナル御立場ニアラ
レル人モアリマセウケレドモ、ドウカ是ハ
一回デモ實行サレルト云フコトニ於テ、私
共ノ改正案提出ノ理由ガ多大ノ部分ヲ消滅
セシムルデアリマスルカラ、此機會ニ於テ
是非共御協賛ヲ戴キタイト思ヒマス、最
後ニ至ッテ一言附加シテ諸君ノ御注意ヲ喚
起致シタイト思ヒマスルノハ、全國ノ刑餘者
ニシテ、現ニ市町村ノ戶籍簿ノ上ニ於テ、
前科アル人デアル、刑餘者デアルト云フコ
トノ分ル者ハ百分ノ二十シカナイ、アトハ
十八最早自然消滅デ消エテ分ラナクナッテ
シマッテ居ル、是ハ自然ノ結果トシテ喜ブ
ベキ現象デアルト私ハ思フ、斯ノ如キモノ
ハ何時マデモ明瞭ニ、系統的ニ順序正シク
殘ルベキ性質ノモノデハナイ、社會ノ分解
作用トシテ、私ハ喜ブベキ現象デアラウト
思フ、然ルニ振舞ノ上デハ、正規ノ手續ノ
上デハ消エテ居リマシテモ、悲シムベシ、
恨ヲ持ッ人、憎シミヲ持ッ人ハ一生忘レ
マセヌ、其爲ニ若シ此選舉法ガ行ハレルコ
トニナリマシタナラバ、或ハ名簿ニ對スル
訴トナリ、或ハ當選ニ關スル訴訟トナリマ
シテ、既ニ消エタ前科ガ、消エタ刑餘ノ人
ノ名前ガ、法廷ニ於テ、若クハ役場ノ前
ニ於テ、麗々シク明ラサマニ出サレルト云
フヤウナ悲シムベキ結果ヲ生ム事實ガ明デ
アルノデアリマス、加之、全國ノ刑餘者中、
本條ニ該當スル者ノ數ハ、統計ニ依レバ十
五萬一百六十五人ノ多數ニ上ルノデアリマ
ス、此十五萬一百六十五人ノ人々ニ選舉權
ヲ與ヘルコトニ依テ生ズル弊害ハ、是等
ノ人々ノ選舉權ヲ剝奪シ、若クハ制限スル
コトニ依テ生ズルコトノ弊害ト、何レガ
重大デアアルカト云フコトヲ御考ヲ願ヒタイ
ノデアル(拍手)諸君、一升ノ米ハ以テ百人
ヲ養フコトガ出來マセヌ、サリナガラ一滴
ノ毒素ハ以テ十人ヲ斃スコトガ出來マスル、
如何ニ立派ナ法律ト雖モ、直ニ國民ヲ潤ス
コトハ出來マセヌケレドモ、一度惡法ガ出

レバ忽チ百人、千人ノ國民ヲ毒スルコトガ
出來ルト云フコトヲ思ハナケレバナラス、
(拍手)貴クハ本案ハ本日はヨリ諸君ノ手ニ
依リマシテ、委員會ニ付託セラレテ、慎重審
議ヲ重ネラレルコト、思ヒマス、ドウゾ列
國ノ中デ最新ノ新イ立法デアアル所ノ我國ノ
選舉法ノ中ニ、列國ノ中デ最モ舊イ、殆ド
他ニハ僅ニ一ツニツシカ例ノナイガ如キ舊
イ陳腐ナ時代錯誤ノ此規定ヲ有スルト云フ
コトガ、如何ニ國家國民ノ禍デアアルカト云
フコトヲ御考慮下サイマシテ、翼クハ滿場
一致此案ヲ通過セシメラレシコトヲ希望ス
ル次第デアリマス(拍手)
○議長(稻谷義三君) 質疑ノ通告ガアリマ
ス、順次之ヲ許シマス——柏田忠一君
〔柏田忠一君登壇〕
○柏田忠一君 私人只今議題ニナッテ居リ
マスル衆議院議員選舉法中改正法律案ニ付
キマシテ、提案者並ニ政府ニ對シテ、三ノ
質問ヲ試ミタイト思フノデアリマス、牧野
君トハドウ云フ廻リ合セカ、去年ノ今頃ハ
普通法ヲ中心ト致シマシテ共ニ與黨三派ヲ
對手トシテ闘タルノデアリマスガ、今日ハ左
右ニ岐レテ此法案ヲ中心ニ論議シナケレバ
ナラヌト云フノハ、如何ニモ私ハ感慨無量
ニ堪ヘナイノデアリマス(拍手)人今日ノ議
會ヲ評シテ、戰國時代ト申スノモ洵ニ無理
カラヌト思フノデアリマス、而シテ牧野君
ハ去年委員會ニ於テ、僅ニ同僚デアッタ折原
君カラシテ、唯、一回五行一口ノ質問ガア
タニ過ギナイト申サレテ居リマスルガ、提
案者トシテ提案ノ理由ヲ説明シ、堂々博言
宏辭、此壇上ニ於テ絶叫セラレタ牧野君ハ、
當時本黨カラ松田氏ガ質問セラレテ居リ、
政友會カラ石井謹吾氏ガ長ク質問セラレテ
居ル、之ニ對シテ當時法相デアッタ現政友
會ノ總務デ在ラレル小川法相ガ此法案通過
ニ全力ヲ盡シテ居ラレル、又貴族院ニ於キ
マシテハ花井卓藏氏モ質問シテ居ル、之ニ
對シテハ政府當局ガ答辯サレテ居ルノデ
アリマシテ決シテ折原君ハ唯、一回五行一
口ノ質問ヲシタニ過ギナイト云フノハ、是
ハ甚ダドウモ提案者トシテハ調査不行届デ

アル(拍手)一體委員會ノ速記録モ調査ヲセズシテ、此壇上ニ立テ僅ニ五行一口トハ一體何事デアルカ、私ハ甚ダ遺憾ニ堪ヘナイノデアリマス、先ツ質問ノ第一、ソレハ提案者ニ對シテ質問スルノデアリマスガ、此第六條ノ第一項第五號及第六號ヲ削ルト云フノガ、本改正案ノ眼目トナシテ居ルデアリマス、而シテ其中ニ包含サレテ居ル所ノ犯罪ハ如何ナルモノデアアルカト申セバ、刑法第二編第一章ニ先ツ皇室ニ對スル罪ガ規定サレテ居ル、ソレカラ外患ニ對スル罪デアリマス、放火及失火ニ對スル罪デアリマス、通貨偽造、誣告罪、瀆職、強盜、竊盜、更ニ横領ト云フ風ナ甚ダ面白カラヌ犯罪ガ之ニ列舉サレテ居ルノデアリマス、此罪ヲ犯シ又ハ犯シタル者ヲ缺格者トスルト云フコトニ對シテハ、恐ラク牧野君ト雖モ私ハ同感デアラウト思フノデアリマス、皇室ニ對スル罪ヲ犯シ又ハ犯シタル者ヲ衆議院ノ議場ニ立テルト云フコトハ、是ハ餘程考慮セネバナラヌ問題デアラウト思フ、其他外患ニ對スル罪デアリマス、國家ヲ賣ラントスル者、サウ云フ犯罪ヲ犯シタル者ヲ苟モ立法院ニ、法律ヲ作ル所ノ其壇上ニ立テルト云フコトハ私ハ反對デアリマス、而シテサウ云フ者ヲモ包含シテ此法律カラ削除スルト云フ最モ強イ理由ヲ、只今ノ提案者ノ理由ニ於テ私ハ見出スコトガ出來ナイノデアル、冀クハ其點ニ付テモト強イ理由ヲ私ハ説明セラレンコトヲ希望スルノデアリマス(此時發言スル者多シ)質問デアリマス、其次ハ委員長、去年ノ二月二十三日ニ於テ當時ノ委員デアリマシタ鳩山サンガ、世ノ中ニ於テ最モ恐ルベキ者ハ知識ノアル無産階級デアル、知識ノアル無産階級ハ非常ニ恐ルベキモノデアルト云フコトヲ力説セラレタ、鳩山サンノ御意見ハ恐ラク普通選舉ニハ反對デアット私ハ思フノデアリマス、而シテ其際ニ用ヒラレテ居ル言葉ガ所謂「無職」ノ「インテリゲンチヤ」ト云フ言葉ノ意味ハ私ハ分リマセヌガ、恐ラクハ是ハ「インテリゲンチヤ」ト云フ言葉ノ意味ハ私ハ分リ

ラスノ間違デアラウト思ヒマスガ、「インテリゲンチヤ」ト云フ意味ハ一體通信社トカ、新聞社ト云フ意味デアリマス、若モ其無職ノ知識階級ノ者ヲ非常ニ怪シデ、之ニ選舉權ヲ與ヘルコトガ危險デアルト惧レルナラバ、同様ノ意味ニ於テ私ハ此犯罪ヲ犯シタ、斯ウ云フ重罪ヲ犯シタル者ハ矢張是非非常ニ危險デアル者ト言ハナケレバナラヌト思フ、知識ノアル無産階級ハ非常ニ危險デアルガ、犯罪者ハ何デモナイト云フ理由ハ、私ハ非常ニ薄弱デアルト思フノデアリマス、第二ノ點ハ小川法相モ去年ノ議會ニ於キマシテ、是ハ社會政策ノ上カラモ此缺格者ト云フコトハ必要ナリ、斯ウ云フ答辯ヲサレテ居ルノデアリマス、而シテ去年ノ二月二十三日ノコトデアル、此法案ノ通過ニ努力セラレタル賛成者ノ小川法相ハ、今日一年モ經過シタカシナイニ、其理由ガ消滅シテ、是ガ缺格者トスルノハ都合ナリト云フ理由ハ何所ニ在ルカト云フ點デアリマス、去年ハ委員會ニ於テ此缺格者ガ妥當ナリトシテ強辯セラレタル小川サンガ、今日ハ此改正法律案ニ賛成シテ居ラレノデアル、是ハ一年ノ間ニ或ハ非常ニ變遷ガアツタカ、或ハ社會思想ニ非常ニ變動ガアツタカ、何カ凡ソ一年間ニ其缺格者ガ缺格者トシナクテモ宜イト云フ強イ理由ガ其所ニ發見サレカドウカ、私ハ其點ヲ御伺シタイノデアリマス、原大宰相ノ際ニ於キマシテ普通選舉ニ反對セラレタ小川サンガ、去年ハ之ニ賛成セラレテ、而シテ又今日ハ更ニソレニ反對スルトハ一體ドウ云フ譯デアルカ、是ガ第二點デアリマス、更ニ最後ニ於キマシテ私ハ此重大ナル法案ヲ、質問者或ハ反對者ノ防禦トシテ牧野君ガ此壇上ニ於テ述ベラレタル理由、私ハ若モソレヲ理由トシテ述ベラレタル理由、同様ノ理由ヲ以テ私ハ無産階級者ニモ與ヘナケレバナラヌト叫ンダル所ノ鳩山サンノ理由モ、私ハ成立スルト思フノデアリマス、故ニ其理由ハ知識ノアル無産階級ニ與ヘラレコトヲ非常ニ恐ラレタル鳩山サンガ、犯罪者ハ差支ナイト云フ今日、此法案ヲ提出セ

タト云フコトハ、其間ニ如何ナル區別ガアルカ、私ハ御伺シタイノデアリマス(拍手)今更ニ牧野君ハ外國ノ例ヲ引カレマシテ、非常ニ舊イ法律ニハ二三見エケレドモ、新イ法律ニハ此缺格條項ガ無イト仰セニナリマシタガ、併ナガラ濠太利亞、或ハ白耳義其他ノ國ニ於テハ、明ニ法ニ現ハサレテ居リマスカラ、是ハ牧野君ニ更ニ御研究ヲ煩シタイノデアリマス、故ニソレ等ノ理由ヲ以テ、私ハ本法案ノ改正ト云フコトハ、甚ダ薄弱ナルモノデアルト思フノデアリマス、故ニ以上ノ點ニ付テ提案者ニ御答辯ヲ煩シテ此壇ヲ降ル次第デアリマス(拍手)

〔牧野良三君登壇〕

○牧野良三君 只今柏田君ヨリ提案者ニ對シテ質問ガゴザイマシタ、簡單ニ御答ヲ致シタイト存ジマス、先ツ柏田君ハ昨年ト本年私ノ立場ノ異ナル事ニ付キマシテ言及サレマシタ、其點ニ付テハ私ハ如何ニモ感慨ニ堪ヘマセヌ、サレバコソ私ハ此案ニ對シテ諸君ノ不黨ニ數回足ヲ運ンダノデアリマス、何トナレバ此案ヲ私ガ研究シ、此案ノ基礎ヲ作成シタノハ、政友本黨ノ黨員トシテ幹部ヨリ依頼サレ、命ゼラレタカラデアリマス(拍手)忘レモ致シマセヌ、昨年十月私ガ多忙ノ身ヲ本部ニ置キマスルト、此事ニ付テ君ハ調査研究ヲシテ居ル筈デアルカラ、是ガ講演ニ赴イテ吳レト云フ御依頼ガアリマシタ、其時依頼ヲ受ケタル其者ハ、只今柏田君ノ言ハレタ鳩山一郎君ト私ハアツタノデアリマス、依頼ヲサレマシタノハ私ノ尊敬スル松田君ト中村君デアリマス、而シテ斯様ナ事ヲ言ヒマスコトハ、松田君及中村君ニハ御迷惑ヲ懸ケマスルコトハ甚ダ申すナイト存ジマスガ、此政策ヲ實行スル爲ニ調査研究ヲシテ居ル私ニ、本黨員トシテ意見ヲ發表セイト云フコトデアリマシタカラ、再々斷リマシタケレドモ、當夜恰モ鳩山君ニ差支ガアツタ爲ニ、一人ハ是非出ナケレバナラヌト云フ破目ニ陥リマシテ、私ガ本郷ノ佛教青年會館ノ講演會ニ、東京帝國大學ノ小野清一郎氏外數氏ト共ニ臨ミマシタノデアリマス、是ガ私ガ直接是

等ノ事ニ携ハリマシタ最初ノ事實デアリマス、隨ヒマシテ私ハ其後本黨ヨリ政友會ニ移リマシテモ、自己ノ有スル主義ト政策トハ、飽迄モ把持シテ居リマスコトヲ御安心ヲ願ヒタイノデアリマス(拍手)第二ハ此規程ノ内容ニ互リマシテ(此時發言スル者アリ)暫ク御清聴ヲ——第一皇室ニ對スル罪、強盜殺人其他ノ罪、是等ノ者ニ對シテ選舉權、被選舉權ヲ停止スルガ當然デアル、皇室ニ對スル罪ヲ犯シタル者、國家ヲ賣ラントシタルガ如キ者ニ被選舉權ヲ與ヘ、又選舉權ヲ與ヘルコトハ不當デアルト言ハレルノハ御尤デアリマス、此點ハ柏田君ノ御質問ノ趣旨ニ私ハ滿腹ノ賛意ヲ表シマス、サリナレバ柏田君ハ法律家ノ出身デアリマスカラ御承知ノ通り、刑法ノ條文ニハ皇室ニ對スル罪ハ多ク死刑若クハ無期懲役、若クハ無期ノ禁錮デアリマス、無期ノ懲役、禁錮、若クハ死刑ノ人ニ此選舉權、被選舉權ガ與ヘラルベキモノデナイト云フコトハ明カナ事實デアリマス(拍手)又第三ニ強盜殺人ノ常習者其他ノ浮浪ノ徒ニ於キマシテハ、選舉法上住所ニ關スル規程ガアリマシテ、即チ一定ノ住所ヲ持ツ者ニアラザレバ、選舉法ニ於テ選舉權又ハ被選舉權ヲ享有スルコトハ出來マセヌカラ、柏田君ノ質問サレタル事ハ御尤デアリマスガ、御質問ノ如キ内容ノ國民ハ——人民ハ主トシテ此住所ニ關スル點ニ於テ其資格ヲ缺クルコトニナルト思ヒマスカラ、多クノ御心配ハナカラウト思ヒマス(拍手)更ニ本案提出ノ賛成者タル小川平吉氏ガ、昨年此案ノ支持者デアリタガラ、今年ハ之ニ賛成サレタルコトハ甚ダ解シ難イト云フ御言葉ハ御尤デアアル、私ハ千慮ノ一失デアルト言フタノハ此點デアリマス、サレバコソ此案ヲ通過セシメラレタル諸君ニ賛成ヲ求ムルノデアリマス、私ノ説明ガ足ラザル爲メ、若クハ説明者タル私ガ不徳ノ爲ニ、諸君カラ反對の質問ノ出ルコトハ私ノ恐縮ニ堪ヘヌ所デアリマス、併シ私ガ本黨カラ政友會ニ移タ爲ニ、政友會内ノ反對者ガ賛成者ニ爲テ吳レラレタノデアルナラバ、此點ニ私ノ微力ヲ御認メ下サルコ

ト此場合ニ希望セザルヲ得ヌデアリマス(拍手)更ニ鳩山君ニ對シ、鳩山君ハ昨年
是等選舉法ノ改正其モノニ付テハ、相當ノ
反對說ヲ有シテ居ラレタラシニモ拘ラズ、
其人ガ今日斯ル案ノ提出者トナラレルノ
ハ、如何ナル譯デアアルカト云フ御質問モ一
應御尤デアアル、併ナガラ既ニ帝國議會ヲ通
過シテ法律ハ、國家ノ法律デアリマス、國
家ノ法律トナリタ以上ハ、莫クハ一箇條デ
モヨリ良カラシムルコトヲ望ミ、之ニ努力
スルコトハ議員ノ當然ノ職責デアアル、サ
レバ誤レルヲ正シ、惡キヲ是正スルノハ、
正ニ鳩山君ノ愉快ナル義務デアルト私ハ考
ヘマス、更ニ第五トシマシテ牧野ハ提案ノ
理由トシテ、是等ノ同ジヤウナ種類ノ規程
ガ外國ノ舊立法律ニハアルケレドモ、新
シ立法律ニハ無イト言フタ、然ルニ濠太利
亞、白耳義ニ同ジ規程ガアルト言ハレマシ
タ、ソレ等ハ何レモ新立法律デハナク、舊イ
立法律デアル、而シテ更ニソノ中ニ佛蘭西ヲ
加ヘルコトガ出來ルノデアリマス、其事
ハ甚ダ微力デアリマスガ、茲ニ調査シタ材
料ヲ持テ居リマススガ、委員會ノ席上デ緩
ク御質問ニ御答辯ヲ致シテ見タイと思ヒ
マス(拍手)是等ノ事ニ付キマシテハ、特ニ
本黨ニ於テハ再々松田、中村ノ兩先輩ニモ
意見ヲ申シ、材料モ差上ゲデアリマス、決
シテ私ハ卑屈ノ感情ヲ持テマセヌ、私ノ答
辯ガ柏田君ノ感情ニ觸リ、其他ノ人ノ不
愉快ナ念ヲ起シタカモ知レヌコトヲ申譯ナ
ク思ヒマスガ、其爲ニ此案ニ對シテ心持ヲ
移サルハ、ヤウナ事ノナイコトヲ希望シテ、
此答辯ヲ終ル次第デアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 原夫次郎君

(原夫次郎君登壇)

○原夫次郎君 諸君、私ハ本案ガ提案セラ
レタコトニ付テハ多大ノ敬意ヲ拂フ者デ
アリマス、先程提案者タル牧野君ノ提案ノ
理由ヲ水リマス云フト、先ツ要點ハ、是
ハ主トシテ刑事政策ノ問題カラ出發致シテ
居ルノデアアル、斯ウ云フノガ論旨デア
ル、此理由書ニモアルガ如ク、刑辟ニ觸レタ
ル者ニ對シテ差別的待遇ヲ爲スト云フコト

ハ、新選舉法ノ所謂根本義デハナイ、是
即チ本案ノ立脚點デアアルヤウニ承クノ
デアリマス、此點ニ向テモ洵ニ多大ノ敬意
ヲ牧野君ニ表スル者デアアル、併ナガラ所
謂ノ逐フ獵師ハ山ヲ見ズデ、其論ゼラレ
所ノモノガ餘リニ犯罪者ヲ庇護シ、餘リニ
刑辟ニ觸レタル者ヲ一カラ十マデ之ヲ辯護
スルニ至ラテハ、吾々其意思ガ那邊ニアル
カト云フコトヲ疑ハザルヲ得ナイ(拍手)私
ハ昨年以来、全國ニ實ニ百五十万人ノ前科
者ガアル、而シテ政府ハ之ニ對シテ刑事政
策ノ見地カラ、又社會政策ノ見地カラ何等
之ニ施ス所ガナイ、司法省ハ其管轄裁判所
ニ於テ、徒ニ罰スルコトノミデアラテ、所
謂叩キ放シヲヤテ、ソレカラ後ノ刑餘者
ニ對シテハ少シモ保護ヲ加ヘナイ、此點ヲ
憂慮致シマシテ、所謂刑餘者ニ對スル差別
的待遇撤廢ニ關スル建議案ヲ提案致シタ
デアリマスガ、牧野君ノ御辯明ニ依ルト云
フト、一體犯罪ヲ犯ス者ハ、犯罪ヲ犯ス
ニハ洵ニ已ムヲ得ナイ事由ガアルテ犯ス
ノデ、極メテ情狀ヲ酌量シナケレバナ
ラヌト云フコトデアリマシタケレドモ、
併ナガラ是ハ思ハザルノ甚シキモノデア
ラ、少クトモ刑辟ニ觸レタル者ニ付テハ三
通りノ種類ガアル、是ハ私ガ茲ニ申スマデ
モナク、先ツ第一ニハ牧野君ノ言ハレル如
キ所謂偶發ノ犯人ガアル、又第二ニハ所謂
慣行性ノ慣習ノ犯人ガアル、又第三ニハ
ドウシテモ改善不能ノ犯人ガアル、少クト
モ此三種ノ犯罪ガアルト云フコトヲ前提
ニ置カケレバ、ドウシテモ此刑事政策ヲ
遂行スルコト云フコトハ出來ナイノデア
リマス、是ニ於テ私共ハ固ヨリ此牧野君ガ
先程本案ニ反對スル反對論ノ假定論トシテ三
ツヲ提テ來テ、此反對論ニ付テ彼此申
サレタノデアリマスケレドモ、此假定ノ反
對論其モノニ付テハ私ハ全然牧野君ノ意見
ニ同意デアリマス、ソノナコトデ此本案ニ
反對スル者ハ天下恐ラクハ無イト思フ、今
是カラ御尋セントスル所ガ、少クトモ反對
セントスル人ノ心持デハナイカト思フ點デ
アリマス、ソコデ私ハ本案ニ付テ先ツ提案

者側ニ質問ヲスルト同時ニ、政府當局ニ對
シテ質問致サウトスル者デアリマス、提案
者ニ對シテハ此選舉法第六條ノ第五號全部
ヲ削除致サレタコトデアアル、言フマデモナ
ク此第五號ハ即チ犯罪中デ最モ重ク處分セ
ラレ六年以上無期懲役マデアル、此無期懲
役ナルモノハ、刑罰ヲ受ケタ者ガ受ケタ當
時ニアッテハ無期懲役デアラテモ、或ハ其後
恩赦ニ依リ、或ハ其他減刑ニ依テ、此無
期懲役若クハ死刑ニ處セラレル者ガ、即チ
此選舉法ノ缺格條項ニ當ル者ガ隨分多イ
デアリマス、所デ先程同僚柏田君ガ尋ネタ
如ク、我ガ刑法ニ於テ皇室ニ對スル罪デア
ルトカ、或ハ内亂外患ニ關スル罪デア
ルトカ、是等ノ大シテ非國民的、非日本人
ノ行動ヲ爲シタ者マデモ、全部是等ニ對シ
テ選舉權ヲ與ヘナケレバナラヌト主張ス
ルハ、一體ドウ云フ考デアリマスカ、是ガ
第一ノ提案者ニ對スル私ノ質問デアリマ
ス、第五號全部ヲ削除シテシマッテ、總テ
ノ刑餘者、ドンナ犯罪ノ種類デアラテモ、
ドンナ國家ヲ傷ケル者デアラテモ、ドンナ
非社會的性質ヲ持テ居ル者デアラテモ、必
ズ選舉權ヲ與ヘナケレバナラヌト云フヤウ
ナ法律ヲ作ルト云フコトハ、一體ドウ云フ
コトデアアルカ、本案ニ反對セントスル所
者ハ、私自身モ洵ニ此法案提出ノ大體ノ趣意
ニ於テハ滿腹ノ賛成ヲ致ス者デアアルケレ
ドモ何トシテモ此提案其モノニハ賛成ガ出
來ナイ、恐ラクハ反對セントスル所ノ者
ハ、必ズ其點ニ反對スルニ相違ナイト思フ
ノデアリマス、又第二點ト致シテ斯ウ云フ
改正案ヲ出スナラバ、一體其前ニ豫備的行
動ガナケレバナラヌト思フノデアリマス、
所謂準備行為トハ何デアアルカト云フナ
ラ、先程申上ゲマシタ如ク全國ノ前科者百
五十万人、少クトモ選舉權ノ缺格者ノ中ニ
包含セラルベキ人數ヲ統計ノ上カラ拾上ゲ
ラ、先程牧野君ノ言ハレタ如ク十五万人
カラアル、此十五万人或ハ百五十万人ニ對
シテ差別待遇ヲ爲ス所ノ法令ハ、驚ク勿
レ百三アルノデアアル、百三ノ法令ニ於テ此
五十万ノ前科者ニ對シテ差別待遇ヲ爲ス所

規定ガアル、或ハ府縣ニアル、或ハ一般
法律ニナリテ居テ差別待遇ヲ致シテ居
選舉法ハ即チ唯、一時ノ成上リ者ノ引越
帶ト同ジコトデ、何モ足ラナイ彼レモ足
ナイト云フ場合ニ、唯、前ノ法律ヲ踏襲シ
テ斯ノ如キ規定ヲナシタニ過ギナイノデア
ル、ソコデ牧野君等ガ提案セントスル所
法案ヲ出スナラバ、先ツ一般ノ——是マデ
前科者トシテ他ノ法令ニ於テ差別待遇ヲナ
シテ居ル法令ノ方カラ整理ヲナシ、是等百
五十万ノ前科者ヲ如何ニシテ救済スルカ
考ヘナケレバ、唯、突飛ニ普選法ガ出タカ
ラ此條項タケテ廢スルト云フノハ、所謂選
舉法タケテ見テ他ノ一般刑事政策ノ問題、
若クハ社會政策ノ問題ヲ毫モ考ヘナイ議論
デハナイカト思ハレルガ、其點ハ如何ニ考
ヘラレルノデアリマスカ、提案者ニ對シテ
此二點ヲ伺テ置クノデアリマス、次ニ政
府者ニ對シテ、實ハ私ハ一昨日當議場ニ於
テ地方制度ノ改廢ノ法律案ニ對シテ同様
ノ質問ヲ致シタノデアリマスガ、何トシテモ
內務次官侯君ハ素人デアリマス、素人デア
リマスガ故ニ、專門ノ問題ニ付テハ委員
會々々々ト云フコトデ、私ハ餘リ追窮ヲ致
サナカッタノデアリマスガ、併シ今日此提案
其モノニ付テハ、之ヲ委員會ニ付託スルカ
シナイカト云フ問題デアリマススガ、況ヤ
又委員ニナルカドウカモ分ラナイ、是ニ於
テカドウシテモ第一讀會ニ於キマシテハ、
私ハ疑ニ御尋致シタ問題ニ付テ政府當局ノ
最モ玄人ニ一ツ御答辯ヲ願ヒタイト思フ、
其第一點ハ提案者ニ御尋致シタ第二點ノ
如ク、即チ刑餘者ノ差別待遇ニ付テ政
府當局ハ一體ドンナ考ヲ持テ居ルノデ
アルカ、此點デアリマス、又此改正法案
其モノヲ鵜呑ニスル譯ニハ行カナイモ
ノデアアルケレドモ、此改正案ノ中ニ大
ニ理由ガアル、其理由ノアルト云フノハ、
即チ第一點ニ於テ、又第二點ニ於テ以下述
ヘル如クデアリマスガ、大體ニ於テ此新選
舉法ノ此法律、此第六條ノ條ヲ改正スル
ニ非ズンバ、ドウシテモ是ハ實際ニ於テ次
ノ總選舉ヲ迎ヘル譯ニハ行カナイ問題ガア

ルノデアリマス、ソレハ第一番ニハ、即チ植民地各國ニ於テ處罰ヲ受ケタル所ノ刑餘者ニ對シテハ、全然是ハ選舉權ガアルト云フコトニ此新選舉法デハ論定ガ出來ルノデアリマス、諸君、如何デアリマセウ、斯ウ云フ缺格者ノ條項ヲ設ケテ、而シテ内地ノ刑法ニ於テ處罰ヲ受ケタル者ニ付テハ、何處迄モ是ハ缺格者デアルトナシ、朝鮮、關東州、南洋、臺灣等ニ於テ處罰ヲ受ケタル者ニ付テハ、選舉權ガアルト云フコトニ名簿ヲ作ルト云フコトハ、ドウシテモ兩者ノ間ニ權衡ヲ得ナイコトニ相成、テ居ルノデアアル、少クトモ政府當局ハ此點ノ改正ニ付テハ、均衡ヲ得ルガ如キ修正案ヲ出シタ場合ニ於テハ、是ハ贊成シナケレバナラヌト思フ、又是ハ政府ガ自ラ進シデ、モ提案ヲ爲サナケレバナラヌイモノヲ、折角牧野君其他カラ提案ヲセラレタ此好機會ニ於テ、吾々ガ之ヲ修正致シタナラバ、政府ハ之ニ同意シナイト云フ譯ニハ行カナイノデアアルガ、其點ハドウデアアルカト云フコトヲ先ヅ第一點ニ御伺致シテ置クノデアリマス、又第二點ニ致シマシテハ陸海軍刑法デアリマス、陸海軍刑法ニ於テ處分ヲ受ケ、而シテ在郷軍人トシテ此選舉名簿ニ依リ選舉權ヲ有スルコトニ相成ル、即チ是ハ一昨日ニ於テ俵内務次官モ私ノ議論ヲ是認シ肯定セラレタ如ク、陸海軍刑法ニ於テ處罰セラレタル所ノ者ハ、是ガ在郷軍人トナル場合ニハ、是ハ所謂刑法ト違フノデアアルカ、特別法デアアルカ、之ニ依リテ處分セラレタ者ハ、選舉權ガアルテ、缺格者デハナイト之ヲ認メラレテ居ル、果シテ然リトセバ、此不權衡ヲ如何ニスル考デアアルカ、吾々ガ此本案ヲ其點ニ於テ、現在ノ法律其モノノ趣意ヲ遵奉シテ、此不權衡ナル點ヲ修正——改正致シタ場合ニ於テハ、政府ハ之ニ對シテ同意ヲ必ズシナケレバナラヌモノト思フガ、政府ノ所見如何、大體ニ於テ之ニ就テ司法大臣デモ宜シイノデアリマスガ、或ハ法制局長官デモ宜シイノデアリマスガ、御答辨ヲ煩シテ置キマス

(牧野良三君登壇)

○牧野良三君 只今原君ヨリ爲サレマシタル質問ニ付キマシテ、簡單ニ御答ヲ致シタル存ジマス、提案者ハ刑辟ニ觸レタル者ヲ餘リニ辯護シ過ギルト言ハレマシテ、罪ヲ犯シタ者ニハ三ツノ種類ガアル、各是等ヲ分ケテ考ヘナケレバナラヌト言ハレマシタルコトハ、洵ニ質問者ニ敬意ヲ表シマス、サリナガラ原君——特ニ原君ニ私ハ申上ゲタイノハ、吾々社會政策ヲ研究スル者ガ、社會ノ秩序ヲ破、テ偶發的ニ罪ヲ犯シ、遂ニハ是ガ慣習性トナリ、犯罪狂トナルト云フ其傾向、其實際ノ狀況、之ヲ見ル時ニ、吾々ハ必ズ其處ニ同情スベキ實際ノ事情ヲ看取スルノデアリマス、之ヲ如何ニシテ矯正スルカ、之ニ對スルノ社會政策ト刑事政策トハ、原君ヤ吾々ノ今日研究シテ居ル題目デアアル、サレバコソ……(此時發言スル者アリ) 御默リナサイ——御默リナサイ

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ

○牧野良三君(續) サレバコソ此點ニ付テ諸君ト吾々トハ、昨年ノ議會ニ於テ前科アル人ニ對スル差別ヲ撤廢スベキ法律案ヲ出シテ、國家ヨリ斯ル差別ノ取扱ヲセラレナイヤウニト云フコトヲ希望致シタノデアリマス、隨テ此點ニ對シテ原君ハ準備的行爲ガ必要デアルト言ハレ、現在差別の待遇ヲ爲シテ居ル國家法制上ノ事例ヲ算ヘルト百三ツアル、是等ノモノヲ其儘ニ抛擲シテ置イテ、唯、普通選舉ニ於ケル此條項ノミヲ取扱フト云フコトハ、聊カ誤、テ居ナイカト云フ御説デアリマスケレドモ、普通選舉法——最モ新シク、サウシテ普通の選舉權ヲ與ヘルト云フ普通選舉法ニ、斯ル規定ヲシテ居ルコトヲ除クコトガ準備行爲ノ一ツデアリ、段々段々行テ行クコトノ第一歩デアルト私ハ考ヘルノデアリマス(拍手) 冀クハ此點ニ於テドウカ之ヲ行テ、更ニ百尺竿頭一歩ヲ進メルコトヲ原君ト共ニ努メテ行キタイト思フノデアリマス、更ニ内亂ニ關スル罪、皇室ニ關スル罪等ノコトニ付テ、柏田君ノ言ハレタト同一趣旨ノ御質問ガアリマシタ、是等モ私ハ御趣旨ニ於

テハ同感デアリマス、サリナガラ實際ノ適用ガ法規ノ規定ノ上ニ於テ、亦實際起ル事例ニ於テモ之シイノデアリマス、之シイ——又殆ド無イト言フテ宜イ、此事例ノ爲ニ——殆ド例外的ナ事例ノ爲ニ——極度ノ例外的ナル事例ヲ恰モ原則ナルガ如クニ考ヘテ此案ヲ非難セラル、ト云フコトハ、聊カ當ラナイモノデハナイカト思フノデアリマス(拍手) 即チ原則ヲ規定スル、其處ニハ斯様ナ原則ヲ實行シテ生ズル種々ナ弊害ガゴザイマスケレドモ、其例外ヲ餘リ顧慮シテ以テ、原則ニ餘リニ偏狹ナル制限ヲ付スルト云フコトハ考ヘモノデアルト思ヒマス、何處マデモ原告モ吾々モ刑法ニ付テハ主觀主義ノ理論ヲ以テ進マントシテ居ル者デアリマスガ、希クハ是等ノ例外的事實アルコトヲ餘リ重大ニ考慮セズ、大キナ點テ個々別々ノ場合ニ於テ適當ナル刑ノ宣告ヲナス方針ニ進ミタイト思ヒマス、此點ヲ申述ベテ御質問ニ答ヘル次第デアリマス(拍手)

(國務大臣江木翼君登壇)

○國務大臣(江木翼君) 原君ヨリ御尋ニナリマシタ一二ノ點ニ付キマシテ、簡單ニ御答ヲ致シタイト思ヒマス、第一ハ刑餘者ニ對スル差別待遇ニ關シテ、大體政府ハ如何ナル意見ヲ持テ居ルカ、斯ウ云フ御尋デゴザイマシタガ、此點ニ付キマシテハ、既ニ過日內務大臣ヨリ本項ニ付キマシテ諸君ノ中ヨリ御質問ガアリマシタノニ對シマシテ、御答ニナタト同ジ意見デゴザイマシテ、更ニ又加ヘルノ必要ハ無イカト思フノデアリマス、申上ゲモナク提案ニナタテ居リマス條項ハ、六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタ者、又ハ其他ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シテハ、選舉權及被選舉權共ニ缺格セシムルト云フ提案ナンデアリマス、是等ノ罪ヲ犯シタル者ノ中ニハ、先程ヨリ屢、舉ゲラレマシタル如ク、或ハ皇室ニ對スル罪、外患ニ對スル罪、其他澤山ノ破廉恥罪ヲ犯シタル者ガ包含サレルノデアリマス、皇室ニ對スル罪ヤ、外患ニ對スル罪ニ付テハ、牧野君ハ死刑若クハ無期徒刑デアアル故ニ、斷ジテ問題ハ起ルマイト云フヤウナ御考ガアリマシタヤウデゴザイマスガ、刑法第二編ノ第一章ノ皇室ニ對スル罪ノ中ニハ、所謂皇室ニ對スル不敬罪ニ至リマシテハ、ズト低イ刑ガ盛、テアルノデアリマス、ソレカラ又極刑ニ處セラレル場合ト雖モ、極刑ノ處刑ヲ受ケテ、而シテ後ニ特赦ニ依テ是ガ無期刑トナリ、更ニ特赦ニ依テ是ガ有期刑トナルト云フ場合モアルノデ、其執行ヲ終リタル者ガ、社會ニ出ルト云フ場合ガ全然皆無デアルト云フコトハ、保證ガ出來ナイノデアリマス、要スルニ議員ノ品位ヲ彌ガ上ニモ高メルト云フコトハ爲ニハ、此條項ガアルノガ洵ニ適當デアラウト考ヘル次第デアリマス、隨ヒマシテ政府ニ於キマシテハ、刑餘者ノ差別待遇ニ關シテ、此條項ニ關シテハ目下之ヲ改ムルト云フ意思ガ無イコトハ、先般內務大臣ガ御答ヲ致シタ通りデゴザイマス、サリナガラ一旦刑ヲ執行ヲ受ケ、而シテ長年ノ間社會ニ居リマシテ、少シモ社會ニ害ヲ爲サナイノミナラズ、公益ノ爲ニ盡シテ居ルト云フガ如キ、如何ニモ殊勝ナル人ノ澤山アルト云フコトハ、牧野君ノ述ベラレタ通りデアルト思フノデアリマス、斯様ナル多數ノ刑餘者ニ對シマシテハ、司法當局ニ於キマシテハ、怠ラズ特赦ノ恩命ノアルヤウニ手續ヲ執、テ居ルノデアリマス、現ニ最近ニ於キマシテハ、僅カ一年二年ノ間ニ五六万人ノ是等ノ二十年若クハ十五年以上經テ居リマス所ノ刑餘者ニ對シマシテ、復權ノ恩命ヲ降サレルヤウナ手續ガ運バレタノデアリマス、是カラ先ニ於キマシテモ、相當期間ヲ經マシタ、而シテ社會ニ出マシテモ相當ナ勸ヲシテ居ル者ニ對シマシテハ、斯ル恩命ガ降ル機會ト云フモノガアリマス、ソレカラ同ジク植民地ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ、本條ノ適用ヲ受ケナイデハナイカト云フヤウナ意味ノ御尋ガ、第一段ノ後ノ方ニアツカト思フノデアリマスガ、是ハ私ハ左様ニ考ヘテ居ナイノデアリマス、御承知ノ如ク共通法ナルモノガ

出來マシテ、確カ先年原君モ此法律制定ニハ御參與ニシタト思フノデアリマスガ、植民地ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ガ、内地ニ歸シテ來タ場合ニ於テハ、其植民地ニ於テ受ケタル刑ノ言渡ハ、内地ニ於テ受ケタモノト同一ノ效果ヲ生ズルコト云フ規定ガ共通法ノ中ニ一項設ケテアルト思フノデアリマス、隨ヒマシテ植民地ニ於テ、其他ノ地方ニ於テ夫レ々々此條項ニ當ル刑ノ宣告ヲ受ケマシタ場合ニ於テハ、當然此適用ヲ受ケマスコトハ申迄モナイコト、思フノデアリマス、ソレカラ第二段ニ陸海軍刑法ハ此中カラ除ケルノデハナイカ、是ハ一面ニ於テハ御説ノ通りデアリマス、併ナガラ六年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト云フ場合ハ、陸海軍刑法ニ於テモ多々アルノデアリマス、或ハ敵前ニ於テ司令官ガ降ル、死刑ニ處スル、或ハ無期ノ禁錮ニ處スルコト云フガ如キ非常ニ重刑ガ盛ナル場ノデアリマス、ソレデ第五號ニ該當スル場合ニ於テハ、澤山陸海軍刑法ノ條項ニ當ル場合ガアルト思フノデアリマス、併ナガラ第六刑法ノ條項ニ舉ゲテアリマス場合ノ規定ニ對シマシテハ、陸海軍ノ刑法ハ適用ハ無イノデアリマス、ソレハ申迄モナイコトデアリマス、併ナガラ此陸海軍刑法ハ原君モ能ク御承知デアリレル如クニ、大體ニ於テ規律罰デアル、破廉恥的ノモノデハ多クナイノデアリマス、例ヘバ哨兵ガ其任務ヲ怠タカ、或ハ司令官ガ爲スベキ所ヲ盡サナカッタカ、或ハ下官ニ居ル所ノ者ガ上官ニ對シテ抗命ヲシタト云フガ如キ、多クハ規律ニ屬スル所ノ犯罪デゴザイマシテ、此第六號ニ舉ゲテアリマス所謂破廉恥的ノ犯罪ト類ヲ同ジウスルモノデナイノデアリマスガ故ニ、寧ロ此處ニハ舉ゲナイ方ガ適當デアル、斯様ニ考ヘルノデアリマス、是デケノコトヲ一應御答致シテ置キマス

〔原夫次郎君登壇〕

○原夫次郎君 極メテ簡單デアリマスガ、司法大臣ノ只今ノ御答辯ハ、ドウモモウ少シ御研究ニナッタト御發表ニナシテハ如何カと思フ、相變ラズ矢張司法大臣モ此點

ニ於テハ素人デアル、ドウモ今ノ御答ハ、諸君ノ御聽キノ如ク私ニモ分ラナイ、先ヅ陸海軍刑法デ處罰セラレタル者ハ、是ハ主ニ規律ノ事デアル、是ハサウ云フ法律デヤナイ、刑法ノ特別法デアル例ヘバ刑法内亂ノ罪、外患ノ罪、矢張陸軍刑法海軍刑法ニモ特別ニ規定ガアル、又普通ノ刑法ニモ強盜罪、窃盜罪ト云フ破廉恥罪モ、陸海軍刑法ニハ即チ掠奪罪トシテ非常ニ破廉恥罪トシテ規定ガアルノデアリマス、其處デ内地ノ刑法ニ於テ此破廉恥罪若クハ六年以上ノ重罪ニ處セラレタル所ノ者ハ缺格者デアラナラバ、同一ノ趣意ニ依テ陸海軍刑法ニ依テ處罰セラレタル所ノ同種類ノ犯罪者ニ對シテモ、選舉權ヲ與フベカラズト云フコトハ當然ノ事デアアルノデアリマス、今ノ司法大臣ノ此點ニ關スル答辯ハ、本當ノ出來合ノ御答辯デアル、私共承服ハ出來ナイ、又植民地ノ法令ニ付テハ、司法大臣ハ私モ承知シテ居ル、私モ共通法ノ協贊ノ場合ニ承知致シテ居ルト言ハレタガ、此共通法ナルモノハ、是ハ唯、手續法デケデアリマシテ、實體法ニハ何ニモ觸レナイ、又朝鮮ノ總督ニ委任シテアル所ノ法律デ、委任ヲ致シテ朝鮮總督ハ法令ヲ以テ刑法ト同ジヤウナ刑罰規則ヲ制定スルコトガ出來ル、又臺灣ニ於テモ同様デアリマス、多年彼ノ臺灣ノ法令問題ニ付テハ、當議會ニ於テモ問題ニシタノデアリマスガ、是ハ法律デ委任シテアル、委任シテ臺灣總督ガ内地ノ刑法ト同ジヤウナ法律ヲ制定スルコトガ出來ル、又關東州ニ於テモ然リ、南洋諸島ノ管理地ニ於テモ向ホ然リ、是等ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ、御互ニ日本領土内ニ於テモ法律ガ互ニ齟齬シテハイカヌノデアラカラ、ソコデ共通法ナルモノヲ設ケテ、此法律ヲ適用スル場合ニ於テ、各自ニ扞格ノ無キヤウニ共通法ガ出來テ居ル、是ハ訴訟手續法デケアル、是等ノ特別法ニ依テ罰セラレタル場合ニ於テハ、其效力ハ矢張内地デ罰セラレタ效力ト同一ノ效力ニナルノデアアル、ケレドモ併ナガラ根柢ニ於テ新選舉法ニ於テハ刑法ニ於テ處罰シタル場合

デケテ規定シテ居ルノデアリマスカラ、植民地各國ニ於テ適用致シタル所ノ法律ガ、此刑法ニアラズシテ特別法デアルトスルナラバ、ドウシテモ是ハ矢張第六條ニ包含シナイモノデアアルト云フコトニ結論ヲシナケレバ相成ラヌノデアリマスガ、是等ノ點ニ付テ司法大臣ハ如何ナル御見解ニ依ッテ、先程ノ御答辯ヲ爲スツノデアリマスガ、是ハ今此處デナクとも宜シイノデアリマスガ、寫ト御研究ノ上、或ハ委員會等ニ於テ御發表ニシテモ宜シイノデアリマスガ、唯、私ハ一言其點デケテ申上ゲテ置キマス〔拍手〕

〔國務大臣江木翼君登壇〕

○國務大臣〔江木翼君〕 陸海軍刑法ノコトハ、各條項ヲ能ク御覽ニナリマスレバ、大體原君モ自ラ理解セラル、所ガアルカト思ヒマス、是ハ他日御質問ガアリマシタナラバ、各條項ニ付テ夫レ々々御答ヲシタラ宜カラウト思ヒマス、共通法規ニハ、極メテ明確ナル規定ガアルノデアリマス、一ノ地域、例ヘバ臺灣ナリ朝鮮ナリ一ノ地域ニ於テ、刑事ノ訴訟若クハ處分裁判ヲ爲シタル所ノ行爲ハ、他ノ地ニ於ケル法令ノ適用、臺灣カラ言ヘバ、他ノ地ト云フノハ即チ内地、朝鮮カラ言ヘバ、他ノ地ト云フノハ臺灣トカ内地、其内地ニ於テハ内地ニ於ケル所ノ法令ノ適用ニ關シデハ、其地即チ内地ニ於テ爲シタル所ノモノト同一ノ效力ヲ有スト云フ明カナ規定ガアルト思フノデアリマス、隨ヒマシテ刑法ヲ適用シ刑法ヲ準用シ而シテ刑ヲ受ケマシタ者ガ内地ニ歸リマシテ、衆議院議員選舉法ノ適用ヲ受ケル場合ニ於テハ、恰モ内地ニ於テ其刑ヲ犯シタルモノト同一ノ效力ヲ發セシメラレト云フコトハ當然ノ結果デアアルト、斯様ニ解釋スルノデアリマス〔拍手〕

○議長〔粕谷義三君〕

本案ニ對シテ賛成演説ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス、清瀬一郎君

〔清瀬一郎君登壇〕

○清瀬一郎君 簡單ニ一言賛成ノ旨ヲ演説致シマス、只今司法大臣ノ御説明ノ中ニモ、先般內務大臣カラノ當時施政演説ノ中

ニモ、議會ノ尊嚴ヲ保ツ爲ニ、前科アル者ニ選舉權ノ行使ヲナシメザルコトヲ可トスルト云フ意見デアッタノデアリマス、是モ極メテ通俗ナ見方カラスレバ、多少ノ理窟ハ無イデモアリマセヌガ、議院政治ノ尊嚴ト云フノハ、選舉權ト云フモノヲ人間生付イタ權利デアアルトシテ、日本人タル以上ハ、大抵ノ場合ニハ選舉權ヲ得セシメテ居ッテ、其信任ニ依ッテ成立ツ議會ガ即チ民意ヲ代表シテ居ルト云フ、此見方カラ始メテ議會ノ尊嚴ガ保タレル、先刻誰カガ權利ノ方カラ議論サレタノハ即チ此デアアル、少々ノ過チガアラウカ、少々ノ前科ガアラウカ、人生レテ即チ自由ヲ得テ居ル、ソレデアラカラシテ選舉權デケハアルノダト云フコトデ、始メテ選舉權ノ神聖ガアリ、議會ノ尊嚴ガアルト思ハレルノデアリマス、ソレ故ニ總理大臣並ニ司法大臣ノ議院ノ尊嚴ヲ保ツ爲ト云フコトニハ、更ニモウ一ツ徹底奥深ク考慮スル餘地ガアラウト私ハ思ヒマス、重ネテ諄クハ申上ゲマセヌガ、此問題ハ結局六年以上ノ刑ニ處セラレタル者ト、六年以下ノ刑ニ處セラレタル者ト如何ニ扱フカ、假令六年以上ノ刑ニ處セラレタル者デモ、一生生涯ニ於テ如何ナル場合デモ生涯死マル迄選舉權ヲ行ハシメナイト云フコトハ、如何ニモ道理ニ合シナイ、先刻牧野君ガ刑ノ時効ノ事ニ比シテ論ゼラレタ通りデアリマス、六年以下ノ人ニハドウデアルカト云ヘバ、現ニ昨年迄ハ六年以下ノ刑ニ處セラレテ居タ人デモ、三圓ノ納稅サヘスレバ、現ニ選舉ニ參與致シテ居ル、私共選舉シタルノ中ニモ、前科ノ人ガアル、諸君ノ選舉區ニモ多クアル、ソレデ以テ吾等議會ノ神聖ヲ害シタハ思ハナイ、是カラ先ダケガ、前科者ガ入レバ議會ノ神聖ヲ害スルトハ、ドウシテモ理窟ニ合ハナイ事デアアルト思フ、何卒深ク御研究アラシコトヲ希望致スノデアリマス、先刻牧野君カラモ、此立案ハ錯誤ヨリ出テ居ルト云フコトヲ論ジテ居ラレマシタ、一體立法機關ニ向シテ錯誤呼ハリマスルノガ善イカ惡イカ、私ハ躊躇シマスガ、多少其嫌ヒノアルコト

ハ、選舉法ノ百三十七條ヲ見マスルト云フ

議アリマセヌカ

〔異議ナシノ聲起ル〕

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——先ツ
砂糖消費稅法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開
キマス、轉苗代君

砂糖消費稅法中改正法律案(轉苗代君
外十二名提出)
砂糖消費稅法中改正法律案
砂糖消費稅法中左ノ通改正ス
第三條第一號中第一種ヲ左ノ如ク改ム
第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號末
滿ノ砂糖
黑糖、白下糖但シ樽入ニ非サル
モノ 百斤ニ付金三圓

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

〔轉苗代君登壇〕
○轉苗代君 只今議題トナッテ居リマスル
所ノ砂糖消費稅法中改正法律案ノ提案ノ理
由ヲ極ク簡明ニ説明ヲ致シマス、即チ本案
ノ趣旨ハ、樽入黑糖並ニ樽入白下糖ニ對ス
ル消費稅ヲ廢止スルト云フ案デアリマス、
樽入ノ黑糖並ニ白下糖ノ產地ハ、東京府下ノ
小笠原島、靜岡縣ノ一部、高知縣並ニ熊本
縣、宮崎縣ニアリマス、其主ナル產地ハ
沖繩縣並ニ鹿児島縣ノ大島郡デアリマス、
此樽入黑糖並ニ白下糖ハ、即チ沖繩縣並ニ
鹿児島縣ノ大島郡ガ主ナル產地デアリマス
ルト同時ニ、此土地ノ主要產物デアリマ
ス、而シテ其製造業者ハ其總戸數ノ約六割
ヲ占メテ居リマス、其大部分ハ五
樽以下ヲ製造シテ居リマス、所ノ小農業者
デアリマス、而シテ其全體ノ上カラ考ヘマ
シテモ、平均數ノ上カラ見マスレバ、鹿児
島縣大島郡ニ於キマシテハ、一戸當リニ付
テハ五・八、即チ六樽ニ足リナイノデアリマ
ス、砂糖ノ樽數ノ上カラハ、吾々ハ餘リ經
驗シテ居リマセヌカシテ、之ヲ金額ニ見

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

積ヲ見マスと云フト、其一戸當リ平均ノ
總收入ガ、一年間ニ於テ約七十五圓ノ間
ヲ昇降致シテ居ルノデアリマス、而シテ其
中カラ十五圓内外ノ消費稅ヲ出サナケレバ
ナラヌコトニナリマス、カシテ、此消費
稅ヲ控除致シテ見マスと云フト、一年間ニ
此主要產物デアアル生産地ノ農業者ノ收入ト
云フモノハ、約六十圓ニ過ギナイノデアリ
マス、斯様ノ小農ニ對シテ、此消費稅ハ從
量稅デアリマス、所ノ小農ニ對シテ、此消
費稅ハ從價稅ナラバ、約二割ニ相當スル課稅ヲ
シテ居ル結果ニナルノデアリマス、斯様ナ
苛酷請求ノ稅ト云フモノハ、外ニ其類例ガ
無いノデアリス、加之此消費稅ガ課セラレ
テ居リマス爲ニ、其徵稅手續ガ煩瑣デアリ
マシテ、ソレト同時ニ交通不便ノ是等ノ土
地ニ於キマシテ、收稅官更ガ少イノデアリ
マスガ故ニ、其結果ハ檢査ガ遅レル爲ニ、
商機ヲ逸シ、約束ヲ違反シテ、之ニ依ッテ
生ズル所ノ損害モ亦尠クナイノデアリマ
ス、而シテ此黑糖ノ販路ハト申シマス、
段々都會地カラハ影ヲ潜メテ、サウシテ山
間僻地ノ、極ク經濟上資力ノ薄弱ナル人々
ガ之ヲ使用スルト云フ狀況デアリマス、カ
ラ、是等ニ對スル此重稅ノ賦課ト云フコト
ハ、所謂擔稅能力ニ應ゼナイ不合理ノ稅ト
謂ハナケレバナラヌト思ヒマス、而シテ此
砂糖ニ對スル消費稅ハ、只今中上ダマシタ
通りノ狀況デアリマス、故ニ、社會政策
ノ效果ヲ擧ゲル上カラ考ヘテ見マシテモ、
又産業政策ノ上カラ考ヘテ見マシテモ、
ハ免ニ角存續セシムベキ理由ハ少シモ無い
ノデアリマス、而シテ此黑糖ノ製造業者
ハ、是等ノ生産地ノ農業者ガ附屬的ニ、即
チ砂糖ヲ砂糖ニ製造スルト云フ家庭工業
デアリマシテ、之ヲ他ノ製糖會社ノ如キモ
ノト比較シテ、是ト同一ニ取扱フベキモノ
デハナイト思ヒマス、即チ言換ヘテ見マス
レバ、黑糖ノ製造業ト云フモノハ、他ノ分
蜜糖ノ製造業ナドトハ、全然其業態ノ性質
ヲ異ニ致シテ居ルノデアリマス、故ニ
ニ、此黑糖ノ消費稅ヲ廢スルガ爲ニ、他ノ
製糖業者ニ影響ヲ及ボストカ云フヤウナ考

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(粕谷義三君) 御異議無シト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

付其ノ設定ノ當時舊來ノ慣行ニ依リテ小作料支拂ノ外當該田畑ノ地租ノ全額ヲ永小作權者ニ於テ負擔スルコトヲ約シタル田畑ニ關シ地租條例第十三條ノ二ノ規定ノ適用ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ永小作權者ヲ所有者ト看做ス

附則

本法ハ大正十五年分地租ヨリ之ヲ適用ス

〔大石大君登壇〕

○大石大君 昨今上程セラレマシタ法案ニ付キ、提案ノ趣旨ヲ辯明シタト思フ者デアリマス、此度政府ガ提案ヲ致サレマシタ稅制整理案中、地租條例十三條ノ改正ハ過般本院ヲ通過シタノデアリマス、此十三條ニ於キマシテ定メラレタル所ノ納稅ノ主體ハ、土地ニ對スル賃權者、百年以上ノ期限ヲ存スル所ノ地上權者、土地所有者、此三者ガ納稅ノ主體ト相成テ居ルノデアリマス、併ナガラ此納稅ノ主體ニアラザルモ、民法施行前ヨリノ慣習ニ依テ、實際ニ租稅ヲ負擔致シテ居リマスル所ノ永小作權者ニ對シテモ、地價二百圓以下ノ土地ニ對スル永小作權者ガ、自ラ耕作シテ居ル場合ニハ、此免稅ノ恩典ヲ與ヘタト云フ趣旨ニ外ナラヌノデアリマス、此種ノ永小作權ハ多ク高知縣ニ存在スルノデアリマス、今永小作權ノ起源沿革等ヲ申上ゲマシテ、提案ノ趣旨ヲ明確ニ致シタト思フノデアリマス（拍手）抑、高知縣ニハ土地ニ本田、新田ノ二種類アリマシテ、新田ト申シマスノハ舊山内藩主ノ執政野中兼山氏ガ、高知市ヲ中心ト致シマスル原野ヲ開墾シタ時ニ始メタノデアリマス、此開墾ノ際ニ甲者乙者合意ノ上、甲者ハ開墾スベキ素地ノ拂下ヲ爲シ、乙者ハ之ニ開墾ノ費用ト努力トヲ投ジマシテ、漸ク開墾ヲ成就シタノデアリマス、此時ニ於テ其素地ヲ拂下ダマシタ、所謂利權ニ對シテ即チ其甲者ニ對シ、年々一定ノ米額ヲ加治ナミト稱シテ、永遠ニ之ヲ償還スルコトヲ契約致シタノデアリマス、

即チ甲者ガ開墾ノ素地ヲ拂下ダタ其報償トシテ、永遠ニ約四斗乃至五斗ノ米ヲ支拂フト云フ契約ヲシテ、茲ニ永小作權ヲ設定シタノデアリマス、故ニ此實際ノ開墾ヲ致シタモノヲ稱シテ上土持若クハ之ヲ中地頭ト稱シ、其素地ヲ供給致シマシタ所ノ所謂地主ヲ底土持ト稱シテ居タノデアリマス、此底土持ハ年々若干ノ加治ナミヲ收得スル以外ニ、何等ノ權利義務ヲ有シナイノデアリマス、隨テ舊藩政中ノ公用、公課、總テ永小作人ニ於テ之ヲ負擔シ、尙且ツ微稅ノ傳令書モ悉ク上土持ノ所ニ來テ居タノデアリマス、是ガ即チ新田ニ於ケル所ノ永小作權ノ起源デアリマス（拍手）本田ト申シマスノハ長曾我部時代ニ於テ檢定ヲ致シマシタ土地デアリマス、此土地ニ對シマシテハ山内侯ハ士工商ニハ絶對ニ此本田ノ所有權ヲ許サナカッタノデアリマス、故ニ士工商ト農民トノ間ニハ此本田ノ賣買スルコトハ一切禁ゼラレタノデアリマス、是ニ於テ此新田ノ方法ニ倣フテ一定ノ米額ヲ極メテサウシテ此加治ナミヲ收得スル所ノ權利ノ賣買ガ行ハレタノデアリマス、此一定ノ加治ナミヲ收得權ヲ設定致シマシテ、農民ガ士工商ニ之ヲ賣却シタノデアリマス、是ガ即チ本田ニ於ケル所ノ永小作權ノ起源デアリマス、總テノ狀態ハ新田ト何モ變ラナイノデアリマス、所ガ明治六年地券發行ノ際ニ於キマシテ、高知縣ニハ斯ノ如キ永小作權ガアルガ故ニ、地價ノ決定ニ於キマシテモ種々ノ不便ヲ生ジ、時ノ木戸内務、大隈大藏、兩卿ヨリ此高知縣ノ永小作權地主、永小作權者ノ二者何レカニ之ヲ片付セシムベク訓令ヲ發シタノデアリマス、此訓令ニ基キマシテ地主、永小作權者雙方ノ協議ノ上ニ或ハ分地ヲナシ、或ハ土地ヲ折半シ、或ハ永小作權者ノ方ニ土地ノ所有權ヲ買收セシム、或ハ地主ノ方ニ永小作權ヲ買取ラシムル等ノ方法ニ依テ、一部ハ片付ケルコトガ出來タノデアリマス、然レドモ其間價格ノ協定ニ於テ地主小作人間ニ確執ヲ生ジ、民心ハ沸騰シ、遂ニ非常ナ不穩ノ狀態ニ陥タノデアリマス、斯ル關係ヨリ致シマシテ、

中央政府ハ其訓令ヲ取消シテ、高知縣ノ永小作權ハ從來ノ舊ニ差置クベシト云フ訓令ヲ、更ニ明治七年二月十七日ニ發セラレタノデアリマス、爾來高知縣ノ特別ノ性質ヲ有シテ居リマス所ノ永小作權ハ、其際公認ヲセラレテ今日ニ至タノデアリマス、其後明治三十一年ニ現行民法ガ施行セラレタ時デアリマス、其當時ヨリ議員ヲ爲サツテ居ル方ハ、當時ノ狀況ヲ能ク御承知デアリマセウ、即チ民法デハ永小作權ノ期限ハ五十年ヲ超過スルコトガ出來ナイ、民法施行前舊慣ニ依テ設定シタル永小作權モ、其期間五十年以上ナリト雖モ、之ヲ五十年ニ短縮スルコト云フ規定ガ出來タノデアリマス、是ニ於テ高知縣ノ永小作權者ハ非常ニ驚キマシテ、大恐慌ヲ來シ、是ガ改正ノ運動ヲ致シタノデアリマスガ、政府ハソレモ當局ヲ高知縣ニ派遣シテ、高知縣ノ此永小作權ノ事情ヲ調べマシテ、直古翌年、即チ三十二年ノ議會ニ民法施行法ノ四十七條ハ改正セラレタノデアリマス、斯ル關係ヨリ致シマシテモ、高知縣ノ永小作權ト云フモノハ、他府縣ニ存在スル所ノ永小作權ト其性質ヲ異ニスルコト云フコトガ明カデアリマス、此永小作權ヲ持テ居リマス永小作人ハ、其永小作ニ對シテ或ハ賃權、或ハ當權ヲ設定シ、或ハ之ヲ賣買シ、或ハ地目變換等ヲ致スコトモ、何等地主ニ交渉ナク勝手ニヤルコトガ出來ル慣習トナツテ居ルノデアリマス、故ニ農民ハ之ヲ祖先ヨリ襲ヒ、之ヲ子孫ニ傳ヘルノ不動財產ト致シマシテ、之ヲ所有シテ居ルコト他ノ一般所有者ト何等差置ナク、其觀念ニ於テモ何等變ル所ハナイノデアリマス、斯ル關係ニ在リマスガ故ニ、今回ノ政府ノ提案セラレタ稅制整理案中、一部ノ地租條例十三條ノ規定ニ依テ、地價二百圓以下ノ土地ヲ耕作スル一級ノ土地所有者ガ免稅セラル、ト同様、此永小作權者ニモ其免稅ノ恩典ヲ均霑セシメタイト云フノガ本案提出ノ理由デアリマス、此問題ニ付キマシテハ、稅制委員會ニ於キマシテモ色々論議ヲ盡サレ、政府ニ於テモ同意ヲスルト云フコトヲ聲明サレタル問題デアリ

マス、ドウカ十分御審議ノ上、速ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ只管希望スルノデアリマス

○作間耕逸君 本案ハ前ノ追加日程ノ議案ト同一委員ニ、併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス、而シテ前ノ日程議案ニ於キマシテ、政府提出所得稅法中改正法律案外二十七案ノ委員ト申シマシタノ、床次竹二郎君外二十三名提出、地租條例中改正法律案外三案ノ委員ト申改メテ置キマス

○議長（粕谷義三君） 作間君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長（粕谷義三君） 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長（粕谷義三君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、只今濱田國松君ヨリ成規ノ賛成ヲ得テ、松島遊廊移轉問題ニ付政務官及議員ノ行動ニ關シ調査スベシトノ緊急動議ガ提出セラレマシタ、此場合日程ヲ變更シテ之ヲ許スニ御異議アリマセヌカ

○議長（粕谷義三君） 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長（粕谷義三君） 御異議ナシト認メマス、仍テ之ヲ許スニ決シマス、提出者ノ趣旨聲明ヲ許シマス、濱田國松君

〔濱田國松君登壇〕

○濱田國松君 本員ハ茲ニ松島遊廊移轉問題ニ付政務官及議員ノ行動ニ關シ調査スベシトノ緊急動議ヲ提出致シマス、去ル二十七日梅田寛一君ニ對スル查問會ノ設定ガ建議可決セラレタノデアリマス、引續イテ只今申上ゲタヤウナ緊急動議ヲ提出致シマスルコトハ、洵ニ遺憾ノ次第デアリマス、本件ハ昨年末西區同仁會ナル名義ヲ以テマシテ、現政府ノ政務官及衆議院議員ノ一部ニ關スル醜聞ニ付天下ニ廣ク印刷物ガ配付セラレタノデアリマス、吾々ハ一片ノ印刷物ニ決シテ信ヲ置ク者デアリマセヌカラ、斯ル事ハ根據ナキ道聽塗説ニ過ギザルモノト想像ヲ致シテ居タノデアリマス、然ルニ此風評ガ段々天下ニ展開ヲサレマシタニ付キマシテ、遂ニ大阪地方裁判所檢事局ノ活動ト相成リ、是ガ爲ニ一面ニ於テハ誣告脅迫ノ嫌疑ヲ以テ、前日同仁會ノ名義ヲ以

テ印刷物ヲ配付サレタル大阪憲政會支部幹事重松又太郎氏外二名ハ、今收監サレテ居リマス、而シテ誣告脅迫ノ罪名ヲ以テ起訴ノ狀態ニ置カレテ居ルノデアリマス。此點カラ想像スレバ、斯ル醜聞ハ事實ノ存否ニ付テハ反對ノ想像ヲ下シ得ベキガ如キ形ニ在ル、言葉ヲ換ヘレバ、斯ル事ナカリシモノ、如キ想像モ、一面ニ於テハ立テ居タノデアリマス、然ルニ數日前ヨリ致シマシテ、事件ノ進行ハ方向ヲ轉回ヲ致シマシテ、大阪裁判所檢察局ハ問題ノ遊廊問題ニ付テ、政務官若クハ議員ニ贈賄シタリト目サル、所ノ大阪ニ於ケル三四ノ土地會社ノ家宅搜索ヲ致シマシテ、金錢出納簿並ニ土地問題ニ關スル多クノ往復書類ヲ押收セラレタコトハ、新聞紙ノ公表スル所ノ事實デアリマス、當ニ是ノミデハナインノデアリマシテ、是等ノ土地會社ノ重役二三ハ檢事局ノ嚴重ヲ取調ヲ受ケテ居ルト云フコトモ亦確的ノ事實ト相成テ參々ノデアリマス、而シテ吾々ノ先ニ一片ノ配布文書ナリト輕ク見テ居リマシタ事實ニ符合致シマスル所ノ世評ト云フモノガ、天下ニ信用ノアリマスル東西朝日新聞其他ニ依テ、天下ニ宣傳サル、コトニ立至タノデアリマス、事柄ノ内容ヲ提案ノ必要上簡單ニ申述ベヤウト存ズルノデアリマスガ、即チ昨年末ヨリ、各政黨並ニ各大臣、政府當局ニ非行ガアルト云フ意味ノ文書ガ、西區同仁會ノ名義ニ依テ天下ニ配布サレタノデアリマシテ、其内容ハ五ツニ分レテ居ルノデアリマス、是ハ同仁會ノ名義ニ依ル配布物ノミナラズ、東西朝日新聞ノ掲グル所モ亦之ニ符合致シテ居ルノデアリマス、事柄ヲ簡明ニ申上デマスガ、第一ハ政府筋ト土地會社トノ秘密契約ガ出來シ居レリ、第二ハ大阪萬成土地會社ハ官邊ト策應シテ、淀川ノ畔ニ四万五千坪ノ土地ヲ買收セリ、第三ハ大阪ニ於ケル城東土地會社ヲ中心トシテ、秘密解決費トシテ憲政會一統ヘ三百万圓ヲ提供シ、高井田村外一箇處ニ土地ヲ買收セリ(笑聲)イヤ是ハ書イテアルコトヲ言フノダ(ソレガ三百万圓ノ執計カ)ト呼フ者アリ

リ)第四、大阪市會議員木野某、松島遊廊貸座敷營業者、城東土地ノ重役ヲ中心トシテ、田中善立氏、俵内務政務次官、賴母木遞信次官、三木參事官等ニ多額ノ運動費ヲ提供シ、命令ノ下付ヲ待チ居レリト云フ文意ガ記載サレテ居ルノデアリマス、第五貴族院ノ青木、水野兩子ヲ誘引シテ、若槻氏相ノ變心ヲ防グ爲ニ、運動シ居レリト云フコトガ書イテアルノデアリマス、文書ノ内容、東西朝日新聞ノ掲記スル所モ、大體右五項ニ歸著スルノデアリマス、是ハ此事件ガ其後如何様ニ發展シ來タカヲ調査ヲ致シテ見マス、前刻モ變頭ニ申述ベマシタル通り、文書配布ノ責任者デアアル憲政會大阪支部幹事重松又太郎、實川時次郎、入江啓二氏三名ガ印刷物ヲ配布シタルコトガ明ニ相成リマシテ、今收監中デアリマス、而シテ是等ノ述アル所ニ基キテ、即チ是等ノ配布シタル印刷物ノ内容ニ相當ナル事實ヲ調査スル爲ニ、土地會社ノ金錢出納簿、往復文書一切ノモノガ、豐國土地會社ヨリ押收サレマシテ、其社長タル田附氏外二名ガ、昨日來大阪地方裁判所ニ於テ嚴重ナル調査ヲ受ケテ居ルト云フコトガ書イテアルノデアリマス(帳簿ノ内容ハ何ト書イテアルカ)ト呼フ者アリ)ソシテ後デ御議論ナサイ、尙ホ三月二日信用アル東西朝日新聞ノ掲載スル所ニ依レバ、是等ノ運動費ノ爲ニ使タモノハ、七十万圓ヲ撒布シタルデアルト云フ世評ガアルト掲記ヲシテ居リマス(ソシテソナコトガ問題ニナルカ)ト呼フ者アリ)ソレカラ更ニ三月二日是等ノ運動ニ基キテ、各政黨ノ運動頻ニシテ、政友會ノ岩崎勤氏、憲政會ノ箕浦勝人氏、政友本黨ノ某氏ガ、昨年以來此土地ノ儉分其他ニ付テ屢、來阪致シタコト云フコトヲ、責任アル新聞ガ書イテ居ルノデアリマス、事此ニ至リマシテハ、吾々ハ必シモ一片ノ印刷物ヲ信用スル者デハナイ、又一時ノ新聞記事ヲ必シモ信用スル者デハナイ(ソレヲ信用シテ居ルデヤナイカ)ト呼フ者アリ)昨午以來アノ印刷物ガ天下ニ廣ク公布サレ、又信用アル天下ノ各大新聞ガ、筆ヲ揃ヘテ

國民ノ前ニ之ニ關スル疑惑ノ事柄ヲ展開ヲ致シマシタ以上ハ、吾々議員タルモノハ、個人ノ品性ヨリ論ジテモ、衆議院ノ面目ヨリ論ジテモ、政黨政治ノ信用ヲ繫グ上ヨリ論ジテモ、默シテ止ムベキ事デハナイト存スルノデアリマス(拍手)何トナレバ梅田寛一君單一ノ行動ニ關スル事スラ、滿場一致ヲ以テ本院ハ查問會ヲ設ケタノデアアル、一人ノ議員ノ行動ニ關スル事スラ、吾々此途ニ出ナケレバナラナイノデアリマス、況ヤ議員兼務ノ政務官ノ數名、且ツ政黨各黨派ノ幹部ニ互テ、斯ノ如キ醜聞ガ傳播致シマシタ以上ハ、吾々ハ自己防衛ノ必要ヨリ論ジテモ、政黨政治ノ信用ヲ維持スル上ニ於テモ、此事ヲ公明正大ニ、徹底的ニ調査ヲ致シマシテ、其事ガ無ケレバ疑ヲ受ケタル氣ノ毒ナル人ニ、一身上ノ辯明ヲ爲スノ機會ヲ與ヘルト云フコトガ一ツ(拍手)又根柢のニ其事ガ無ケレバ、其人ノ信用ヲ一時棄サントシタル此新聞記事ヲシテ、却テ其人ノ名譽維持ト云フ利益ノ事ガ此ニ來ルノデアリマス(拍手)故ニ此大ナル疑惑ノ事實ガ……(此時發言スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○濱田國松君(續) 天下ノ各新聞ニ依テ國民ノ前ニ展開致シマシタ以上ハ、吾々ハ議員ノ信用ヲ維持スル必要ノ上ヨリ論ジテモ、是非梅田寛一君查問會ノ趣旨ニ倣フテ、速ニ調査スル所ノ會ヲ設ケナケレバナラナイノデアリマス、而シテ新ニ之ヲ起ス必要モナイカト信ズルノデアアル、既ニ梅田寛一君ノ行動調査ニ關スル所ノ調査委員會ガ出來テ居ルノデアリマスカラ、本員ハ幸ニシテ此緊急動議ガ可決スルコトデアリマスナラバ、梅田寛一君ノ行動調査ニ關スル十八名ノ委員ニ併セテ附託サレンコトニ、議長ノ指名ヲ御願シタイト存ズルノデアアル(拍手)以上ヲ以テマシテ提案ノ説明ノ大要ト致シマス

○議長(粕谷義三君) 質疑ノ通告ガアリマス

○田崎信藏君 只今緊急動議ノ提出者デア

ル濱田君ニ私ハ一ツ御尋ヲシタイ、緊急動議ノ中ニ、松島遊廊ニ關スル事ノ趣旨ヲ、此處デ陳述サレタノデアアル、本員モ亦本日此問題旨ノ緊急質問ヲ致シタカ、タノデアリマスガ、遺憾ナガラ少シノ手違ノ爲ニ質問趣意書ニ依テ、文書ニ依テ議事課ヘ提出シテ置イタノデアリマス、圖ラザリキ濱田君ノ緊急質問ガアリマシタノデアリマシマス(質問デヤナイ動議)ト呼フ者アリ)動議ニ對シテ、此問題ニ關シテ先程大阪西區ヨリ無名ノ「松島遊廊移轉ニ關スル政府系ノ妄動ト憲本研三角關係」ト云フ斯ウ云フ西區同仁會ト云フ無名ノ宣傳ガ「タノデアリマス、其中ニ岩崎勤君ガ最モ此運動ニ付テ早クカラ著手サレタコト云フコトガアルノデアリマス、此事ハドウナタノデアアルカ、提出者ニ御尋シテ置ク——先ツ諸君ハ聽ク雅量ヲ御持チナサイ、此事ヲ有耶無耶ニ辨テ、偶、妨害スルモノデアリマス(ソレデカラ調査シロト云フ)ト呼フ者アリ)分テ居リマス、結局ハ贊成スルノデアリマス、併ナガラ過日來此松島遊廊ニ關スル問題ハ、大阪ニ於テ最近ニ大疑獄ガ起ルヤウニ傳ヘテ居ルノデアリマス、而モ大阪朝日新聞ノ二日ノ記事ニハ斯ウ云フヤウニ出テ居ルノデアリマス、簡單ニ記事ヲ讀ンデ置キマス「土地會社ノ策動ト見ル府當局、松島遊廊移轉不許可ノ内訓問題」松島遊廊移轉不許可ノコトニ決シテ內務大臣ガ大阪府知事ニ右ノ旨ヲ内訓シテ來タト云フニ對シ、大阪府警察部長ハ未ダ其訓令ニハ接シナイガ、書面デ來ルモノトスレバ一兩日ハ遅レヤウト語ッガ、此移轉問題ニ付テハ既報ノ如ク中川知事モ移轉ノ意志ナキコトヲ屢々聲明シテ居リ、都市計畫ニ伴フ移轉候補地ナドモ絕對ニ設ケラレタコトハナイト小栗米警察部長モ聲明シテ居ル、尙松島遊廊ノ營業者中ニモ移轉ヲ欲スル者主ト、反對スル者主トガアリ、要スルニ此問題ガ屢々持上ルノハ、大阪ノ外廓ヲ圍ム大小ノ土地會社ノ策動ニ外ナラズ、是等土

地會社ハソレト有力筋ヲ介シテ、中央政
府ニ運動ヲ試ミ、其裏面ニハ種々醜事實
ガアルト噂サレテ居ル「豊國土地」ノ出現ハ
大東土地ノ身代リニ「ト云フ見出デ」豊國土
地ガ松島遊廓ノ經營地ニ移轉セシメヤウト
ノ運動ヲ起シタノハ、一昨年ノ春カラノ事
デアル、大東土地ノ社長小西松太郎氏ガ、
大東ノ經營地十八万坪ガ殆ド大阪市ニ編入
サレルコト、ナッテ、其土地ノ將來モ憂慮ス
ベキ點ガナクナッタノデ、創立以來目論ン
デ居タ遊廓移轉運動ヲ斷念スルコト、ナッ
タ「丁度其時同社ノ重役デアッタ故小久保信
太郎氏ハ、大東ノ遊廓運動斷念ト共ニ、是
非之ニ代ル候補經營地ヲ手ニ入レヤウト物
色シタ結果、前記田附政次郎氏經營ノ、豊
國土地ガ周圍ノ狀況、極メテ移轉敷地ニハ
有望ナノデ謂ハマ大東ノ計畫ノ乘取策ノ意
味デ、大東ヲ去リ豊國土地ノ重役ニナッ
タ、斯クテ氏ハ社長田附氏ニ遊廓移轉ノ可能ヲ
説キ、是ガ運動ニハ政黨筋ノ有力者ヲ通ジ
ルニ限リ種々打合セタ末、先ヅ政友會ノ
岩崎勲氏ニ是ガ運動方ヲ持込シタモノデア
ル、其後トモ一黨一派タケヘノ運動デハ、
目的ヲ遂行スルコトガ覺束ナイト云フ不安
ヲ感ジ、當時三派聯立内閣デアッタ關係カ
ラ、更ニ手ヲ伸バシ、政友會政友會各方面
嚙込ミニ努メタモノデアアル、此方法ハ案外
效ヲ奏シテ、間モナク政友會岩崎勲氏ノ去
來ハ多クナリ、憲政會ノ箕浦勝人氏モ、昨
年五月實地檢分ニ來阪シタコトガアルト云
ヒ、間モナク小久保氏ガ死亡シタノデ、其
後ハ專ラ重役中村萬次郎氏ガ、小久保氏ニ
代テ政黨方面ヘノ運動ヲ續ケテ來タ、各方
面ヘ運動資金トシテバラ撒カレタ金ハ、大
部分田附政次郎氏ノ手カラ出テ居ルト噂サ
レ、一昨年夏カラ今日マデニ各政黨、利權
屋等ニ撒カレタ額ハ、實ニ七十餘万圓ノ巨
額ニ達スルト稱サレテ居ル」是ガ昨晩ノ大
阪朝日新聞ノ夕刊ノ記載ノ記事デアリマ
ス、私ノ提案者ニ御導致シマスノハ、此間
題ニ對シテ查問機關ニ於テ查問ヲセヨト云
フコトデアリマス、私共ハ之ニ對シテハ反
對ハ致サヌ、固ヨリ贊成スルノデアアル、唯、

政友會ノ諸公ニ御尋シタイノハ、此三百萬
圓ノ問題ニ關聯シテ——此問題ニ付テ政友
會ガ御提議ニナル前ニ、自ラ幹部諸公ガ自
分ニ問ウテ、此問題ヲ解決スルコトヲ考ヘ
ナクテハナラヌト思フ（此時發言スル者多
シ）
○議長（粕谷義三君） 靜肅ニ願ヒマス
○田崎信藏君（續） スウ云フ問題ヲ出サレ
タト云フコトハ、本院ノ最モ不信用ノ一ツ
デアリマス、只今此議場ニ現ハレル以前ニ
於テ、政友會ノ砂田君ノ如キハ、私ノ質問
ニ對シテ同意ノ意ヲ表サレテ居タノデア
ル、併ナガラ是ハ私ガ今朝此意書ヲ出シ
タ後ニ、急ニ思付カレタ問題デアルト私ハ
思フ、實ニ意外ノ事デアアル、笑止千萬デア
ル、次ニ政府ノ當局ニ御尋シタイノハ……
（此時發言スル者多シ）
○議長（粕谷義三君） 靜肅ニ願ヒマス
○田崎信藏君（續） 之ヲ彌次ルコト云フコト
ハ何事デ、政友會ノ諸公ハ自己ノ良心ニ問
ヘバ、サウ云フ彌次ルコトガ出來ルカ（拍
手）此松島遊廓ノ問題ノ根本ニ於キマシテ
ハドウ云フ結果デアッタカ、私共ハ結果ヲ知
ラヌカラ、不審ニ思フテ居リマスアレドモ、
此問題ノ因テ起リマシタル所ノ原因ハ、輒
近ノ都市ガ種々ナル施設ヲ致シマスル結
果、土地タケハ今日物價ノ騰貴ノ上ニ於テ
モ一番騰貴致シテ居ルノデアリマス、此所
ニ政商華ノ人々ガ著眼スル爲ニ——輒近ノ
大都市ニ於テ交通機關其他種々ナル施設ヲ
致シマスル其原因ニ依ッテ、種々ナル思惑ヲ
致シマスルコトガ今日ノヤウナ問題ヲ起シ
タ第一ノ理由ナノデアリマス、其理由トナ
ルベキ所ノ原因ハ何ニ依ッテ起リタカト申シ
マス、最近ノ地方ノ自治團體ニマデ、政
黨ノ勢力ヲ伸バサントシテ、利權ヲ種々漁
リマス結果、大阪市ノ如キハ殆ド此利權屋
ノ手先ニナル所ノ名譽職ガ多クナッテ、是ガ
中央ノ或種ノ力ヲ持テ居ル者ニ絲ヲ引張
ラシタト云フコトハ、此新聞記事ノ第一ニ
現レテ居ル所ノ小西松太郎氏ノ如キハ、恐
ラク政友會ノ諸公ノ手先デアルト私ハ確信
シテ居ル（拍手）是ガ一番多クノ罪惡ヲ致シ

マシタ（此時發言スル者多シ）
○議長（粕谷義三君） 靜肅ニ願ヒマス
○田崎信藏君（續） 此問題ノ由ッテ起ル所
ノ原因ハ何デアアルカト申シマスレバ、此政
黨政友會ノ勢力ガ地方ニ及ンダ結果、地方ニ
非常ナ罪惡ヲ爲シタノデアリマス、此問題
ノ由ッテ起ル原因ハ、即チ政黨ガ地方ノ自
治團體ノ或種ノ權力ヲ利用シタト云フコト
ガ、今日ノ原因ニナッタノデアリマス（拍
手）政黨政治ト云フモノガ實現サレテ、今
日國民ノ信賴ハ政黨ニアルベキ筈デアアルノ
デアリマス、然ルニ遺憾ナガラ本年ノ議會
ニ現ハレマシタル所ノ、緊急質問ナルモノ
ハ、總テ利權ニ關スル所ノ罪惡ノ別狀デア
ルノデアリマス、是レ即チ國家ニ取ッテハ
由々敷問題デアアルノデアリマス、斯ウ云フ
結果トナルノハ政黨政治ノ弊ガ、如何ニ全
國ニ彌漫シテ居ルカト云フコトガ、偶、此
問題ニ依ッテ分、タノデアリマス、私ハ政府
ニ問クノデス、ガカラ諸君ハ默、テ居レバ
宜イ、近時我國ニ於キマシテ、思想ノ惡化シ
マスルノハ、一ニ此都會ニ集中スルコト云フ
コトガ、歐洲戰爭以前ニ於ケル我國ノ工業
ヲ盛ニシタ結果デアリマス、然ルニ一朝歐
洲戰爭ガ濟ミマスルト、都會ハ非常ナ衰微
ヲ來シマシテ、其衰微ヲ來シマス同時
ニ、我國ノ政治家ハ何ヲ唱ヘタカト申シマ
スレバ、産業立國ヲ唱ヘタカト申シマス、
産業立國ヲ行ハントスルニハ、ドウシテモ
資本ヲ要スルノデアアル、工業ヲ盛ニスルニ
ハ資本ヲ要スル、其資本ヲ固定スルモノハ
何デアアルカト云フト、工場ノ經營スルニハ
數地ヲ要スルノデアアル、其數地ト云フモノ
ニ對シテ資本家ガ思惑ヲ致シマシテ、此思
惑ヲ致シマシタ趨勢ガ我國ニ於テ都市計畫
ト云フモノヲ大正八年ニ初メテ實現シタノ
デアリマス、此都市計畫ヲ行フト同時ニ、
市ガ町村編入ト云フ計畫ヲ致シマシテ、何
レノ都會ニ於テモ市ト郡トノ境界ニ於テ
ハ、亞米利加デモ、獨逸デモ、何レノ國デ
モ市ニ隔タ所ノ都市ト云フモノハ地價ガ
安カッタノデアアル、然ルニ都市計畫ト云フ
モノヲ行、テ以來、殆ド市中ト同ジ値段ニ

ナッテ來タノデアリマス、此結果金ヲ多ク
持、テ居ル所ノ資本家ガ土地ニ思惑ヲ致シ
マシタ結果、此土地會社ト云フモノガ非常
ニ殖エテ參ッタノデアリマス、此土地會社
ガ殖エテ參リマスルト、茲ニ土地會社ガ利
益ヲ得ントスルガ爲ニ、其土地ニ對シテハ
特別ナル原因ヲ作、サウシテ好イ結果
ヲ得ヤウト云フ爲ニ、此土地ト云フモノニ
對シテ、多クノ資本家ガ金ヲ投ジタノデア
リマス、此結果政黨者流ノ利權ヲ漁ル人々
ガ、斯ウ云フコトニ對シテハ早クカラ著眼
致シマシテ、地方ニ疑獄事件ノ起ルノハ、
必ズ此土地ノ問題ト云フモノガ介在スルノ
デアリマス、此土地問題ノ介在致シマス結
果（何ヲ質問スルカト）呼フ者アリ）默レ
（此時發言スル者多シ）
○議長（粕谷義三君） 靜肅ニ願ヒマス
○田崎信藏君（續） 此土地ノ思惑ト云フコ
トガ、我國ノ産業ニ非常ナ障礙ヲ來シテ
居ルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌノデ
アリマス、固定スル所ノ資本ト云フモノ
ハ、全部土地ニ入レナケレバナラヌト云フ
ヤウナコトハ、我國ノ産業政策ヲ行フ上ニ
於テ最モ注意シナケレバナラヌノデアリマ
ス、然ルニ過去ノ政黨ノ最モ多數ヲ占メテ
居タ所ノ政友會ノ計畫ハ、此計畫ニ對シ
テ資本家ノ擁護ノ爲ニ有ユル手段ヲ取ッテ
來ラレタト云フコトハ、過去ノ事實ニ依ッ
テ明カデアアルノデアリマス、（拍手）仍テ私ハ
今日ノ如キ政黨ノ弊ガ地方ニ及ンダ結果、
國民ハ衆議院ヲ怨府ノ如ク呪フノデアリマ
ス、諸君ハ院內ニ於テ私共ノ演說ニ對シテ
妨害シテ居ルケレドモ、院外ニ出ルオラ
バ、國民ハ何ト云フテ居ル、多年閑族諸公
ノ政治ニ嫌ナイデ、漸ク政黨政治ノ實現
ヲ見レバ、政黨ハ國民ノ信賴ヲ裏切ッテ以
テ、藩閥閥族以上ノ罪惡ヲ爲スト云フコト
ハ、院外ノ聲デアアルノデアリマス、斯ウ云
フ時ニ於テ政黨政治ヲ以テ自ラ任ズル所ノ
憲政會内閣、即チ憲政會ノ内閣ト云ハレテ
居ル所ノ現内閣ニ於キマシテ——政黨内閣
ト云ハレテ居ル現内閣ニ於キマシテ、此政
黨ノ幹部ノ多クガ利權ト云フモノニ對シテ

ナ計畫デ、一地方長官モ、ソレカラ市長
アル大阪ノ計畫ト云フモノハ、非常ニ大キ
シテ、裁判官モ買収シテシテマフト云フ計畫ヲ
モテ居ルト云フコトヲ聞イテ居ルノデアリ
マス、斯ウ云フ事ガ行ハレタナラバ、日本
ノ政治ト云フモノハ全ク情實ト惡事ニ依
テ終始スルト云フコトニナルノデアリマ
ス、政府當局ハ今度ノ檢事局ノ活動ニ付テ
モ、間ク所ニ依レバ中川知事ハ早クカラ内
務當局ニ向テ、移轉ハ絕對反對スベキデ
アルト云フコトヲ聲明セヨト迫テ來タケ
レドモ、内務省ノ手心デ之ヲ捨テ、置イテ、

○加藤鯛一君　只今御提案ニナリマシタ濱田君ニ、私ハ提案ノ趣旨ニ付キ、今後ノ爲ニ一應御伺フ致シテ置キタイ思ヒマス、此提案ノ趣旨ソレ自體ニ付キマシテハ、洵ニ議員ノ人格ノ爲ニ、議會ノ品位面目ノ爲ニ機會ヲ得タモノデアルト云フコトヲ信ズル者デアリマス、併ナガラ能ク吾々ハ將來ノ爲ニ此際考ヘテ置カナケレバナラスト思フノデアリマス、先般ノ梅田寛一君ノ行動ヲ調査サレルト云フコトハ、自ラ調査スベキ理由ガ洵ニ明瞭デアッタノデアリマス、

フノデアリマスガ、之ニ對シマシテ、濱田君ハドウ云フ考ヲ御持チニナルカト云フコト、モウ一ツハ此一ツニツノ新聞ノ記事ニ依テ、將來一々此調査會ヲ設ケルト云フコトニナリマスルナラバ、此新聞ノ掲載スルコトハ或種ノ方法ヲ講ジマスルナラバ、一、二ノ新聞ニサウ云フ問題ヲ掲載サレルモ、容易ニ出來ルト私ハ思フノデアリマスガ、今後斯ウ云フ問題ノ起ル度毎ニ、政友會ノ諸公ハ調査會ヲ開イテ、其實ヲ調査シヤウト云フ考デアルカドウカト云フコトヲ、私ハ御伺ヲ致シテ置キタイノデアル、

信賴セザルコトニナル嫌ガナイカト云フ、此二點ガ御要旨デアルヤウニ思フ、吾々ハ提案理由ノ初メニ於テ其事ガ申述ベテアル、吾々ハ一片ノ印刷物ヲ必シモ信用シナイ、一モノ新聞記事ヲ必シモ信用シナイ、然レドモ國民ノ多數、天下民衆ノ多クガ此疑惑ヲ懷イタ以上ハ、疑惑ヲ解クガ爲ニ調査ヲシヤウト云フノデアル(拍手)一片ノ新聞紙ヲ信ジ、一片ノ印刷物ヲ信ジテ事實ヲ肯定シヤウト云フノデハナイ、事實ヲ肯定セント欲スルモノデアルナラバ、加藤君ノ質問ガ有意味ニナルノデアル、當院ニ於テ

ハ古キ前年ニ於テ、即チ日露戰役當時ニ於
キマシテ、秋山定輔君ノ查問會ト云フモノ
ガ開カレタルコトハ、顯著ナル實例デア
ル、アノ當時ニ於テハ、新聞ニモ左様ノコトハ
明ニ載ラナカッタノデ、二三四方ノ鉛筆書
ノ投書ト云フモノガ衆議院ニ舞込シタト云
フコトガ動機トナッテ、無名ノ投書ヲ基礎ト
シテ、アノ查問會ガ開カレタト云フ前例ガ
アルノデア
ル、此顯著ナル前例ト比較致シ
マシタナラバ、天下ノ最大信用ヲ負ウテ居
ル多クノ新聞紙ガ、責任ヲ以テ此程度マデ
記事ヲ掲ゲテ居リマス以上ハ、秋山君當
時ノ查問材料ト比較致シマシタナラバ、
雲壤ノ差ガ此間ニ在ルノデアリマス(拍手)
加藤君ガ立法院ニ於ケル既往ノ前例ヲ悉ク
無視セラレ、之ヲ惡例ト罵ラレル勇氣ガア
ルナラバ、格別デア
ルガ、吾々ハ深ク前例ニ
鑑ミテ者デア
リマス、且又吾々ノ動議ノ趣
意ヲ御開達ヒナキ事ヲ希望スル、前例列舉
致シマシタル人名ノ中ニハ、吾々同黨派デ
アリ、個人トシテハ親友デア
ル岩崎君ノ名
マデ吾々ハ掲ゲテ居ルノデア
ル、敢テ一黨
一派ノ利害ノ爲ニ、黨派ノ意味ヲ以テ此
調査會ヲ設置センコトヲ要求シテ居ルノデ
ハナ
イ、斯様ナ譯デア
リマス、ソレカラ第
二ニ、司法裁判所ガ活動ヲ始メテ居ル場合
ニ於テ、立法院自カラ動クコトハ、司法裁
判所ヲ信賴セザル結果ヲ生ズルト言ハレル
ノデア
ルガ、是ハ意外ナル御尋デア
ルト私
共ハ思フ、衆議院ハ立法院トシテ、議員並
ニ此院全體ノ帝國議會ノ信用ヲ維持スルニ
付テハ、多クノ規則モアレバ多クノ前例モ
アルノデア
リマス、自ラ自動的ノ働ヲ致シ
テ居ルノデア
リマス、秋山定輔君ノ如キニ
於テモ、日露戰爭ノ當時デア
リマスカラ、
「クロバトキン」カラ金ヲ貰フタカ、敵國カ
ラ收賄ヲシタト云ヘバ、是ハ國交ニ關ス
ル犯罪トシテ、司法裁判所ガ自由ニ動キ得
ル顯著ナル事件デア
ル、重罪ナノデア
ル、
此場合ニ於テハ、當院トシテ獨立ノ行動ヲ
執ツノデア
リマス、斯様ナ譯デア
リマシ
テ、司法裁判所ガ著手シ居ルガ故ニ、立法
府自ラ自己ノコトヲ處理シ得ナイト云フコ

トハ、議員自ラ議員ヲ侮辱スルモノデア
ル(拍手)衆議院自ラ衆議院ヲ輕シズル譯デア
リマス(拍手)司法部ハ司法部デ自由行動ヲ
爲サルガ宜シ、吾々國民ヲ代表スル立法
府ハ、立法院ノ信用ノ爲ニ、權威ノ爲ニ、
單獨ナル所ノ有意義ノ行動ヲ執リタイト云
フノガ本案動議ノ趣意デア
リマス、此段御
答ヲ申上ゲマス(拍手)
○加藤一君 濱田君ニ此席カラ簡單ニ御
尋致シマス、將來ノ問題ニ付キマシテ……
「登壇々々」自分ノ席デヤレ」ト呼フ
者アリ
○加藤一君 只今濱田君ニ御尋ヲ致シマ
シタ要點デ、御答ニナッテ居ラヌ所ガアリ
マス、即チ斯ウ云フ問題ガ將來爆發シタル
場合ニハ、政友會ノ諸公ハ必ズ斯ウ云フ御
提案ヲ爲サル御考ガアルカドウカト云フ
コトヲ御尋シタノデア
ル、ソレニ對シテ御
答ガナカッタノデア
リマス、若シ將來斯ウ
云フ新聞ノ記事ノ如キモノハ、少シ考ヲ用
ヒテ或種ノ行動ヲ取レバ、何時デモ新聞紙
ニ掲載センヲ得ルコトハ容易デア
ルト信
ズ、サウ云フ場合ニ一々政友會ノ諸公ハ、
斯ウ云フ御提案ヲ爲サルカドウカト云フコ
トヲ、政友會ヲ代表シテ責任アル御答辯ヲ
後日ノ爲ニ伺フテ置キタイノデア
リマス
○濱田國松君 簡單デア
リマスカラ此席カ
ラ御答致シマス(「登壇々々」ト呼ヒ發言ス
ル者多シ)
○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス
○濱田國松君(續) 吾々ハ衆議院トシテ調
査ヲ爲スノ緊急動議ヲ提出致シテ居ルノデ
アリマス、政友會ノ動議ヲ提テ主張シテ居
ルノデア
ハアリマセヌ、政友會トシテ將來ド
ウスルカト云フコトハ、公正ナル衆議院ノ
議場ニ於テハ御答ヲスル必要ハナ
イノデア
リマス、(拍手)折角ノコトデア
リマスカラ、
尙ホ一言附加ヘル、後來ニ於ケル政友會ガ
斯ル場合ニ處スベキ意見ヲ御問ニナ
リマス
ナラバ、吾々ハ反問致シマス、憲政會ノ方
ハ後來ドウ云フ御答ヲ以テナ
リマス(「三百
ヲ言フナ」ト呼フ者アリ拍手)

○政府委員(俵孫一君) 先ニ田崎君ヨリノ
御質問ガアリマシタガ、總理大臣ニ對スル
御質問ハ、是ハ追テ總理大臣ガ適當ノ機會
ニ御述ニナルダラウト思ヒマスカラ私ハ致
シマセヌ、唯、大阪府知事ガ此遊廊移轉ニ
對スル問題ハ、早クヨリイカヌト云フコト
ヲ言フテ居
タノデア
ルガ、内務省ハ或ル何
等カノ理由ニ依ッテ、之ヲ阻止シテ發表致
サヌト云フコトノ御意見ガア
タノデア
リ
マス、是ハ内務省トシテハ、當然之ニ對ス
ル内務省自身ノコトヲ能ク説明シテ置カ
ナ
レバナラヌト思フノデア
リマス、私ノ知
テ居ル範圍ニ於キマシテ、此問題ガ如何ニ
裏面ニ於テアルカト云フコトハ能ク知リマ
セヌガ、併ナガラ松島遊廊地移轉問題ハ、
成程以前ヨリ起
タヤニ私モ間イテ居
ル、
閣ノ當時ヨリ起
タヤニ私モ間イテ居
ル、
併シ此所謂松島遊廊移轉問題ハ、唯、單
一昨年ノ協調内閣ヨリ起
タノデア
リ、
モト根柢ガ深イカモ知レヌ、併ナガラ其
裏面ニ如何ナル事ガア
タカ私ハ知リマ
セヌガ、唯、内務省ノ關係スル範圍ニ於キマ
シテハ、早クヨリ現大臣ハ、此松島遊廊ノ
移轉ハ斷ジテイカナイト云フコトヲ言明シテ居
ルノデア
ル、之ヲ發表セヌカライカヌト仰
レバ發表致サヌノデア
ル、即チ大阪府知事
ニ對シテハ、現内務大臣ハ早クカラ此問題
ニ對シテ苟モ手ヲ觸ルヘカラズト云フコト
ヲ言明シテ居
ルノデア
ル(拍手)即チ大阪府
知事モ同一ナ意見ヲ以テ、此問題ニ對シ
テ處分シテ居
ル等デア
ルノデア
ル、此問題
ヨリシテ、或ハ裏面ニ各政黨ノ幹部ガ如何
ナル關係ガア
タト云フコトニ付テハ、是
ハ自ラ判明スル機會ニ判明スルデア
リマ
セウ、併ナガラ内務省トシテハ、最初カラ
此問題ニ對シテ決定シタ意見ガアルト云フ
コトヲ、一言申シテ置クノデア
リマス
○松田源治君 吾々ハ斯ル動議ヲ提出サ
レタルコトヲ頗ル遺憾トスル者デア
ル、併シ
緊急動議ガ此議會ニ提出サ
レタル以上、此儘
曖昧ニスルコトハイカヌ事デア
ルト考ヘル

ノデア
リマス、故ニ其眞偽ヲ明ニ致シマシ
テ、議院ノ神聖ヲ維持シ、議院ノ權威ヲ維
持スル必要ガアルト考ヘルノデア
リマス
(拍手)又調査サ
レル議員諸君ガ此眞偽ヲ明
ニスルト云フコトハ、調査サ
レル議員諸君
モ亦名譽ヲ維持スル所以デア
ラウト思ヒマ
ス、故ニ斯ル問題ガ出タル以上ハ、遺憾ナ
ガ
ラ事實ヲ調査シテ查問會ヲ開クト云フ、濱
口君ノ動議ニハ賛成致シマス(拍手)
○議長(粕谷義三君) 只今身上ニ關スル辯
明ヲ致シタイト云フ通告ガアリマス、順次
之ヲ許シマス——岩崎勳君
○岩崎勳君 只今身上ニ關シテ疑惑ヲ惹起
スル嫌アル記事ガ、或ル新聞紙及印刷物ニ掲
載セラレマシタコトハ、私ノ最も遺憾トス
ル所デア
リマス、而シテ茲ニ院議ヲ以テ本
件ヲ調査委員會ニ付シ、事實ヲ明瞭ニスル
ノ機會ヲ與ヘラレマシタコトハ、寧ろ私ノ
幸トスル所デア
リマス、仍テ一言辯明ヲ致
シテ置キマス、要スルニ本件ニ關シマシテ、
利害ヲ異ニスル土地會社ノ當事者ガ、偶
其利害ヲ同ジウシ得ベキヤウノ協定ガ成立
致シマシタニ付キマシテ、私ノ辯護士事務
所ニ是ガ民事契約ノ締結方ヲ依頼セラレマ
シタ故ニ、事務所ニ於キマシテハ天野辯護
士等ヲシテ其事務ヲ處理セシメタコトガア
リマス
○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス
○岩崎勳君(續) 此以外ニ於キマシテ、私
ノ一身ニ關スル流言浮説ハ、斷ジテ其事實
ニ非ザルコトヲ言明致シマス(拍手)
○議長(粕谷義三君) 田中善立君
(田中善立君登壇)
○田中善立君 近時思想ノ惡化ニ伴レマシ
テ、世ノ風潮モ甚シク惡化致シマシテ、濫
ニ事實ヲ捏造シテ、虛偽ノ宣傳ヲ爲シ、以
テ他人ノ名譽ヲ毀損セントスル風ノ盛ナル
コトハ、洵ニ忌ハシキ事柄デア
ルノデア
リ
マス、只今濱田國松君ガ御提案ニナ
リマシ
タ動議ノ中ニ指示セラレマシタ、大阪同仁
會ナルモノ、名ヲ以テ配布セラレマシタ中

ハ古キ前年ニ於テ、即チ日露戰役當時ニ於
キマシテ、秋山定輔君ノ查問會ト云フモノ
ガ開カレタルコトハ、顯著ナル實例デア
ル、アノ當時ニ於テハ、新聞ニモ左様ノコトハ
明ニ載ラナカッタノデ、二三四方ノ鉛筆書
ノ投書ト云フモノガ衆議院ニ舞込シタト云
フコトガ動機トナッテ、無名ノ投書ヲ基礎ト
シテ、アノ查問會ガ開カレタト云フ前例ガ
アルノデア
ル、此顯著ナル前例ト比較致シ
マシタナラバ、天下ノ最大信用ヲ負ウテ居
ル多クノ新聞紙ガ、責任ヲ以テ此程度マデ
記事ヲ掲ゲテ居リマス以上ハ、秋山君當
時ノ查問材料ト比較致シマシタナラバ、
雲壤ノ差ガ此間ニ在ルノデアリマス(拍手)
加藤君ガ立法院ニ於ケル既往ノ前例ヲ悉ク
無視セラレ、之ヲ惡例ト罵ラレル勇氣ガア
ルナラバ、格別デア
ルガ、吾々ハ深ク前例ニ
鑑ミテ者デア
リマス、且又吾々ノ動議ノ趣
意ヲ御開達ヒナキ事ヲ希望スル、前例列舉
致シマシタル人名ノ中ニハ、吾々同黨派デ
アリ、個人トシテハ親友デア
ル岩崎君ノ名
マデ吾々ハ掲ゲテ居ルノデア
ル、敢テ一黨
一派ノ利害ノ爲ニ、黨派ノ意味ヲ以テ此
調査會ヲ設置センコトヲ要求シテ居ルノデ
ハナ
イ、斯様ナ譯デア
リマス、ソレカラ第
二ニ、司法裁判所ガ活動ヲ始メテ居ル場合
ニ於テ、立法院自カラ動クコトハ、司法裁
判所ヲ信賴セザル結果ヲ生ズルト言ハレル
ノデア
ルガ、是ハ意外ナル御尋デア
ルト私
共ハ思フ、衆議院ハ立法院トシテ、議員並
ニ此院全體ノ帝國議會ノ信用ヲ維持スルニ
付テハ、多クノ規則モアレバ多クノ前例モ
アルノデア
リマス、自ラ自動的ノ働ヲ致シ
テ居ルノデア
リマス、秋山定輔君ノ如キニ
於テモ、日露戰爭ノ當時デア
リマスカラ、
「クロバトキン」カラ金ヲ貰フタカ、敵國カ
ラ收賄ヲシタト云ヘバ、是ハ國交ニ關ス
ル犯罪トシテ、司法裁判所ガ自由ニ動キ得
ル顯著ナル事件デア
ル、重罪ナノデア
ル、
此場合ニ於テハ、當院トシテ獨立ノ行動ヲ
執ツノデア
リマス、斯様ナ譯デア
リマシ
テ、司法裁判所ガ著手シ居ルガ故ニ、立法
府自ラ自己ノコトヲ處理シ得ナイト云フコ

トハ、議員自ラ議員ヲ侮辱スルモノデア
ル(拍手)衆議院自ラ衆議院ヲ輕シズル譯デア
リマス(拍手)司法部ハ司法部デ自由行動ヲ
爲サルガ宜シ、吾々國民ヲ代表スル立法
府ハ、立法院ノ信用ノ爲ニ、權威ノ爲ニ、
單獨ナル所ノ有意義ノ行動ヲ執リタイト云
フノガ本案動議ノ趣意デア
リマス、此段御
答ヲ申上ゲマス(拍手)
○加藤一君 濱田君ニ此席カラ簡單ニ御
尋致シマス、將來ノ問題ニ付キマシテ……
「登壇々々」自分ノ席デヤレ」ト呼フ
者アリ
○加藤一君 只今濱田君ニ御尋ヲ致シマ
シタ要點デ、御答ニナッテ居ラヌ所ガアリ
マス、即チ斯ウ云フ問題ガ將來爆發シタル
場合ニハ、政友會ノ諸公ハ必ズ斯ウ云フ御
提案ヲ爲サル御考ガアルカドウカト云フ
コトヲ御尋シタノデア
ル、ソレニ對シテ御
答ガナカッタノデア
リマス、若シ將來斯ウ
云フ新聞ノ記事ノ如キモノハ、少シ考ヲ用
ヒテ或種ノ行動ヲ取レバ、何時デモ新聞紙
ニ掲載センヲ得ルコトハ容易デア
ルト信
ズ、サウ云フ場合ニ一々政友會ノ諸公ハ、
斯ウ云フ御提案ヲ爲サルカドウカト云フコ
トヲ、政友會ヲ代表シテ責任アル御答辯ヲ
後日ノ爲ニ伺フテ置キタイノデア
リマス
○濱田國松君 簡單デア
リマスカラ此席カ
ラ御答致シマス(「登壇々々」ト呼ヒ發言ス
ル者多シ)
○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス
○濱田國松君(續) 吾々ハ衆議院トシテ調
査ヲ爲スノ緊急動議ヲ提出致シテ居ルノデ
アリマス、政友會ノ動議ヲ提テ主張シテ居
ルノデア
ハアリマセヌ、政友會トシテ將來ド
ウスルカト云フコトハ、公正ナル衆議院ノ
議場ニ於テハ御答ヲスル必要ハナ
イノデア
リマス、(拍手)折角ノコトデア
リマスカラ、
尙ホ一言附加ヘル、後來ニ於ケル政友會ガ
斯ル場合ニ處スベキ意見ヲ御問ニナ
リマス
ナラバ、吾々ハ反問致シマス、憲政會ノ方
ハ後來ドウ云フ御答ヲ以テナ
リマス(「三百
ヲ言フナ」ト呼フ者アリ拍手)

○政府委員(俵孫一君) 先ニ田崎君ヨリノ
御質問ガアリマシタガ、總理大臣ニ對スル
御質問ハ、是ハ追テ總理大臣ガ適當ノ機會
ニ御述ニナルダラウト思ヒマスカラ私ハ致
シマセヌ、唯、大阪府知事ガ此遊廊移轉ニ
對スル問題ハ、早クヨリイカヌト云フコト
ヲ言フテ居
タノデア
ルガ、内務省ハ或ル何
等カノ理由ニ依ッテ、之ヲ阻止シテ發表致
サヌト云フコトノ御意見ガア
タノデア
リ
マス、是ハ内務省トシテハ、當然之ニ對ス
ル内務省自身ノコトヲ能ク説明シテ置カ
ナ
レバナラヌト思フノデア
リマス、私ノ知
テ居ル範圍ニ於キマシテ、此問題ガ如何ニ
裏面ニ於テアルカト云フコトハ能ク知リマ
セヌガ、併ナガラ松島遊廊地移轉問題ハ、
成程以前ヨリ起
タヤニ私モ間イテ居
ル、
閣ノ當時ヨリ起
タヤニ私モ間イテ居
ル、
併シ此所謂松島遊廊移轉問題ハ、唯、單
一昨年ノ協調内閣ヨリ起
タノデア
リ、
モト根柢ガ深イカモ知レヌ、併ナガラ其
裏面ニ如何ナル事ガア
タカ私ハ知リマ
セヌガ、唯、内務省ノ關係スル範圍ニ於キマ
シテハ、早クヨリ現大臣ハ、此松島遊廊ノ
移轉ハ斷ジテイカナイト云フコトヲ言明シテ居
ルノデア
ル、之ヲ發表セヌカライカヌト仰
レバ發表致サヌノデア
ル、即チ大阪府知事
ニ對シテハ、現内務大臣ハ早クカラ此問題
ニ對シテ苟モ手ヲ觸ルヘカラズト云フコト
ヲ言明シテ居
ルノデア
ル(拍手)即チ大阪府
知事モ同一ナ意見ヲ以テ、此問題ニ對シ
テ處分シテ居
ル等デア
ルノデア
ル、此問題
ヨリシテ、或ハ裏面ニ各政黨ノ幹部ガ如何
ナル關係ガア
タト云フコトニ付テハ、是
ハ自ラ判明スル機會ニ判明スルデア
リマ
セウ、併ナガラ内務省トシテハ、最初カラ
此問題ニ對シテ決定シタ意見ガアルト云フ
コトヲ、一言申シテ置クノデア
リマス
○松田源治君 吾々ハ斯ル動議ヲ提出サ
レタルコトヲ頗ル遺憾トスル者デア
ル、併シ
緊急動議ガ此議會ニ提出サ
レタル以上、此儘
曖昧ニスルコトハイカヌ事デア
ルト考ヘル

ノデア
リマス、故ニ其眞偽ヲ明ニ致シマシ
テ、議院ノ神聖ヲ維持シ、議院ノ權威ヲ維
持スル必要ガアルト考ヘルノデア
リマス
(拍手)又調査サ
レル議員諸君ガ此眞偽ヲ明
ニスルト云フコトハ、調査サ
レル議員諸君
モ亦名譽ヲ維持スル所以デア
ラウト思ヒマ
ス、故ニ斯ル問題ガ出タル以上ハ、遺憾ナ
ガ
ラ事實ヲ調査シテ查問會ヲ開クト云フ、濱
口君ノ動議ニハ賛成致シマス(拍手)
○議長(粕谷義三君) 只今身上ニ關スル辯
明ヲ致シタイト云フ通告ガアリマス、順次
之ヲ許シマス——岩崎勳君
○岩崎勳君 只今身上ニ關シテ疑惑ヲ惹起
スル嫌アル記事ガ、或ル新聞紙及印刷物ニ掲
載セラレマシタコトハ、私ノ最も遺憾トス
ル所デア
リマス、而シテ茲ニ院議ヲ以テ本
件ヲ調査委員會ニ付シ、事實ヲ明瞭ニスル
ノ機會ヲ與ヘラレマシタコトハ、寧ろ私ノ
幸トスル所デア
リマス、仍テ一言辯明ヲ致
シテ置キマス、要スルニ本件ニ關シマシテ、
利害ヲ異ニスル土地會社ノ當事者ガ、偶
其利害ヲ同ジウシ得ベキヤウノ協定ガ成立
致シマシタニ付キマシテ、私ノ辯護士事務
所ニ是ガ民事契約ノ締結方ヲ依頼セラレマ
シタ故ニ、事務所ニ於キマシテハ天野辯護
士等ヲシテ其事務ヲ處理セシメタコトガア
リマス
○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス
○岩崎勳君(續) 此以外ニ於キマシテ、私
ノ一身ニ關スル流言浮説ハ、斷ジテ其事實
ニ非ザルコトヲ言明致シマス(拍手)
○議長(粕谷義三君) 田中善立君
(田中善立君登壇)
○田中善立君 近時思想ノ惡化ニ伴レマシ
テ、世ノ風潮モ甚シク惡化致シマシテ、濫
ニ事實ヲ捏造シテ、虛偽ノ宣傳ヲ爲シ、以
テ他人ノ名譽ヲ毀損セントスル風ノ盛ナル
コトハ、洵ニ忌ハシキ事柄デア
ルノデア
リ
マス、只今濱田國松君ガ御提案ニナ
リマシ
タ動議ノ中ニ指示セラレマシタ、大阪同仁
會ナルモノ、名ヲ以テ配布セラレマシタ中

ニ、吾々ノ名前ヲ載テ居リマシタガ、是ハ全ク虚偽ノ事柄デアルノデアリマス、即チ其事ハ既ニ明カト相成リマシテ、此虚偽ノ宣傳ヲナシタ重松、實川ノ兩人ハ、今收監サレテ居ルデアリマス、廳テ司法官ノ手ヲ以テ其黑白ハ天下ニ明ニナルデアリマス、斯ウ云フヤウナ事柄ハ最早廳テ明ニナルデアリマスカラ、貴重ナル——此議員諸君ガ貴重ナル時間ヲ費ス必要ハナイト思ヒマスルガ、既ニ斯ル動議ガ出タ以上ハ、無論之ヲ明ニスルト云フコトハ、吾々ハ賛成スルデアリマス、私ハ重ネテ申上デマスル、此事柄ハ天知ル、地知ル、人知ル、神明ニ誓テ事實無根ナルコトヲ申上デマス

○議長(粕谷義三君) 次ニ三木武吉君

(三木武吉君登壇)

○三木武吉君 只今問題ニナッテ居リマスル松島遊廊ニ關スル事件ニ付キマシテ、濱田君ノ御説明ノ中ニ私ノ姓名ガ掲ゲラレタヤウデアリマシタガ、元來斯ノ如キ身上ニ關スル事案ガ衆議院ノ問題ニナリマシタ場合ニハ、常ニ其當事者ハ身上ノ辯明ヲ致スコトガ慣例ノヤウデゴザイマスアレドモ、私ハ松島遊廊事件ナルモノニ關シテ、關係ナキノミナラズ、未ダ會テ——未ダ會テ松島遊廊移轉ト云フヤウナ事件ノ存在シテ居ルコトスラモ、承知ヲ致シテ居ラナカッタノデアリマス、隨テ多少デモ其事件ニ御關係ニナッタクコトアル岩崎君ノヤウナ御方ナラバ、御辯明ヲ爲サル必要ガアルカモ知レマセヌカ、全然之ニ關知セザル私ハ、其辯明ヲ致ス必要モナイト確信ヲ致シマスルカラ、其辯明ヲ致シマセヌト云フコトヲ皆サシニ申上ゲテ置キタイト思ヒマス(拍手)尙ホ終リニ臨ミマシテ、私ハ先輩濱田君並ニ政友會ノ諸君ニ感謝ノ意ヲ表シマス、諸君ガ查問會ニ付スルノ動議ノ御提出ヲシテ下サラナカッタナラバ、或ハ疑雲ハ私共ノ身ヲ掩フカモ分ラナカッタ、幸ニ御深切ナル濱田君及政友會ノ諸君ガ、此動議ヲ御提出下サイマシタ結果、遠カラス吾々ハ毫モンレニ關係ノ無イト云フコトガ明白ニナル機

會ガアルト存ジマシテ、重ネテ政友會ノ諸君ニ私ハ御禮ヲ申上デマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 箕浦勝人君

(箕浦勝人君登壇)

○箕浦勝人君 濱田君ノ御提案ノ中ニ、私ガ何カ土地ノ檢査ノ爲ニ行クコト云フコトガアリマシタ、今朝ノ新聞ニモ左様ナ事ガ見エテ居リマス、土地ノ檢分ヲスル爲ニ大阪ニ參ッテ、此事ニ付キマシテハ事實ヲ辯護スル必要ガアルト思ヒマス、昨年ノ四月カ五月頃デアッタト思ヒマス、私ガ郷里ヘ歸ル途中、大阪カラ船ニ乗ッテ歸ル、ソレデ朝汽車中デ同行者ト、懇意ナ人デ而モ大阪ノ事情ヲ非常ニ詳シク知ッテ居ル人デ、頻ニ此大阪ノ近來ノ發展ノ事情ヲ細カニ説イテ色話ガアッテ、其末遂ニソレデハ今日ハ朝著イテ船ノ出ルマデ多少ノ時間ガアルカラ、一ツ大阪ノ周圍ヲ一巡シテ見ヤウデハナイカト云フ議ガ起ッタ、ソレデ自動車ニ乗ッテグルト廻ッタコトガアリマス、然ル所其遙カ後デアリマス、或他ノ人カラ何デモ此ガ土地ノ恩威ノ目的ヲ以テ、土地ヲ騰ゲル爲ノ宣傳ノ道具ニ使ハレタト云フ形ガアルト云フコトヲ知ラシテ來タコトガアリマシタ、併ナガラソレナリニ過シテ居リマシタノデスガ、詰リ今御話ニナッタ事柄ハ、全ク其事ニ關係シタコトデアラウト思ヒマスカラ、其事ヲ辯明シテ置キマス

○議長(粕谷義三君) 採決ヲ致シマス、濱田君ノ動議ハ、松島遊廊移轉問題ニ付テ政務官及議員ノ行動ヲ調査致シタイ、而シテ其調査ハ議員梅田寛一君ノ行動ニ關スル調査ノ件ノ委員ニ、併セ付託シタイト云フ所ノ動議デアリマス、此動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ハ可決セラレマシタ

○作間耕逸君 殘餘ノ日程ニ對シテ延期ノ動議ヲ提出致シマス

(「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 作間君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマ

シタ、次回ノ日程ハ追テ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後六時十二分散會

衆議院議事速記第十一號中正誤

頁 段 行 誤 正

二六 三 一 十二日 十七日

同 同 對馬丸 對馬丸

同 同 對馬丸 對馬丸

衆議院議事速記第二十號中正誤

頁 段 行 誤 正

五二 三 一 一七 短線 短縮線

衆議院議事速記第二十二號中正誤

頁 段 行 誤 正

五六 七 一 三八 原一 源一

六〇 二 一 三九 里能 黑龍

